令和５年度
（２０２３年度）

講義要項

農学ビジネス学科

保　育　学　科

拓殖大学北海道短期大学

保育学科

【基礎（教養）科目】

キャリアスキル・・・146
日本国憲法・・・147
学問と人生・・・148
総合芸術・・・149
英語（国際コミュニケーション）・・・150
パソコン入門・・・151
体育講義・・・152
体育実技・・・153

【専門科目】

保育原理・・・154
教育原理・・・155
子ども家庭福祉・・・156
社会福祉・・・157
子ども家庭支援論・・・158
社会的養護Ⅰ・・・159
保育者論・・・160
保育と教育の心理学・・・161
子ども家庭支援の心理学・・・162
子どもの理解と援助・・・163
子どもの保健・・・164
子どもの食と栄養・・・165
教育課程総論・・・166
保育の計画と評価・・・167
保育内容総論・・・168
保育内容Ⅰ（子どもと環境）・・・169
保育内容Ⅱ（子どもと人間関係）・・・170
保育内容Ⅲ（子どもの健康）・・・171
保育内容Ⅳ（子どもの言葉）・・・172
保育内容Ⅴ（子どもの音楽表現）・・・173
保育内容Ⅵ（子どもの造形表現）・・・174
保育内容Ⅶ（子どもと文化）・・・175
領域環境・・・176
領域人間関係・・・177
領域健康・・・178
領域言葉・・・179
領域音楽表現・・・180
領領域造形表現・・・181
幼児教育の方法と技術・・・182
教育相談・・・183
ピアノ表現Ⅰ・・・184
ピアノ表現Ⅱ・・・185
乳児保育Ⅰ・・・186
乳児保育Ⅱ・・・187
子どもの健康と安全・・・188
障害児保育・・・189
特別支援教育・・・190
社会的養護Ⅱ・・・191
子育て支援・・・192
幼児体育・・・193
特別研究・・・194～195
専門研究・・・196～197
造形表現研究Ⅰ・・・198
造形表現研究Ⅱ・・・199
造形表現研究Ⅲ・・・200
造形表現研究Ⅳ・・・201
身体表現演習Ⅰ・・・202
身体表現演習Ⅱ・・・203
身体表現演習Ⅲ・・・204
身体表現演習Ⅳ・・・205
音楽表現研究Ⅰ・・・206
音楽表現研究Ⅱ・・・207
音楽表現研究Ⅲ・・・208
音楽表現研究Ⅳ・・・209
保育実践演習・・・210
保育実習Ⅰ・・・211
保育実習指導Ⅰ・・・212
保育実習Ⅱ・・・213
保育実習Ⅲ・・・214
保育実習指導Ⅱ・・・215
保育実習指導Ⅲ・・・216
教育実習（実習）・・・217
教育実習（指導）・・・218
保育・教職実践演習（幼稚園）・・・219

科目名	キャリアスキル	教員名	秋月・穴水 玉木・横関	開　講	保育学科	１年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本授業は，保育にかかわる社会問題の考察や社会調査の実践を通して，保育の社会的意義・目的，保育者に求められる資質・能力等について多角的に考え，自らの課題を明確にしたうえで，対人専門職としての将来に向けて必要と考えられる基礎的な資質・力量を得ることを目的とする。その際，本学科で開講されている様々な専門科目との連関を意識して授業を展開する。また同時に，社会生活を送るうえで必要と考えられる一般常識・マナーや文章表現能力を身に付けることを目指す。

到達目標は以下のとおりである。

・保育という営みについて多角的に考え，自らの課題を明確にし，その興味・関心・適性に合ったライフプランを立てることができる。
・新聞記事や新書等の読解を通し，保育をめぐる問題に対し自ら問題意識を持ち，社会調査の実施等を通して情報を収集し，自分の考えをレポートにまとめることができる。
・保育・教育実習，就職活動の際に必要な文書等を適切に作成することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑧成長・雇用

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位，授業回数：３０回］

［前期］

1．大学生活ガイダンス①：カリキュラム説明
2．大学生活ガイダンス②：履修指導
3．保育の現場で使用される漢字の学習
4．保育の現場で使用される基礎・専門用語の学習
5．学生生活で役立つパソコンスキル①（Active mail）
6．学生生活で役立つパソコンスキル②（Teams）
7．保育現場で役立つパソコンスキル①（word①）
8．保育現場で役立つパソコンスキル②（word②）
9．保育現場で役立つパソコンスキル③（excel）
10．保育現場で役立つパソコンスキル④（ppt）
11．保育をめぐる問題について考える①：新聞記事
12．保育をめぐる問題について考える②：新書
13．社会人としてのマナー・作法①
14．社会人としてのマナー・作法②
15．自己課題の総括①
　：前期の反省と後期の学習計画の作成

［後期］

1．大学生活ガイダンス③：履修指導など
2．保育における行事の計画の立案①：資料収集・視察
3．保育における行事の計画の立案②：計画の作成
4．保育における行事の計画の立案③：計画の発表
5．保育にかかわる資料・文献の検討①：資料収集・読解
6．保育にかかわる資料・文献の検討②：レポート作成
7．保育にかかわる資料・文献の検討③：レポート発表
8．社会調査の実施と結果の分析①：テーマ決定
9．社会調査の実施と結果の分析②：調査の実施
10．社会調査の実施と結果の分析③：調査結果の分析
11．社会調査の実施と結果の分析④：結果の発表
12．２年次への準備学習①：就職活動について
13．２年次への準備学習②：２年次カリキュラムの説明
14．２年次への準備学習③：学習活動の計画・立案
15．自己課題の総括②
　：１年間の反省と２年次の学習計画の作成

Ⅲ．講義の進め方

前期は，保育・教育実習の際に作成を求められる様々な文書の構成や作法について学ぶとともに，保育について書かれたさまざまな形式の文章を読解することで，保育という営みの社会的な位置づけを理解できるようにする。後期は，資料・文献の検討や社会調査の実施等をとおして，自らの問題意識に迫り，レポートを作成・発表する機会を持つ。これらをとおして，次年度以降の学習活動における自己の課題を明確にする。併せて，就職に向けての情報収集や活動の準備も適宜行う。また，一部の授業回を遠隔（Microsoft Teams、ZOOM など）で開講する場合がある。

Ⅳ．試験と成績評価

基礎用語・漢字テスト（20%）、提出物（40%）、レポートと発表の内容（40%）

Ⅴ．授業外学修

【事前事後学習】保育現場で使用される基礎用語や漢字テストは入学前に配布されたプリントから出題されるため，事前学修をしておくこと。本授業では，パソコンを使用して取り組む課題が頻繁にあるため，タイピング練習をしておくこと。レポート提出や授業外での発表資料作成などが求められるため，Word，Excel，PowerPoint の使用は慣れるよう練習すること。

Ⅵ．使用教材

教科書　：使用しない。
参考書　：使用しない。
必要に応じて資料を配付するが，他の講義で使用した教科書を適宜活用することがある。

科目名	日　本　国　憲　法	教員名	小林（こばやし）　秀高（ひでたか）	開　講	保育学科	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

憲法の役割は，国の権力に制限を課し、国民の生活を守ることである。この考え方を立憲主義という。憲法の基本原則の一つである「基本的人権の尊重」は幼児教育や福祉政策、子育て支援などに密接に関わる分野であり、それらの制度デザインや予算の配分にも影響をおよぼしている。

本講義では、第一に、立憲主義憲法の基本的な考え方を理解すること、第二に日本国憲法に関する基本的な知識を身につけること、第三に現代の社会問題と憲法の関わりについて理解することを目標とする。講義は個別的な事例をもと進めるが、何をどう考えればよいのかという思考方法を身につけることを重視する。

到達目標は以下のとおりである。

・日本国憲法における基本的人権の内容を理解できる。
・日本における福祉政策の必要性と役割について基本的な知識を身につける。
・日本における法律や予算の形成過程と、福祉予算に関する基礎的な知識を身につける。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

⑩不平等　①貧困　⑤ジェンダー　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．ガイダンス　：なぜ憲法か
2．社会科学の考え方
3．概念と歴史１：憲法とはなにか
4．概念と歴史２：人権成立の歴史
5．概念と歴史３：人権に限界はあるのか
6．概念と歴史４：新しい人権の考え方
7．概念と歴史５：日本国憲法の成立
8．平等と基本的人権１：職業と性別
9．平等と基本的人権２：ポジティブ・アクションと平等
10．平等と基本的人権３：婚姻と社会
11．平等と基本的人権４：貧困とその影響
12．統治機構論１：国家財政と民営化
13．統治機構論２：選挙と予算の配分
14．統治機構論３：子育て支援の予算はなぜ増えないのか
15．統治機構論４：自衛隊の役割

Ⅲ．講義の進め方

講義形式で行うが、必要に応じて資料映像などの視聴も行う。また、受講者に発言を求める。基本的には基礎的な知識を理解することを重視する。講義回ごとに、講義内容のポイントを確認するリアクション・ペーパーを提出し、知識の確認をおこなう。講義の一部は遠隔で実施する場合もある。

Ⅳ．試験と成績評価

各講義のリアクション・ペーパー（100%）によって評価する。また、授業の中間で任意提出のレポート課題を出す。

Ⅴ．授業外学修

講義毎に提出するリアクション・ペーパーの内容は次の講義の際に解説をする。提出後次の授業までに課された内容を調べておくことが復習および予習となる。欠席した授業回についてはBlackboardを確認しリアクション・ペーパーの内容を必ず確認しておくこと。参考書は講義中に出てくる条文を確認するために使用するため、憲法の全文が掲載されていれば指定のものでなくてよい。

Ⅵ．使用教材

教科書　：特定の教科書は使用しない。
参考書　：学術文庫編集部、2013.『日本国憲法 新装版』（講談社学術文庫）

科目名	学　問　と　人　生	教員名	橋本（はしもと）　信（まこと）	開　講	保育学科	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

学問は人間が自己と世界を総体的に把握しようとする知の営みである。この授業では、人間として生きる上で関わる多様な物事を根本から把握する思考へ向かうことによって、それぞれの人がいろいろな物事や様々な人々に対して開かれたあり方に向かうことを目指している。

この授業の対象は特定されていない。そこで、保育者を志す人間として考えておくべき事柄を、受講者の要望を最大限に生かすかたちでいろいろな角度から取り上げ、開かれた精神で一緒に考えていきたい。

到達目標は以下のとおりである。

・論理的思考の基礎的力量を備える。
・生命・人間・社会についての基本的な理解力を備える。
・十分な根拠に基づいた主張を展開することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①　貧困　②飢餓　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．「学問と人生」とは？～この授業で何をするのか？
2．人間とは
3．人間関係とは
4．現代の人間関係とは
5．社会とは
6．現代社会とは
7．現代社会で生きるとは
8．自然とは
9．生命的自然とは
10．生命とは
11．人間の自由とは
12．人間の権利とは
13．子どもの権利とは
14．発表会事前相談会
15．発表会兼意見交換会

Ⅲ．講義の進め方

対話型の講義を目指し、授業時の質疑応答や自由な討論を重視するが、とりわけ学生各自の興味・関心を中心に授業内容を柔軟に工夫する。最終的にはそれぞれ各自が選んだテーマに基づいて、発表を行ってもらい、全員で発表に関する意見交換会を実施する。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、毎回の意見交換 90%、最後の意見交換会 10%という仕方で行う。詳細は授業時に説明する。

Ⅴ．授業外学修

次回授業の意見交換の課題を明確にするとともに、授業時の意見交換によって新たに判明した事柄についての調査を協働で行う取組みを進める。これらによって各人の発表準備を効果的に進むようにする。

Ⅵ．使用教材

教科書　：指定しない

参考書　：『子育ての倫理学』加藤尚武著（丸善）、『子どもの危機をどう見るか』尾木直樹著（岩波書店）、『子どもの社会力』門脇厚司著（岩波書店）、『子どもの発達　子どもの権利』堀尾輝久著（童心社）、『里山っ子が行く!』斉藤道子著（農山漁村文化協会）、『生命の奇跡』柳澤桂子著（PHP 新書）、『いのちの使い方』日野原重明著（小学館）

科目名	総　合　芸　術	教員名	各専任教員 前田・藤井	開　講	保育学科	１年次	集　中

Ⅰ．目的と内容および到達目標

総合芸術（ミュージカル）は39年の実績と伝統に支えられた本学保育学科の特徴的講座である。本講座では、指導力・企画力・協調性・忍耐力・集中力など、様々な人間力を育み、感動の涙を自ら体験することを第一の目標としている。

自己飛躍のために、学生個々が最大限の努力をもって送る日々。通常形態の授業では伝えられない多くのことを学生諸君は自ら学習してくれるものと確信している。学生時代にしか体験できない貴重な思い出を創ってもらえれば幸いである。なお、過去の公演映像等は本学ホームページにて鑑賞できるので、参考にしてもらいたい。

到達目標は以下のとおりである。

・活動当初に定めた自己到達目標達成のため努力をすることができる。
・集団活動での責任感や協調性、主体性などを常に意識して活動することができる。
・所属セクションでの役割を最後までやり遂げることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑧成長・雇用　⑫生産・消費　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業週数：集中］

公演日は2024年２月中旬を予定。

以下のような活動分野があり、それぞれの活動計画によって後期（9月下旬）より制作が進められる。

＜制作スタッフ＞

1　キャスト
2　音響
3　舞台美術（大道具・小道具）
4　衣装
5　舞台監督部

＜事務局スタッフ＞

1　総務　会計
2　広報渉外

保育学科全専任教員の他、以下の非常勤講師が指導にあたる。

前田順二　講　師　演技指導
藤井綾子　講　師　衣装製作指導・ダンス指導

※その他、舞台製作アドバイザー・衣装製作アドバイザーを置く。

Ⅲ．講義の進め方

実際には、10月上旬から２月中旬の公演日に向けて活動する。
通常授業期間中の活動は原則として月・金（16:00～17:20）土曜（9:10～16:00）。
なお、土曜日、休暇期間の活動は授業外時間（課外）活動となっている。
休暇期間を利用した活動は、日曜祭日を除く平日(9:10～16:00)。ただし、年末年始の活動は例年行わない。

Ⅳ．試験と成績評価

試験は実施しない。成績評価は活動実践（90%）及び活動記録シート（10%）で行う。

Ⅴ．授業外学修

活動の成果を積み上げながら進めるので、毎回とも準備に労苦を惜しまず、計画的・積極的に休むことなく参加することが求められる。準備は授業時間だけでは不足する場合があるので、部署ごとに必要に応じて授業外にも取り組むことが大事である。

Ⅵ. 使用教材

教科書：台本や楽譜など、必要な資料は、授業で配布する。
参考書：毎年、活動過程・公演を収録したＤＶＤが製作されるので参考にして欲しい。

科目名	英　　語 (国際コミュニケーション)	教員名	ウォング・スッピン 森永　治之介	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本講座の目的は、英語が苦手と感じる学生でも楽しく英語にふれつつ、実用的で保育の現場でも使用できる英語を身につけることである。そのために、あいさつや時間の表現など日常生活で使用する英語表現、英語の子どもの歌や、保育に関わる英語表現の学習と練習を行う。受講生は、外国人講師と日本人講師の授業を各班１学期ずつ受講し、英語学習の２つのアプローチを体験する。外国人講師の講座では、ネイティブ話者と可能な限り英語のみにより接することで積極的に英語を使う姿勢を養い、幼稚園の遊具の名称などの簡単な事柄を理解し使用できるようになることを目指す。日本人講師の講座では、英語習得のためにあえて日本語を介することの大切さも学び、コミュニケーション・ツールとしての英語の考察を行う。欧米的なものの観方・考え方に接するため、洋画・洋楽の鑑賞も積極的に行う。

到達目標は以下のとおりである。

・あいさつ・自己紹介など、日常生活で用いる簡単な英語表現を理解し、自らも発話することができる。
・海外の童謡および日本の童謡・映画の主題歌（英語翻訳版）などを暗唱することができる。
・保育に関わる簡単な英語表現（遊具や育児の道具の名称、遊び動作を表す表現など）を理解し用いることができる。
・英和辞典を用いて未知の英語表現の意味や語法を確認し、日本語に訳すことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①貧困　③保健　④教育　⑧成長・雇用

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業週数：３０回］

［前期］（スッピン担当期）

1．First Step to Childcare English（教科書１章）
2．Welcome to Minato Nursery School!（教科書２章）
3．Time and Numbers（教科書３章）
4．Directions（教科書４章）
5．Davy Meets His Classmate Takashi（教科書５章）
6．Dropping Davy Off & Picking Him Up（教科書６章）
7．Jobs at Nursery School（教科書７章）
8．Lunchtime（教科書８章）
9．Toilet Dialog（教科書９章）
10．Fighting（教科書１０章）
11．Injuries and Illnesses（教科書１１章）
12．Telephone Calls（教科書１２章）
13．Field Trip（教科書１３章）
14．Baby Care（教科書１４章）
15．Graduation（教科書１５章）

（B シフトは前期と後期が逆になる）

［後期］（森永担当期）

1．オリエンテーション、あいさつと自己紹介の表現
2．How Are You?　You はどう訳す？
3．コミュニケーション：英語と日本語の違い
4．Why do we learn English? 保育士の場合
5．英和辞典の使い方(I)：動物の名前
6．英和辞典の使い方(II)：複数の意味を持つ単語
7．英和辞典の使い方(III)：複数の意味を持つ表現
8．Life Goes On ： 毎日が本番
9．Curly Sue 洋画に見る子供と貧困問題
10．趣味の表現
11．アメリカ雑学　Where is New York City?
12．実用英語（I）道案内
13．実用英語（II）時間の表現
14．カタカナ英語と Engrish
15．コミュニケーション・ツールとしての英語

Ⅲ．講義の進め方

教科書及び配布資料に沿って耳（聴く）・口（話す）・目（読む）・手（書く）の全技能を総合的に訓練する。
個人作業、ペア作業、グループ作業を随時取り入れる。また、一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。

Ⅳ．試験と成績評価

学期ごとの評価は、スッピン担当期：スピーキングおよび筆記小テスト（60%）、定期試験（40%）；　森永担当期：スピーキングおよび筆記小テスト（60%）、課題レポート（20%）、定期試験（20%）、とする。成績評価（通年）は前期と後期の平均とする。

Ⅴ．授業外学修

教科書・配布プリントから、授業の進行に合わせて予習範囲を随時指示しますので、一通り読んでから授業に参加してください。重要表現を定着させるためには復習が大切です。小テストを頻繁に行いますので、試験範囲の語句・英文の暗記学習には特に積極的に取り組んでください。

Ⅵ．使用教材

教科書：『保育の英会話 Childcare English』赤松直子・久富陽子共著　萌文書林
英和辞典必須（書籍辞書または電子辞書を用意すること；中学・高校で使用したもので十分である）

科目名	パ ソ コ ン 入 門	教員名	任（にん） 捷（しょう）	開 講	保育学科	１年次	後 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

近年、私たちの身のまわりでは、IT 化が急速に進展している。パソコンなどの情報通信機器は、電子メールやウェブの閲覧、コンテンツのダウンロードなど、仕事や個人的なことに毎日のように利用している。保育現場でも ICT システムを導入され、保育士の業務負担を軽減し、本来の保育業務に集中してもらうため、ICT（情報通信技術）化が進んでいる。

本講義は、コンピュータの仕組みと情報通信技術の基礎を学び、さらに Word・Excel・PowerPoint のパソコンソフトを通して実務に応用する能力を習得し、保育の質向上に繋がる ICT―保育の能力を養成する。

到達目標は以下のとおりである。

・パソコンソフトの概念と基本操作を理解し、目的に応じてパソコンソフトの機能を選択して利用できるようになる。
・ワープロ(Word)・表計算（Excel)・プレゼンテーション（PowerPoint）などの機能と操作の基本を理解し、レポートに活用できるようになる。
・インターネットの基本的な利用法も理解して、インターネットを介した情報の送受信ができるようになる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑤ジェンダー　⑰実施手段

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．コンピュータ環境（リテラシー編、パソコン室，ログイン，セキュリティ，身近にある守秘義務、データの紛失)
2．遠隔教育システム（e-learning システム，Web メールシステム、メールの送り方と基本的なマナー)
3．PC 操作の基本
4．Word の基本操作、日本語の入力
5．文書の作成 、表の作り方の基本
6．図や表の入った文書の作成の基本
7．レポートの作成、テキストボックスや段組みなど、総合的な Word の使い方とレイアウト
8．Excel の基本と特徴
9．Excel の表計算
10. Excel の統計処理
11. Excel の便利な機能
12. PowerPoint の基本と特徴
13. 図・イラスト・表の配置やレイアウト
14. 写真や動画のスライドショーの作り方
15. 総合演習

Ⅲ．講義の進め方

実際にパソコンを操作しながら実習を行う。さらに、e-learning システムを活用し予習と復習をしながら理解を深める。コンピュータサービス技能評価試験（能力開発協会)、Ｐ検、IT パスポート試験等の資格取得を目指す。

Ⅳ．試験と成績評価

知識と技能の習得が重要であるため評価は課題レポートを中心とし、さらに、提出物や学習態度等も考慮する。また、上記の資格試験に合格した学生はそれを成績の一部に考慮する。

・課題レポート 80%　・授業への参加（意欲・発表）20%

Ⅴ．授業外学修

本科目で使用する教科書は予習と復習にも十分に使える内容となっている。ネット上に無料のタイピングソフトが数多くあるので、それらを利用してタイピンクの上達と継続的に自己学習を行うことを望む。そして授業内容とテキストの内容を良く理解する事が大切である。また、可能な限り上記の資格試験を受験する。

Ⅵ．使用教材

教科書　：『これからの保育のための ICT リテラシー＆メディア入門　Word・Excel・PowerPoint・動画編集』
渡邉 裕 編（(株)みらい）

科目名	体　育　講　義	教員名	秋月（あきづき）　茜（あかね）	開　講	保育学科	２年次	後 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

世界で最も長寿である我が国において、今後を担う世代が健康でより豊かな生活を営むために、身体にかかわる基礎知識を理解することは重要なことである。また、子どもにとってさまざまな運動遊びが社会生活の変化に大きく影響しているということを踏まえ、運動遊びの必要性を認識できるようにする。

到達目標は以下のとおりである。
・自分自身の身体の基礎知識や体力について理解することができる。
・こどもの健康や発達に対しての運動遊びを理解することができる。
・運動遊びや運動、スポーツを楽しめる工夫を生み出せる思考を作る。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育　　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：８回］

１．ガイダンス・健康について
２．遊び・運動・スポーツの意義
３．運動・休養と健康・こころの健康
４．喫煙・飲酒・薬物乱用と健康
５．トレーニングとその原則・屋外遊びについて
６．屋外遊び（1）
７．屋外遊び（2）
８．遊び・運動・スポーツの重要性とその理解

Ⅲ．講義の進め方

パワーポイントを使用して講義室にて進行する。ただし必要に応じて体育館あるいは屋外にて講義を行う。
各自ノートなど、まとめられるものを用意すること。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験（50%）、授業ごとの小レポート（30%）、授業中の発言や参加態度など取り組みの様子（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】各テーマに関してこれまで学んだことを振り返る、気になったことについて調べておくなどする。
【事後学修】授業後に授業で学んだ内容をまとめてノートを作成する。

Ⅵ．使用教材

・必要に応じて資料を配布する。

科目名	体　育　実　技	教員名	秋月（あきづき）　茜（あかね）	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

教員養成課程の学生が共通に身に付けるべき基礎的な知識・技能の習得を目的とする。実施する運動を通して、自らの体力・健康と運動との関連を理解して生涯にわたって運動・スポーツに積極的にかかわる態度を養うとともに、コミュニケーション能力の習得やスポーツ傷害への認識、応急手当てに関する知識と技能を身に付け、教員として子どもたちの指導に必要な基礎的知識や技能の習得を目指す。

到達目標は以下のとおりである。
・遊びやスポーツ、運動の楽しさの重要性を理解する。
・健康や体力向上にとって、スポーツや運動が重要であることを理解できる。
・スポーツのルールを理解し、安全に配慮しながらゲームを進めている。
・体育実技を通して仲間とのコミュニケーション能力や表現力を身に付けることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：２３回］

［前期］
1．ガイダンス
2．コーディネーショントレーニング・運動遊び
3．ミニバレー①
4．ミニバレー②
5．バレーボール①
6．バレーボール②
7．バドミントン①
8．バドミントン②
9．バスケットボール①
10．バスケットボール②
11．卓球①
12．卓球②
13．障がい者スポーツ
14．ニュースポーツ①
15．ニュースポーツ②

［後期］
1．コーディネーショントレーニング・運動遊び
2．なわとび①
3．なわとび②
4．跳び箱運動①
5．跳び箱運動②
6．マット運動①
7．マット運動②
8．運動実践発表

Ⅲ．講義の進め方

主に体育館で授業計画に沿ってさまざまな遊び・スポーツ・運動を行う（屋外を使用する場合もある）。
グループ活動による取り組みや実技発表を実施する回を設ける。

Ⅳ．試験と成績評価

実技テスト（50%）、実技への積極的なかかわりなど授業の取り組み状況（40%）、ミニレポート（10%）
遅刻 2 回で欠席 1 回分の取り扱いとする。また、授業開始から 30 分が経過しても出席が認められない場合は欠席の取り扱いとする。

Ⅴ．授業外学修

【事前事後学修】日頃から、規則正しい生活習慣を心がけるとともに、健康・スポーツに関するトピックスについて関心を持つように努めること。また、柔軟性をあげるためのストレッチや基本的な技能を遂行するために必要な筋力をつけるためのトレーニングに取り組んでおくこと。

Ⅵ．使用教材

・必要に応じて資料を配布する。

科目名	保　育　原　理	教員名	横関（よこぜき）　理恵（りえ）	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

少子化の到来に加え,子どもが育つ家庭や地域の環境が急激に変化している今日,保育への期待は社会的にも益々高まっている。また，平成30年より改定保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領，幼稚園教育要領（以下,「保育指針等」と略記）が実施されており，保育の現場は，変化の中にある。こうしたなかで保育者は，就労家族を支援するのみならず,乳幼児期の子どもの最善の利益の確保を目指し,権利保障の観点,格差是正の観点を持つことが重要である。そのためには，保育者は,現行の保育制度を十分に理解したうえで，保育の理念および基本的な知識を身に付け，向き合わねばならない課題を正確に捉え，自ら解決する力が必要である。こうした力量を身に付けられるようになることが，本授業のねらいである。

授業ではまず，保育指針等をもとに，現行の保育制度と法規等について十分に理解したうえで，保育の理念・概念，保育思想の歴史的変遷，保育内容や方法についての基本的な知識を身に付ける。さらに，具体的な事例を用いて，国内外における子育ての現状と課題を把握し，その解決方法を考察する。

到達目標は以下のとおりである。

・保育所保育指針等を読解し，そのなかで示されている保育の基本について理解し，説明することができる。
・保育の意義及び目的，保育に関する法令及び制度について理解し，説明することができる。
・保育の思想と歴史的変遷について理解し，説明することができる。
・現在の保育と子ども，子育てにおける課題を把握し，その解決方法について考察し，意見を述べることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑤ジェンダー　⑩不平等

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．オリエンテーション：保育の理念と概念・保育の倫理とマインド・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 1 講)
2．保育の意義と本質：保育の社会的役割と責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 2 講)
3．保育の法令と制度（1）：子ども・子育て支援新制度と保育に関わる関係法令・・・・・・・・・(教科書 第 3 講)
4．保育の法律と制度（2）：保育の実施体系/設置運営基準/支給認定/教育・保育給付・・・・・・(教科書 第 4 講)
5．保育所保育指針における保育の基本（1）：保育所保育指針の内容と展開等・・・・・・・・・・(教科書 第 5 講)
6．保育所保育指針における保育の基本（2）：保育の目標と方法/幼保小の接続等・・・・・・・・(教科書 第 6 講)
7．保育所保育指針における保育の基本（3）：乳児の保育/内容と計画と評価/配慮事項等・・・・・(教科書 第 7 講)
8．保育の内容と方法（1）１歳以上３歳未満児の保育：基本・内容・配慮事項等・・・・・・・・(教科書 第 8 講)
9．保育の内容と方法（2）３歳以上児の保育：資質能力・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿・(教科書 第 9 講)
10．子ども理解に基づく保育の過程（1）理論編：保育の環境構成・カリキュラム・マネジメント・(教科書 第 10 講)
11．子ども理解に基づく保育の過程（2）実践編：保育実践の記録方法、全体的な計画等・・・・・(教科書 第 11 講)
12．保育の思想と歴史的変遷（1）諸外国の保育の思想と歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 12 講)
13．保育の思想と歴史的変遷（2）日本の保育の思想と歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 13 講)
14．保育の現状と課題：諸外国の保育の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 14 講)
15．まとめ：日本の保育の現状と課題（待機児童問題・少子社会問題等）・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 15 講)

Ⅲ．講義の進め方

基本的には講義形式で進めるが，ひとつの事例について全員でグループディスカッションするなど，学習者それぞれが自分の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。

Ⅳ．試験と成績評価

筆記試験(90%),授業への参加状況(グループディスカッション／リアクションペーパーの内容,意欲・態度)(10%)

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】(120 分) Microsoft Teams で配信される事前学修小レポートに取り組み、次回の授業で提出すること。
【事後学修・次回事前学修】(120 分) 講義内容・グループワークを通して①学んだこと・考えたことをまとめ、②疑問に思ったこと等を記述した「リアクションペーパー」を Google Forms にて提出すること。
≪みなさんに期待すること≫子どもの最善の利益を実現するために大切にすべき保育観を育むために事前・事後学修に主体的に取り組むことを求めます。

Ⅵ．使用教材

教科書　：天野珠路他『保育原理』中央法規,
参考書　：西郷泰之・宮島清編（一般社団法人全国保育士養成協議会監修）
『ひと目でわかる　保育者のための児童家庭福祉データブック 2023』中央法規，2022 年
厚生労働省『保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）』フレーベル館，2018 年
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年 3 月）』フレーベル館，2018 年
文部科学省『幼稚園教育要領（平成 30 年 3 月）』フレーベル館，2018 年

科目名	教　育　原　理	教員名	横関（よこぜき）　理恵（りえ）	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

教育にかかわる問題が,家庭,学校,保育現場で毎日のように話題に上がる。しかし,改めて,「教育とは何か・どうあるべきか」と問われると答えに困ることがあるのではないか。この問いを改めて考えることは，将来，人間の成長・発達に関わる仕事に就く受講生にとって不可欠なことだと考える。本講義では,教育に関する基礎的知識を理解し，それを基盤として，よりよい教育・保育活動の実現に積極的に取り組むことのできるような力量を身に付けることをねらいとする。

国民の教育を受ける権利について規定している日本国憲法第 26 条を基盤に，教育の意義・目的，教育思想の歴史的変遷，教育制度について学習し，基本的な知識を身に付ける。またその際，子どもと保護者・家庭のウェル・ビーイングについて考え，その関連性を理解する。さらに，具体的な事例を用いて，学校・保育施設における教育実践のさまざまな取り組みや，学校・保育施設と家庭・地域における諸問題について学習し，その解決方策について考察する。

到達目標は以下のとおりである。

・教育の意義，目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解し，正しく説明できる。
・教育の思想と歴史的変遷について学び，教育に関する基礎的な理論について理解し，正しく説明できる。
・教育の制度について理解し，正しく説明できる。
・学校，幼稚園および保育施設における教育実践の様々な取り組みやそこでの課題について理解し，その解決方策を述べることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑩不平等　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位,授業回数：１５回］

［前期］

1．オリエンテーション：教育の意義等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 1 講)
2．教育の目的：教育理念と教育目的・教育目標等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 2 講)
3．乳幼児期の教育の特性：乳幼児の発達、「資質・能力」、「10 の姿」「非認知能力」等・・・・・・(教科書第 3 講)
4．教育と子ども家庭福祉との関連性：児童福祉法、幼保小連携・接続、育ちの連続性等・・・・・(教科書第 4 講)
5．人間形成と家庭・地域社会：教育基本法と保育所保育指針、家庭・地域社会と環境等・・・・・(教科書第 5 講)
6．諸外国の教育思想：ルソー、フレーベル、ペスタロッチ等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 6 講)
7．諸外国の教育の歴史：諸外国における公教育の発展、諸外国における幼児教育の発展等・・・・(教科書第 7 講)
8．日本の教育思想・歴史：江戸時代、明治期の幼児教育、戦後社会の変化と幼児教育等・・・・・(教科書第 8 講)
9．子ども観と教育観：近代的子ども観の登場と歴史的変遷とその展開、戦時体制下の幼児教育等・(教科書第 9 講)
10．教育制度の基本：教育に関する権利と法制度、教育格差問題、保育施設に保育保障と格差・・・(教科書第 10 講)
11．教育の法律と行政：教育を規定する法律、学校経営、学校評価、学校選択等・・・・・・・・・・(教科書第 11 講)
12．諸外国の教育制度：諸外国の教育問題―教育の格差と教育の質の向上等・・・・・・・・・・・・(教科書第 12 講)
13．教育実践の基礎：我が国の保育内容、保育方法、計画と評価、保育記録とカンファレンス・・・(教科書第 13 講)
14．さまざまな教育実践：フレーベル理論、モンテッソーリ理論、レッジョ・エミリアアプローチ等・(教科書第 14 講)
15．まとめ：生涯学習社会における教育の現状と課題：生涯学習の概念と基礎理論、教育政策等・・(教科書第 15 講)

Ⅲ．講義の進め方

本講義は,基本的には講義形式で進めるが，映像資料等を用い特定のテーマについて議論するなど，受講生それぞれが自分の考えや意見を述べる機会（グループディスカッション）を多く取りたいと考えている。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験（90%），ディスカッション,リアクションペーパーの内容・様子等授業への参加状況（10%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】（120 分）Microsoft Teams で配信される事前学修小レポートに取り組み、次回の授業で提出すること。

【事後学修・次回事前学修】（120 分）講義内容・グループワークを通して①学んだこと・考えたことをまとめ、②疑問に思ったこと等を記述した「リアクションペーパー」を Google Forms にて提出すること。

≪皆さんに期待すること≫

幼児教育や保育実践に関する理論や知識を習得するために、事前・事後学修に主体的に取り組むことを求める。

Ⅵ．使用教材

教科書　：矢藤誠慈郎『教育原理』中央出版
参考書　：授業の中で，適宜紹介する。

科目名	子ども家庭福祉	教員名	小銭（こぜに）　寿子（ひさこ）	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

社会福祉領域の中でも保育士養成の基盤となる子ども家庭福祉全般について学習する。
子ども家庭福祉の意義と理念、歴史的変遷を理解したうえで、現在の制度と実施体系について学習する。
さらに現在の子どもと家庭をめぐる課題や、地域社会や学校における様々な生活環境問題に焦点を当て、
子ども家庭福祉の現状と課題について学習し、今後の法制度の展開の動向や専門職が協働で行う支援の実際について理解することを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。
・現代社会における子ども家庭福祉の意義と理念、歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護について児童相談所や要保護児童対策地域協議会などの具体的取り組みを理解する。
・現在の子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
・子ども家庭福祉の領域、各種施設・事業サービスについて知る。
・各種施設・事業サービスにおける保育士の役割を理解する。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑧成長・雇用　⑩不平等　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］
1．オリエンテーション：社会福祉の領域としての子ども家庭福祉（教科書第１章）
2．子ども家庭福祉の意義・理念：人口減少時代の子ども・家族・子ども家庭福祉（教科書第１章）
3．子ども家庭福祉の歴史的変遷（教科書第２章）
4．子どもの人権擁護についての理解（教科書第１章３）
5．子ども家庭福祉の制度と実施体系①：法と関連法規（教科書第３章）
6．子ども家庭福祉の制度と実施体系②：子ども家庭福祉領域と各種施設・事業サービス（教科書第４章）
7．子ども家庭福祉の制度と実施体系③：子ども家庭福祉における専門職と保育士の役割（教科書第４章）
8．子ども家庭福祉の現状と課題①：少子化と地域子育て支援（教科書第５章）
9．子ども家庭福祉の現状と課題②：ひとり親家庭福祉と母子保健に関する保健医療福祉の連携（教科書第５章）
10．子ども家庭福祉の現状と課題③：制度としての保育問題、ケアサービスの多様化（教科書第５章）
11．子ども家庭福祉の現状と課題④：子ども虐待の発生防止とDV防止への支援（教科書第６章）
12．子ども家庭福祉の現状と課題⑤：社会的養護（児童養護施設、里親制度）（教科書第６章３）
13．子ども家庭福祉の現状と課題⑥：障がい児支援における医療保健福祉・教育の連携（教科書第６章４）
14．子ども家庭福祉の現状と課題⑦：非行少年等への支援と教育・司法・社会機関の連携（教科書第６章５）
15．子ども家庭福祉の現状と課題⑧：貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への支援・対応（教科書第６章６）

Ⅲ．講義の進め方

適時、保育に関する資料や子育て家庭に関する時事問題、事例等も取り入れて展開する。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、講義ごとのリアクションペーパー10%、レポート10%、定期試験80%の総合点を評価とする。

Ⅴ．授業外学修

実習経験や関係機関見学体験を踏まえて、教科書を読むなどの予習をしておくと理解が深まる。
新聞やニュースなどに関心を広げ、保育・子ども家庭福祉に関する視野を広げる事も有効である。

Ⅵ．使用教材

教科書　：「子どもと家庭の福祉を学ぶ＜改訂版＞」ななみ書房
参考書　：適宜、関係する範囲のプリントを配布

＊実務経験のある教員による授業科目［実務経験と授業との関係］

担当教員は、ソーシャルワーク（PSW／MSW／SSW）の実務経験並びに母子生活支援施設心理相談員、放課後児童支援員経験を有し、当該科目における子どもと家庭をめぐる課題や生活環境問題に焦点を当て、子ども家庭福祉の現状と課題について教授します。

科目名	社　会　福　祉	教員名	小銭（こぜに）　寿子（ひさこ）	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本授業では、社会福祉とは何かについて概括的に学習する。まず、現代社会における社会福祉の意義と、海外・日本における歴史的変遷と現在の動向について理解する。次に、支援対象に応じた領域ごとに、社会福祉の法制度の枠組みと実施体系、現在の課題について学習する。さらに、利用者の権利擁護や相談援助の理論と技術について理解を深める。特に、社会福祉における子ども家庭支援についての重要性を認識し、子どもと家庭をめぐるさまざまな課題を解決に導くことのできるような視点を身に付けることを目指す。

到達目標は以下のとおりである。

・現代社会における人々の生活課題と、社会福祉の意義や歴史的変遷、現代の動向について理解する。
・社会福祉の領域について理解し、社会福祉の法制度との関係について理解する。
・保育実践を含む社会福祉の援助実践（ソーシャルワーク）について理解する。
・社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①　貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑧成長・雇用　⑩不平等　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．オリエンテーション：社会福祉とは（教科書第１章１）
2．社会福祉の構造・価値・倫理と社会の変化（教科書第１章１）
3．社会福祉の歴史的変遷①（イギリス・アメリカ）（教科書第１章２）
4．社会福祉の歴史的変遷②（戦前／戦後の日本）（教科書第１章２）
5．社会福祉の歴史的変遷③（社会福祉の基礎構造改革・2000 年以降）
6．社会福祉を支える仕組み①（法体系・行財政・費用負担）（教科書第２章１）
7．社会福祉を支える仕組み②（社会保障及び関連制度）（教科書第２章２）
8．社会福祉の領域と現在の課題①（低所得者福祉・地域福祉・利用者保護制度）（教科書第２章２）
9．社会福祉の領域と現在の課題②（高齢者福祉―介護保険法）（教科書第４章２）
10．社会福祉の領域と現在の課題③（障がい者福祉―障害者総合支援法）（教科書第４章２）
11．社会福祉の領域と現在の課題④（子ども家庭福祉）（教科書第１章３）
12．社会福祉における相談援助①（ソーシャルワークの意義と機能）（教科書第３章）
13．社会福祉における相談援助②（ソーシャルワークの対象と方法、技術）（教科書第３章）
14．社会福祉の専門職（専門性・倫理綱領）（教科書第２章３）
15．まとめ：少子高齢社会における子育て支援

Ⅲ．講義の進め方

講義に際して適時、社会的な時事問題に関連した資料等を提示し、生活課題に取り組む社会福祉の現状を深める。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、レポート 10%、定期試験 80%、講義ごとのリアクションペーパー10%として合計点を総合して評価する。

Ⅴ．授業外学修

「授業計画」の教科書の指定された範囲を読み、生活事例を活用して理解を深めること。
授業の進行に合わせて予習範囲は適時指示いたします。

Ⅵ．使用教材

教科書　：「生活事例からはじめる　新版　社会福祉」青踏社
参考書　：適宜、プリントを配布

科目名	子ども家庭支援論	教員名	大和（やまと）　正枝（まさえ）	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

近年、保育所の利用児童数は０～２歳児を中心に増加し、子育てをめぐる地域や家庭の状況も変化している。核家族化、地域のつながりが希薄することによって、毎日の子育てに対する支援や協力が得られない状況がある。このような状況に伴い、子育の不安、孤立感が高まり、児童虐待の相談件数も増加し、社会問題となっている。

子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士はどのような姿勢や内容、実践するための方法や技術が必要になる。本授業では子育て家庭、子どもの生活環境や実際の生活状況を理解し、児童の最善の利益が尊重される支援を学ぶ。

到達目標は以下のとおりである。
・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する
・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する
・子育て家庭に対する支援の体制について理解する
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状課題について理解する

＜SDGｓｓ（持続可能な開発目標）との関連＞
①　貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑯平和　⑰実施手段

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］
１．子ども家庭支援の意義と必要性
２．子ども家庭支援の目的と機能
３．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
４．子育て家庭の福祉を図るための社会資源
５．保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
６．子どもの育ちの喜びの共有
７．保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
８．保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
９．家庭の状況に応じた支援
10．地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
11．子ども家庭支援の内容と対象
12．保育所等を利用する子ども家庭への支援
13．地域の子育て家庭への支援
14．要保護児童およびその家庭に対する支援
15．子育て支援に対する課題と展望

Ⅲ．講義の進め方

保育所保育指針・解説を活用する。
授業内容のプリント、参考資料等を使用し、進めていく。
（コロナ禍の状況を見て）課題に対してグループワークによる検討、発表する。演習課題の提出等。

Ⅳ．試験と成績評価

・授業参加状況（授業に取り組む態度・スマホ使用など）（１０％）
・演習課題提出（１０％）　期末レポート（８０％）

Ⅴ．授業外学修

・教科書は使用しないので、配布するプリントはきちんとファイリングすること。（演習課題の提出に必要）
・保育所保育指針は毎回持参し、「保育所保育指針」（「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」）の重要性を学んで欲しい。

Ⅵ．使用教材

教科書　：特になし。　適宜プリントを配布
参考書　：主に保育所保育指針　解説本

科目名	社 会 的 養 護 Ⅰ	教員名	宮川（みやかわ） 新治（あらたし）	開 講	保育学科	１年次	前 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

少子高齢化が進む現代社会の中で、子ども家庭福祉における社会的養護のあり方は重要視されつつある。

本授業では、まず、社会的養護の意義・理念と歴史的変遷について理解したうえで、社会的養護の制度と実施体系について学ぶ。次に、社会的養護の対象・形態、担い手である専門職の役割について学習する。その際に、現在の子どもたちの置かれている状況、現在の子どもを取り巻く生活環境の実態、課題・問題等について特に焦点を当てて学び、理解を深めることを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。

・現在、社会的養護に求められている社会的ニーズと、その歴史的変遷について理解している。
・子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について理解している。
・保護者と一緒に生活することができない子ども達等の事例について深く理解し、社会的養護の意義とその仕組みについて理解している。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．社会的養護の理念と概念
2．子どもの人権擁護についての理解
3．社会的養護の基本的原則
4．社会的養護における保育士等の倫理と責務
5．社会的養護の歴史的変遷
6．社会的養護の制度と実施体系①：社会的養護の制度と法体系
7．社会的養護の制度と実施体系②：社会的養護の仕組みと実施体系
8．現代日本の子ども家庭福祉の展開：家庭養護と施設養護
9．現在の社会的養護の対象・形態①：施設養護の基本原理
10．現在の社会的養護の対象・形態②：施設養護の特質と役割
11．現在の社会的養護の対象・形態③：子どもの自立支援経過
12．社会的養護を担う施設等の現状と課題①：乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
13．社会的養護を担う施設等の現状と課題②：情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設・自立支援ホーム
14．社会的養護を担う施設等の現状と課題③：里親制度、養子縁組制度
15．総括：現在、社会的養護に何が求められているか

Ⅲ．講義の進め方

社会的養護とは何なのか、ビデオやプリント等教科書以外の教材も活用して学生たちの理解を深めたい。

担当教員は、実際に児童養護施設に勤務しているので、体験談を含め、社会的養護で生活する子ども達の成長の様子と従事する職員に何が求められているのかが理解できるよう、具体的でわかりやすい授業を進めていきたい。

Ⅳ．試験と成績評価

講義終了後の課題レポート(80%)と、授業の参加状況（意欲・態度：20%）を合わせて評価する。

Ⅴ．授業外学修

「授業計画」に沿ってプリント（参考資料）を事前に配布するので、次回までに通読して授業に参加すること。読んだ上で生じた疑問や理解できなかった点を事前にノートに書きだして出席すると理解が深まります。

授業毎、振り返りを実施するので、前回の授業で生じた疑問や理解できなかった点もノートに書きだして出席してください。質問にお答えします。

Ⅵ．使用教材

教科書：『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』吉田眞理著　萌文書林

参考書：プリントを配布

＊実務経験のある教員による授業科目［実務経験と授業との関係］

担当教員は、児童養護施設勤務の実務経験を有し、当該科目における社会的養護の制度と実施体系および社会的養護の対象・形態、担い手である専門職の役割について教授します。

科目名	保　育　者　論	教員名	横関（よこぜき）　理恵（りえ）	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

人間形成の基礎を培う極めて重要な時期である子ども期に関わる保育者は，保育についての専門的な知識・技術を身に付けておく必要がある。また現在，保育施設および保育者に対するニーズはますます高まるとともに多様化しており，それに応えるためには，その専門性を常に最新のものに更新しておくことが重要である。ところで，保育の専門性とは具体的にはどのようなものだろうか？ この問いをベースに，本授業では，保育という専門職をさまざまな角度から捉え直し，学習者それぞれが自分なりの「保育者像」「保育観」を持ち，専門性を身に付けることをねらいとする。

授業では，保育所保育指針等をもとに，保育者の役割・職務内容とその基盤となる職業倫理，法規にもとづく保育者の位置づけについて理解する。とりわけ，保育者の資質・能力と専門性，キャリア形成については，学習者同士で議論しながら考察し，自分なりの考え・意見を述べる機会を多く設ける。さらに，保育者の専門性の向上に欠かせない，職場での連携・協働，さらに職場外のさまざまな職種・機関との連携・協働の重要性について学習する。

到達目標は以下のとおりである。

・保育者の役割と倫理，制度的な位置づけについて理解し，正しく説明できる。
・他のさまざまな専門職の特徴等を知り，それらの比較をとおして保育者の専門性について考察し，自分の意見を述べることができる。
・保育者同士あるいは職場外のさまざまな職種・機関との連携・協働と，保育者の力量・キャリア形成の関係について理解し，正しく説明できる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］

１．オリエンテーション：保育者の役割・職務内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 1 講)
２．保育者の倫理：専門的倫理・倫理要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 2 講)
３．保育者の資格と責務：保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資格とその要件、研修等・・・・・・・(教科書 第 3 講)
４．保育者の資質・能力：保育士・幼稚園教諭に求められる資質・能力・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 4 講)
５．養護及び教育の一体的展開：保育所保育の「養護」と「教育」、幼稚園の「教育」（５領域）・・・(教科書 第 5 講)
６．家庭との連携と保護者に対する支援：保育所等での子育て支援、地域の子育て支援等・・・・・(教科書 第 6 講)
７．保育者に求められる専門性（資質・能力）(1)：保育の計画と実践/記録と省察/評価・・・・・・(教科書 第 7 講)
８．保育者に求められる専門性（資質・能力）(2)：子ども理解と保育の質向上・・・・・・・・・・(教科書 第 8 講)
９．保育者に求められる専門性（資質・能力）(3)：保育における職員間の連携と協働・・・・・・・(教科書 第 9 講)
10．保育者に求められる専門性（資質・能力）(4)：専門職間及び専門機関との連携・協働・・・・・(教科書 第 10 講)
11．保育者に求められる専門性（資質・能力）(5)：地域社会との連携・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 11 講)
12．保育者に求められる専門性（資質・能力）(6)：関係機関等との連携・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 12 講)
13．保育者としての成長（1）：資質向上に関する組織的取組（同僚性の発揮と研修）・・・・・・・・(教科書 第 13 講)
14．保育者としての成長（2）：保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義・・・・・・・・・・・(教科書 第 14 講)
15．まとめ：現代社会の課題と保育者の専門性（リーダーシップ）・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書 第 15 講)

Ⅲ．講義の進め方

基本的には講義形式で進める予定だが，各々の意見を収集したりひとつの事例について全員でディスカッションしたりするなど，学習者それぞれが自分の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験(80%)，リアクションペーパー／レポート(10%)，ディスカッションの内容や様子等授業への参加状況(10%)

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】（120 分）Microsoft Teams で配信される事前学修小レポートに取り組み、次回の授業で提出すること。
【事後学修・次回事前学修】（120 分）講義内容・グループワークを通して①学んだこと・考えたことをまとめ、②疑問に思ったこと記述した「リアクションペーパー」を Google forms にて提出すること。
≪皆さんに期待すること≫保育士の専門性について理解を深めるために、事前・事後学修に主体的に取り組みましょう。

Ⅵ．使用教材

教科書　：矢藤誠慈郎『保育者論』中央出版
参考書　：厚生労働省『保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）』フレーベル館，2018 年
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年 3 月）』フレーベル館，2018 年，文部科学省『幼稚園教育要領（平成 30 年 3 月）』フレーベル館，2018 年

科目名	保育と教育の心理学	教員名	穴水（あなみず）　ゆかり	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本講義では、①発達心理学・教育心理学の知見を軸とした、乳幼児の身体的、認知的、社会的発達の特徴、②保育所保育指針改定の背景　③乳幼児保育の社会的役割・目的、④養護と教育の一体性をふまえた上で、乳幼児期の子どもの主体的な活動としての保育実践を行うために必要な知識、について説明する。また、そのために必要な工夫を具体的に考える。

到達目標は以下のとおりである。

・乳幼児期の月年齢に応じた子どもの身体的、認知的、社会的発達の特徴を説明できる。
・発達・学習に関する主要な理論について理解している。
・子どもの主体的な活動としての保育実践を行うために必要な知識を獲得し、そのために必要な工夫を具体的に考えることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　①貧困

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］

1. 保育と心理学（教科書・はじめに）
2. 胎児期・新生児期の特徴と発達（教科書・第１章 1-2）
3. 乳幼児のこころとからだ（教科書・第１章 3-6）
4. ことば、自己と自我、自己抑制の発達（教科書・第１章 12-13、第２章 1）
5. 道徳性　遊びの発達（教科書・第２章 5-6）
6. 自制心、心の理論の発達　やる気、社会情動的スキルを育てる（教科書・第２章 7-10）
7. ことばと文字、数の概念　早期教育　小１プロブレム（教科書・第２章 11-13）
8. 発達観、子ども観と保育観（教科書・第３章 1-2）
9. 「保育所保育指針」改定　子どもの発達と保育の環境（教科書・第３章 3、6）
10. 子どもを理解する方法　観察法・検査法による理解　保育の評価・省察と協同・対話（教科書・第３章 8-10）
11. 子どものこころの健康と生活環境（教科書・第４章 1）
12. 発達障害とは（教科書・第４章 2、4）
13. 気になる子どもとどうかかわるか（教科書・第４章 3）
14. 虐待を受けている子どもたち（教科書・第４章 5）
15. 強いストレスにさらされた子どもたち（教科書・第４章 6）

Ⅲ．講義の進め方

授業は講義と演習によって進める。スライドを中心として説明し、適宜、配布資料や映像資料などを用いる。

演習や周囲との意見交換には積極的に参加することを期待する。

なお、やむを得ず一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。また、授業の進捗状況により授業内容を減縮することはないが、授業回に伸縮等の変更が出る場合はある。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、定期試験（80%）及び提出物（20%）により行う。

演習については、提出物への記載内容を含む授業への取り組み状況によって評価する。

単位取得のためには、授業への出席を前提条件とする。

Ⅴ．授業外学修

授業前にはテキストを一読して、授業後は配布資料を読み直し整理しておくこと。

疑問点や理解できなかったことについては随時、質問を受けつける。興味のある内容については文献等によりさらに学びを深めてほしい。

Ⅵ．使用教材

教科書　：沼山博・三浦主博編著『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林
幼稚園教育要領（平成 29 年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成 29 年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省

参考書　：井戸ゆかり『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』（萌文書林）
神田英雄『はじめての子育て―育ちのきほん：０歳から６歳』（ひとなる書房）
赤木和重他『どの子にもあ～楽しかった！の毎日を』『「気になる子」と言わない保育―こんなときどうする？　考え方と手立て』（ひとなる書房）

科目名	子ども家庭支援の心理学	教員名	穴水（あなみず）　ゆかり	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

現代社会における、子どもを取り巻く家庭や家族、地域社会のあり方の多様化は、子どもの育ちや親の育ち、子育てに変化をもたらしている。本授業では、子どもとその家庭を包括的にとらえるという視点から、①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識、初期経験の重要性、発達課題等、②家族・家庭の意義や機能、③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題、について説明する。それらをふまえて、子育て家庭への支援のあり方を模索することを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。

・.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。
・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点が身についている。
・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育　①貧困　⑤ジェンダー平等　⑧成長・雇用

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］
1. 生涯発達と初期経験の重要性（テキストなし）
2. 児童期・青年期の発達（テキストなし）
3. 成人期・老年期の発達（テキストなし）
4. 子どものこころの健康のために保護者を支える(1)　保護者を支える関係機関（第４章７）
5. 子どものこころの健康のために保護者を支える(2) 保護者のこころに耳を傾ける（第４章７）
6. 社会システムとしての家族（第４章８）
7. 家族にもライフサイクルがある（第４章９）
8. 変わりゆく家族(1)　さまざまな家族とその支援　（第４章10）
9. 変わりゆく家族(2)　異なる文化的背景のある子どもとその家族（第４章11）
10. 家庭と家庭を取り巻く社会状況について（テキストなし*）
11. 子どもの問題を地域機関につなぐ（第４章13）
12. 親にとっての子どもとは？　女性のライフコースとワークバランス（第５章１・２）
13. 親も子どもと共に育つ　母親の育児不安・ストレス（第５章３・４）
14. 子どもを預けるっていけないこと？　父親の育児参加は増えているの？（第５章５・６）
15. 男性は本当に育児に向いていないの？　人生の先の先（第５章７・８）

Ⅲ．講義の進め方

授業は講義と演習によって進める。スライドを中心として説明し、適宜、配布資料や映像資料などを用いる。
演習や周囲との意見交換には積極的に参加することを期待する。
なお、やむを得ず一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。また、授業の進捗状況により授業内容を減縮することはないが、授業回に伸縮等の変更が出る場合はある。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、定期試験（80%）及び提出物（20%）により行う。
演習については、提出物に記入されている内容によって評価する。
単位取得のためには、授業への出席を前提条件とする。

Ⅴ．授業外学修

授業前にはテキストを一読して、授業後は配布資料を読み直し整理しておくこと。
疑問点や理解できなかったことについては随時、質問を受けつける。興味のある内容については文献等によりさらに学びを深めてほしい。

Ⅵ．使用教材

教科書　：沼山博・三浦主博編著『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
参考書　：　薮中征代『子ども家庭支援の心理学』萌文書林*

科目名	子どもの理解と援助	教員名	山下（やました）　真実（まさみ）	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

保育という営みにとって、子どもの心のあり方、成長発達を理解することは必要不可欠なことである。本授業では、保育現場での具体的な事例に基づき、子どもの成長発達の特徴を理解しながら、保育者はどのように援助し働きかけをしていくべきかを考える。また、具体的な保育現場の子どもの姿を通して子どもの気持ちを汲み取り、理解するための分析力を身に付けることを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。
・保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達と学びを把握することの意義を理解する。
・保育の現場において、子どもを理解する上での基本的な考え方と具体的な方法を理解する。
・子ども理解に基づく保育士の援助や態度の基本を身に付ける。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育　⑩不平等　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：1 単位、授業回数：15 回］

［後期］
1．保育における子ども理解と記録の意義
2．子どもを理解する視点と方法①：0 歳児
3．子どもを理解する視点と方法②：1 歳児
4．子どもを理解する視点と方法③：2 歳児
5．子どもを理解する視点と方法④：3 歳児
6．子どもを理解する視点と方法⑤：4 歳児
7．子どもを理解する視点と方法⑥：5 歳児
8．特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
9．保育の環境の理解と構成①：絵本
10. 保育の環境の理解と構成②：わらべうた
11. 保育の環境の理解と構成③：おもちゃ
12. 保育の環境の理解と構成④：畑づくり
13. 保育の環境の理解と構成⑤：動物飼育
14. 保護者との連携の在り方について
15. 人的環境としての保育者の在り方とその連携について

Ⅲ．講義の進め方

授業計画に沿って、参考資料（プリント）を中心に授業を進める。
保育現場での事例から、自分の意見をまとめたりグループディスカッションしたりする。
（保育者となった自分をイメージしながら積極的に授業に参加してほしい。）

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加（意欲・発表・リアクションペーパー等）状況（80%）、提出物（20%）から総合的に評価する。

Ⅴ．授業外学習

授業の進行に合わせて予習範囲は適時指示します。

Ⅵ．使用教材

教科書　：使用しない
参考書　：適宜、参考資料（プリント）の配布や映像の紹介をする

科目名	子 ど も の 保 健	教員名	清水（しみず） 久美（くみ）	開 講	保育学科	１年次	前 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

子どもの発育と発達、健康の保持増進、安全と保育環境について学び、保育の専門家として、子どもが地域の中で健やかに育まれることを手助けするための知識を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。
・健康という概念を理解する。
・健康観を養い、保育現場や日常生活で実践出来る知識を身に付ける。
・子どもの健康管理と環境整備ができる知識を身に付ける。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑥水・衛生

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］
１．子どもの心身の健康と保健の意義「健康の概念と健康指標」
２．子どもの心身の健康と保健の意義「生命の特徴と保健活動」
３．子どもの発育・発達と保健「脳神経・骨格・歯の発達」
４．子どもの発育・発達と保健「生理機能の発達」
５．子どもの発育・発達と保健「視覚・聴覚の発達」
６．子どもの発育・発達と保健「発達の評価」
７．感染症対策「免疫機能の発達と感染症」
８．感染症対策「子どもの感染症と対応」
９．感染症対策「衛生管理と感染予防」
10．子どもの病気と対応・予防「発熱・かぜ」
11．子どもの病気と対応・予防「嘔吐・下痢・けいれん」
12．子どもの一時救命と事故対応「窒息・誤嚥・誤飲」
13．子どもの事故防止と応急処置「転落転倒・溺水・火傷」
14．子どもの精神保健「障害の理解」
15．子どもの精神保健「自閉スペクトラム症」

Ⅲ．講義の進め方

参考資料を中心に授業を進める。
学んだ知識が実際の保育現場でどのように応用されるのか、共感できるような身近な話題を多く取り入れていく。
毎回のミニテストでの授業内容の復習と、より深い考察を期待する。

Ⅳ．試験と成績評価

毎回のミニテストと提出状況（15%）、前期試験（80%）と授業態度（5%）で総合的に評価する。
試験は学期末に実施し、資料等の持ち込み可とする。

Ⅴ．授業外学修

配布された資料は、次回の授業までに見直して復習すること。
ミニテストで回答できなかった項目は、プリントを見直して全て回答してから（空欄が無いように）提出すること。
当日授業時間内で確認できなかった質問等は、次回の授業で確認すること。

Ⅵ．使用教材

教科書　：使用しない。
参考書　：適宜プリントを配布する。

科目名	子どもの食と栄養	教員名	鈴木（すずき）　久（くみ）	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

健康における食生活の意義や栄養に関する基礎知識を理解し、子どもの発達段階に応じた食生活のあり方や特別な配慮を要する子どもへの対応を学ぶ。また、保育における食育の意義を理解し、実践するための基礎知識を身につける。

到達目標は以下のとおりである。
・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する知識を習得する。
・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
・三色食品群を理解し、媒体を用いて説明ができる。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］

［前期］
1．オリエンテーション
2．子どもの健康と食生活の意義（教科書第１章）
3．子どもの発育・発達と食生活（教科書第２章）
4．栄養に関する基礎知識
5．　（栄養素・食事摂取基準）　（教科書第３章）
6．
7．食の衛生と安全（教科書第４章）
8．胎児期（妊娠期）の栄養と食生活
9．乳児期の栄養と食生活
10．幼児期の心身の発育と食生活　（教科書第５章）
11．学童期・思春期の発育と食生活
12．生涯発達と食生活
13．食育の基本と内容（教科書第６章）
14．家庭や児童福祉施設における食事と栄養（第７章）
15．特別な配慮を要する子どもの食と栄養（第８章）

［後期］　２コマ連続授業
1．調理の基礎知識・調理実習について
2-3．調理実習１：災害時の食支援（パッククッキング）
4-5．調理実習２：離乳食
6-7．調理実習３：間食
8-9．調理実習４：お弁当
10-11．調理実習５：幼児食（保育所給食）
12-13．調理実習６：行事食
14-15．演習：離乳食・アレルギー食への展開
総まとめ：食育の意義

Ⅲ．講義の進め方

前期は教科書を中心に、パワーポイントを用いて講義、演習を行う。
後期は調理実習を６回と演習等を行う。

Ⅳ．試験と成績評価

前期に定期試験（50%）持ち込み不可
小テスト、調理実習後のレポート提出（40%）
授業への参加　［意欲・態度・発表］（10%）

Ⅴ．授業外学修

「授業計画」にある教科書の指定された章を読んで授業に参加し、パワーポイントの資料で復習する。
調理実習は、事前に作り方、手順の確認をしておくこと。実習後は、調理実習の評価や感想、考察（子どもの食支援にどのような配慮が必要かなど）の他、より理解を深めることができるよう、各テーマに応じ自己学習を行い、レポートにまとめ、提出する。

Ⅵ．使用教材

教科書　：『子どもの食と栄養』　森脇千夏他著（東京数学社）

科目名	教 育 課 程 総 論	教員名	横関（よこぜき） 理恵（りえ）	開 講	保育学科	２年次	前 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本講義では，幼稚園における教育課程編成の意義・目的とその歴史的変遷について学習し，基礎的な知識を身に付けることを目的とする。またその際，平成 30 年度より実施されている改定幼稚園教育要領において重視されている，カリキュラム・マネジメントの考え方を理解し，PDCA サイクルに基づいた正当な評価を実施できるようにする。さらに，教育課程や各種指導計画の策定・編成の特徴や方法を理解し，実際に作成することで，実践的な技能を身に付けることを目指す。

到達目標は以下のとおりである。

・幼稚園における教育課程編成の意義・目的とその歴史的変遷について理解し，説明することができる。
・カリキュラム・マネジメントの考え方を理解し，PDCA サイクルに基づいた正当な評価を行うことができる。
・園の実情に沿った教育課程や各種指導計画を実際に作成することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．オリエンテーション：保育・幼児教育の基本・教育課程の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(配布教材)
2．保育・教育課程編成の基本原理（1）乳幼児期の特質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 1 章)
3．保育・教育課程編成の基本原理（2）教育課程、全体的な計画の意義と方向・・・・・・・・・・(教科書第 2 章)
4．保育・教育課程編成の基本原理（3）教育課程、全体的な計画作成の目的・・・・・・・・・・・(教科書第 3 章)
5．保育・教育課程編成の基本原理（4）幼稚園・保育所・認定子ども園の基本的な性格等・・・・(教科書第 4 章)
6．幼児理解に基づく指導計画と実際（1）教育課程、全体的な計画に関する法制・・・・・・・・・・(教科書第 5 章)
7．幼児理解に基づく指導計画と実際（2）幼児教育課程の基本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 6 章)
8．幼児理解に基づく指導計画と実際（3）幼児の特徴と指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 7 章)
9．保育・教育課程の編成と指導計画の実際（1）：目的・目標、ねらい及び内容・・・・・・・・・・(教科書第 8 章)
10．保育・教育課程の編成と指導計画の実際（2）：全体的な計画の編成と指導計画の作成・・・・・(教科書第 9 章)
11．保育・教育課程の編成と指導計画の実際（3）：評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 10 章)
12．グループワーク①：長期指導計画を立ててみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 11 章)
13．グループワーク②：個別指導計画を立ててみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(配布教材)
14．グループワーク③：指導要録を作成してみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(配布教材)
15．まとめ：指導計画の発表/カリキュラム・マネジメントの意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・(配布教材)

Ⅲ．講義の進め方

前半は，講義形式で行う。後半は，個人またはペアごとに指導計画の作成作業と発表を行うことを中心に授業を展開する。後期に開講される「保育の計画と評価」と内容的に大きく関連するため，必要に応じて連動させながら進行する。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験（50%），提出物（作成した指導計画等）（40%），授業への参加状況（意欲・態度）（10%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】（120 分）Microsoft Teams で配信される事前学修小レポートに取り組み、次回の授業で提出すること。
【事後学修・次回事前学修】（120 分）講義内容・グループワークを通して①学んだこと・疑問点等をまとめ「リアクションペーパー」を Google Forms にて提出すること。②指導計画などの課題に取り組み提出すること。
≪皆さんに期待すること≫

保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体像を理解し、保育士として保育計画をデザインする際に大切にしたい考え方を身に着けるために、事前・事後学修に主体的に取り組むことを求めます。

Ⅵ．使用教材

教科書　：石井勇雄・横山文樹『新しい幼児教育課程総論』（第二版）,中央出版
参考書　：文部科学省，2018,『幼稚園教育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』
内閣府・文部科学省・厚生労働省，2018,
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 30 年 3 月〉』

科目名	保育の計画と評価	教員名	横関（よこぜき）　理恵（りえ）	開講コース	保育学科	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本授業では，保育における計画の意義・目的とその歴史的変遷について学習し，基礎的な知識を身に付けることを目的とする。またその際，子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の全体構造を理解し実践できるようになることを重視する。

さらに，各種指導計画の編成の方法を理解し，実際に作成することで，実践的な技能を身に付けることを目指す。到達目標は以下のとおりである。

・保育における計画の意義・目的とその歴史的変遷について理解し，説明することができる。
・子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の全体構造を理解し，実践することができる。
・園の実情に沿った各種指導計画を実際に作成することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．オリエンテーション：保育における計画の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 1 講)
2．カリキュラムにおける基礎理論（1）：幼稚園教育要領・保育所保育指針・教育保育要領等・・・(教科書第 2 講)
3．カリキュラムにおける基礎理論（2）：こども理解に基づく保育の循環・・・・・・・・・・・・・(教科書第 3 講)
4．カリキュラムにおける基礎理論（3）：保育内容、保育の質の向上のための取り組み・・・・・・(教科書第 4 講)
5．計画作成の基本、手順と方法（1）：幼稚園の教育課程の編成・カリキュラムマネジメント・・・(教科書第 5 講)
6．計画作成の基本、手順と方法（2）：保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成等・・・・・(教科書第 6 講)
7．計画作成の基本、手順と方法（3）：幼稚園の指導計画の作成・計画の種類等・・・・・・・・・(教科書第 7 講)
8．計画作成の基本、手順と方法（4）：保育所・認定こども園の指導計画の作成・留意事項等・・・(教科書第 8 講)
9．指導計画の基本、手順と方法（5）：保育の評価・記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 9 講)
10．指導計画の作成（1）：指導計画の書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(教科書第 10 講)
11．指導計画の作成（2）：0 歳児の指導計画の作成【グループワーク①】・・・・・・・・・・・・・(教科書第 11 講)
12．指導計画の作成（3）：1 歳以上 3 歳児未満児の指導計画作成【グループワーク②】・・・・・・(教科書第 12 講)
13．指導計画の作成（4）：3 歳児・4 歳児の指導計画の作成【グループワーク③】・・・・・・・・・(教科書第 13 講)
14．指導計画の作成（5）：5 歳児の指導計画の作成【グループワーク④】・・・・・・・・・・・・・(教科書第 14 講)
15．保育の計画と評価に関するまとめ：幼児期の教育と小学校教育の接続を考える。・・・・・・・(教科書第 15 講)

Ⅲ．講義の進め方

前半は，講義形式で行う。後半は，グループで指導計画の作成作業と発表を行うことを中心に授業を展開する。前期に開講される「教育課程総論」と内容的に大きく関連するため，必要に応じて連動させながら進行する。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験（50%），提出物（作成した指導計画等）（40%），授業への参加状況（意欲・態度）（10%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】（120 分）Microsoft Teams で配信される事前学修小レポートに取り組み、次回の授業で提出すること。
【事後学修・次回事前学修】（120 分）講義内容・グループワークを通して①学んだこと・疑問点等をまとめ「リアクションペーパー」を Google Forms にて提出すること。②指導計画立案の課題に取り組み、グループワークやフィードバックから得られた改善点を整理し各自で修正を加え、完成度を高め提出すること。
≪皆さんに期待すること≫
保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体像を理解し、保育士として保育計画をデザインする力量を形成し、豊かな保育実践につなげられるよう事前・事後学修に主体的に取り組むことを求めます。

Ⅵ．使用教材

教科書　：児童育成協会監修、2020,『教育・保育カリキュラム論』中央法規
参考書　：厚生労働省，2018,『保育所保育指針解説〈平成 30 年 3 月〉』
内閣府・文部科学省・厚生労働省，2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 30 年 3 月〉』

科目名	保 育 内 容 総 論	教員名	大和（やまと） 正枝（まさえ）	開 講	保育学科	２年次	後 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本と構造を理解し、「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容５領域の関連を総合的に捉え、子どもの発達や実態に即した保育の展開を学ぶ。併せて、子ども理解を深め保育力を高める観察と、記録・保育計画・省察など保育者として必要な知識と技術を習得していく。

到達目標は以下のとおりである

・保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容５領域を総合的に理解する。
・子ども・子ども集団の発達の特性、発達過程と保育内容の関連について理解することができる。
・保育における養護と教育の一体的な展開を理解し、保育計画作成につなげることができる。
・教材研究や遊びの演習を通して保育の実践力を養うことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

１．オリエンテーション(保育内容総論での学びを概観する)
２．保育内容の歴史的変遷から学ぶもの
３．保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解(改訂のポイントと保育実践)
４．養護と教育を一体的に行う保育と、幼児教育のあり方について
５．幼稚園教育要領に基づく幼児教育の基本及び教育・保育内容の理解(環境との関わりと 5 領域)
６．幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育の基本と保育内容(改訂のポイント)
　ここまでのまとめと演習課題
７．乳幼児の発達理解と保育内容について1(事例を通して考える 3 歳未満児の保育内容)
８．乳幼児の発達理解と保育内容について2(事例を通して考える 3 歳以上児の保育内容)
９．個と集団の発達と保育内容について(クラスにおける個と集団の育ち合い)
10．乳幼児の発達と遊びの援助・指導について(わらべうた遊びや行事の意味合いを学ぶ～主にプリントで)
11．環境を通して行う保育の実際1(行事～お誕生日会をグループで立案)
12．環境を通して行う保育の実際2(お誕生日会のグループ発表と評価・まとめ)
13．保育の多様な展開（長時間保育・多文化共生・特別な配慮を必要とする子どもの保育)
14．保育課程・教育課程と指導計画(作成と評価)
15．保育の現状と課題（地域連携、保幼小連携、保育者の役割と専門性について)

Ⅲ．講義の進め方

保育の基本をまずしっかりと学んでいく。グループワーク（状況によっては見合わせる）で演習課題を検討していく。具体的な行事の取り組みをグループワークで実践的に学び、保育計画立案や各種記録作成を体験していく。年齢別のおもちゃや絵本を実際に選んでみる。

Ⅳ．試験と成績評価

・授業参加状況　　・授業内ミニレポート（10%）　　・期末レポート（90%）

Ⅴ．授業外学修

・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領～各解説を常に持参し、授業の中で内容の確認ができるようにする。
・演習課題を提示するので、そこに記入できるように授業で配布したプリントは紛失せず、内容を特に復習するようにする。

Ⅵ．使用教材

教科書　：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各解説
　　配布プリント
参考書　：授業中に適宜紹介する

科目名	保　育　内　容　Ⅰ （子どもと環境）	教員名	岡田（おかだ）　佳菜子（かなこ）	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

１．養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
２．乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。
・領域「環境」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「環境」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］
１．この授業の背景とねらい
２．乳幼児をとりまく環境、保育現場における取り組み事例
３．乳幼児の発達と環境
４．環境と保育
５．季節とのかかわり
６．自然現象とのかかわり
７．身近な生き物とのかかわり
８．数・量・図形とのかかわり
９．環境と保育実践　二十日ダイコンを育てる
10．環境と保育実践　花を育てる
11．環境と保育実践　ジャガイモを育てる
12．環境と保育実践　イチゴを育てる
13．環境と保育実践　トウモロコシを育てる
14．環境と保育実践　タマネギを育てる
15．環境と保育実践　ニンジンを育てる

Ⅲ．講義の進め方

座学と実践の２部構成。実践の一つとして、各自が大学内の畑（一人あたり６㎡）を利用して植物を育てる。
１．農作業中は危険も伴うので、事前の説明をしっかり聞くこと。
２．清楚でうごきやすい服装に心がける（靴等）。春先の寒い時期は暖かい服装がよい。
３．畑は他の学科が使用する、畑の使用上のルール（随時連絡）は必ず守ること。
４．実習中の教員は全体に目が届かないことがあるので、農場職員の指示・指導にも従うこと。

Ⅳ．試験と成績評価

レポート（40%）、畑の管理状況（60%）

Ⅴ．授業外学修

予習課題として、次の授業の内容に関わる課題を毎回提出する。

Ⅵ．使用教材

参考書　：適宜資料を配付する

科目名	保　育　内　容　Ⅱ （子どもと人間関係）	教員名	穴水（あなみず）　ゆかり	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「人間関係」とは、周囲の人々と親しみながら支え合って生活するために、ひとにかかわる力や自立心を養うことにかかわる領域である。領域「人間関係」の目的は、指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることである。本授業では、①幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景、②保育所保育指針及び幼稚園教育要領等に示される「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」、について説明し、それらについての発達の姿について事例等を用いて説明し、演習を行う。これらを通して、保育現場における乳幼児への発達援助のあり方について具体的に考える。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「人間関係」のねらい及び内容を他の領域との関連を踏まえて理解している。
・乳幼児期における子どもの生活と発達に即して領域「人間関係」を理解している。
・領域「人間関係」及び他の領域との関連の中で保育の指導案を作成し実践することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　③保健

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

1. ガイダンス　保育における人間関係（テキスト[1)2) 3)]）
2. 乳児期の人間関係（テキスト[1)2) 3)]）
3. １歳以上３歳未満の人間関係（テキスト[1)2) 3)]）
4. ３歳以上児の人間関係（テキスト[1)2) 3)]）
5. 子どもの人間関係と社会性・道徳性（テキスト[1)2) 3)]）
6. 家庭や地域との連携（テキスト[1)2) 3)]）
7. 保育者が紡ぐ「人間関係」（テキスト[1)2) 3)]）
8. 領域「人間関係」の指導（テキスト[1)2) 3)]）
9. 子どもの生活の中で育まれる人間関係（テキスト[1)2) 3)]）
10. 子どもの遊びの中で育まれる人間関係（テキスト[1)2) 3)]）
11. 保育の展開と指導計画（テキスト[1)2) 3)]）
12. 指導計画と実践（テキスト[1)2) 3)]）
13. 多様な配慮と保育構想（テキスト[1)2) 3)]）
14. 小学校生活への接続（テキスト[1)2) 3)]）
15. 地域連携と保育の構想（テキスト[1)2) 3)]）

Ⅲ．講義の進め方

授業は講義と演習によって進める。スライドを中心として説明し、適宜、配布資料や映像資料などを用いる。

演習や周囲との意見交換には積極的に参加することを期待する。

なお、やむを得ず一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。また、授業の進捗状況により授業内容を減縮することはないが、授業回に伸縮等の変更が出る場合はある。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、定期試験（80%）及び提出物（20%）により行う。

演習については、提出物への記載内容を含む授業への取り組み状況によって評価する。

単位取得のためには、授業への出席を前提条件とする。

Ⅴ．授業外学修

授業後は配布資料を読み直し整理しておくこと。

疑問点や理解できなかったことについては随時、質問を受けつける。興味のある内容については文献等によりさらに学びを深めてほしい。

Ⅵ．使用教材

教科書　：保育所保育指針[1)]（平成29年３月告示厚生労働省）
幼稚園教育要領[2)]（平成29年３月告示文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領[3)]（平成29年３月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省）

参考書　：無藤隆・岩立京子他『事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』（萌文書林）
菊地 篤子『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』（みらい）＊
赤木和重他『どの子にも　あ～楽しかった！の毎日を』（ひとなる書房）

科目名	保　育　内　容　Ⅲ （子どもの健康）	教員名	秋月（あきづき）　茜（あかね）	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深めるために、乳幼児期の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するよう具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、保育者として育みたい資質・能力について理解し、子どもたちの心身の成長を促すことができる多様な運動遊びを習得し実践する。

到達目標は以下のとおりである。
・領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域との関連を踏まえて理解を深める。
・乳幼児期の発達に応じた保育を構想し具体的な指導方法を身に付けることができる。
・乳幼児期の年齢に応じた運動遊びを習得し実践することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育　⑧成長・雇用

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］
1．保育指針等に基づく領域「健康」のねらい、内容、全体構造の理解（第１章）
2．乳幼児期の発達に応じて育む動き等を視野に入れた保育構想についての重要性（第 11 章）
3．乳幼児理解に基づく心情、認識、思考等を視野に入れた保育構成と指導上の留意点の理解（第６章）
4．保育指針等に基づく評価についての考え方
5．乳幼児期の経験を通して身に付ける内容を踏まえた小学校教科等とのつながりの理解（第 12 章）
6．現代的課題や保育実践の動向を把握し、小学校教科等のつながりへの理解
7．保育実践へ向けての乳幼児の心身の発達の理解と経験していく内容の習得（第 10 章）
8．乳幼児理解に基づく情報機器及び教材の作成（第９章）
9．乳幼児理解に基づく具体的な保育構想と指導法
10．乳幼児期の発達に応じた指導案の構造と作成Ⅰ：指導案作成
11．乳幼児期の発達に応じた指導案の構造と作成Ⅱ：模擬保育
12．模擬保育の振り返りと保育の改善Ⅰ：指導案作成
13．模擬保育の振り返りと保育の改善Ⅱ：模擬保育
14．乳幼児期の経験とその内容における評価について
15．情報機器及び教材の活用に基づく保育実践の動向と保育構想の向上へのつながり方

Ⅲ．講義の進め方

グループ活動を中心に取り組み、模擬保育や実習を意識しながら取り組む。
シャトルノートの提出は基本的に毎週求めるので、提出期限は必ず守ること。
体育館での実技を伴う場合があるため、動きやすい服装、体育館靴を用意すること。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験による評価（50%）、毎時間の活動内容のまとめ（シャトルノート）（30%）
模擬保育の指導案作成と実践の様子（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】教科書の該当ページがある場合にはあらかじめ読んでから出席すること。分からない言葉等あれば調べておくこと。
【事後学修】毎授業後、シャトルノートに①授業内容、②学んだこと・新たな発見・わかったことなど、③授業内容に関連した考察・調べ学習を記載し、提出する。

Ⅵ．使用教材

教科書：保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む（重安智子・安見克夫　編著 ミネルヴァ書房）
参考書：・保育所保育指針（平成 29 年３月告示厚生労働省）
・幼稚園教育要領（平成 29 年３月告示文部科学省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年３月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
・幼児期における運動発達と運動遊びの指導（杉原隆／川邉貴子 編著 ミネルヴァ書房）

科目名	保　育　内　容　Ⅳ （子どもの言葉）	教員名	山田（やまだ）　克巳（かつみ）	開　講 コース	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。また乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を展開する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・保育所保育指針の基本である領域「言葉」のねらい及び内容、全体構造を理解できる。
・領域「言葉」のねらいと内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意を理解できる。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解できる。
・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案作成、模擬保育（ICT 機器の活用を含む）を行うことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．保育における「言葉」とは～保育所保育指針の基本と領域「言葉」のねらい及び内容
2．子どもの言葉の発達過程①言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋
3．子どもの言葉の発達過程②書き言葉（文字）の発達の道筋と小学校における書き言葉
4．言葉を育む環境構成と援助①話したい、聴きたい意欲を生む援助
5．言葉を育む環境構成と援助②生活に必要な言葉の習得を支える援助
6．言葉を育む環境構成と援助③言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助
7．言葉を豊かにする環境構成と援助①言葉による伝え合いを育む援助
8．言葉を豊かにする環境構成と援助②文字などで伝える楽しみを生み出す援助
9．子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財（絵本・物語・紙芝居などの保育での活かし方）
10．言葉に対する感覚を豊かにする実践：言葉遊び（しりとり・言葉集めなどの保育での活かし方）
11．子どもの言葉を育む保育の実際（保育実践・模擬保育に向けた保育観察：ICT 機器の活用）
12．子どもの言葉を育む保育の構想（領域「言葉」に関する保育場面を想定した指導案作成）
13．子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実施：ICT 機器の活用）
14．子どもの言葉を育む保育の評価と改善（保育実践の振り返り：ICT 機器の活用）
15．まとめ：子どもの言葉を育み豊かにする保育実践（特別な配慮を必要とする幼児への配慮：ICT 機器の活用）

Ⅲ．講義の進め方

プリントと Power Point とを使用した講義形式とグループ討議を中心に行う。

Ⅳ．試験と成績評価

授業に臨む姿勢や意欲（グループ討論・全体討議・模擬保育など）（40%）
中間レポート（20%）最終レポート（40%）

Ⅴ．授業外学修

・学習指導要領の１年生国語について調べ、中間レポートを作成し提出する。
・最終レポートを作成し提出する。

Ⅵ．使用教材

教科書　：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示文部科学省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

参考書　：必要に応じて授業ごとに自作資料を配布する。
「踊って遊ぼう～模倣力が子どもの力を育む～」山田克巳 著（拓殖大学北海道短期大学後援会）

科目名	保　育　内　容　Ⅴ （子どもの音楽表現）	教員名	新川（にいかわ）　聡子（さとこ）	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・子どもの音楽表現（保育内容）のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性をもつことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・子どもの音楽表現（保育内容）の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・子どもの音楽表現（保育内容）の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．子どもの音楽表現（保育内容）のねらい・内容を踏まえて、年間を通した音楽表現活動指導の展開を考える。
2．乳幼児の年齢別音楽表現実践例　演習：季節（春）（夏）の歌と簡易な伴奏法・表現のための身体の用い方
3．保育者自身の感性を豊かにする取り組み（五感を研ぎ澄ます）
4．身近な素材（動物）を模した表現活動の展開を考える　演習：擬音による表現遊び
5．自然、身近な素材（音）を用いた表現活動の展開を考える　演習：風・雨・鳥の鳴き声など
6．身近な素材を用いた表現活動　演習：季節（秋）（冬）の歌と簡易な伴奏法・表現のための身体の用い方
7．環境に目を向け、身近にある音に気付き、楽しむためのスキルを学ぶ。
8．保・幼小接続、乳幼児期に「音を意識し音楽に触れることの意義」について発達を理解しながら検討する。
9．環境を踏まえた教材研究、学びの応用　演習：身近なものを使った手作り楽器製作とその導入法
10．領域「表現」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法
11．指導案の作成
12．模擬保育
13．模擬保育の振り返り
14．子どもの表現活動に対する共感と受容の大切さを考える。
15．「子どもの音楽表現」の評価視点

Ⅲ．講義の進め方

演習を中心に進めるが、領域「表現」に関する知識と技能を関連づけるため、適宜、講義を混ぜて展開する。
演習では個人の表現だけでなく、グループワークを多く取り入れる。動きやすい服装で受講すること。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（10%）
発表などによる知識・理解、技能、創意工夫、完成度の総合的評価（45%）　課題などの提出物（45%）

Ⅴ．授業外学修

授業の進行に合わせて、予習、復習内容を適時指示する。教科書を読んだ上で、疑問や理解出来なかった点を、事前にノートに書き出して出席すると理解が深まる。

Ⅵ．使用教材

教科書：「表現者を育てるための保育内容「音楽表現」−音遊びから音楽表現へ−」編著：石井玲子（教育情報出版）
「新・たのしい子どものうたあそび−現場で活かせる保育実践−」編著者：木村鈴代（同文書院）
参考書：幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
必要に応じて適宜紹介するとともに、参考資料等を配布する。

科目名	保　育　内　容　Ⅵ （子どもの造形表現）	教員名	大和（やまと）　正枝（まさえ）	開　講 コース	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導方法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など、様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考え、実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

〇季節の製作（主に折り紙で季節のものを折る）　→壁面構成、父母参観日の製作等へ発展する

〇適宜、おもちゃの紹介（実際に遊んでみる）実際に作る　〇絵画に関しての授業（絵の具）〇指導案立案

1．領域「表現」のねらい・内容を踏まえて、造形表現活動指導の展開を考える　演習：季節（初夏）の製作と指導法
2．乳幼児の造形表現活動の実践例　演習：季節（夏）の製作と指導法
3．教材の提示、展示の実践例　　演習：壁飾りや壁面構成への応用
4．身近な素材を用いた表現活動の展開を考える　演習：手作りおもちゃ①転がる
5．自然、身近な素材を用いた表現活動の展開を考える　演習：手作りおもちゃ②風をとらえる
6．自然、自然物（押し花等）を用いた表現活動　演習：季節（秋）の製作と指導法
7．教材活用実践例の研究：おもちゃの意義や年齢別特徴、素材による比較等
8．幼少接続、美術教育についての講義・・・幼児教育において「絵を描くことの意義」等、話し合う
9．保育を想定した指導案　演習：季節（冬）の製作と指導法
10．指導案と保育の展開の実際：絵の具による描画・着色（木の葉を描く、雪を描く）、模擬保育
11．環境を踏まえた教材研究、学びの応用　　演習：製作物の応用
12．年中行事と造形表現を考える　　演習：新春の製作物
13．保育の構想　　演習：季節・行事（春）の指導と展開と指導案
14．身近な素材を用いた造形表現活動の実践例　演習：紙コップ、ストローを使った手作りおもちゃ製作
15．保育の場における表現活動を考える　　演習：既製品のおもちゃを使った遊び、カードゲーム等、模擬保育

Ⅲ．講義の進め方

主に製作（特に折り紙・色画用紙を使って）で進めて行く（個人で作ったり、グループでの製作）と講義（コロナ禍中のため）実習のスケジュール等で講義内容の変更有。

Ⅳ．試験と成績評価

レポート50％と課題製作50％

Ⅴ．授業外学修

・授業内で作製するものは、あくまで「このように作って行く」の例を経験していくので、作成中は常に「自分で実際に指導するなら指導案はどのように書く」「年齢によってどのような準備・進め方がいいか」をイメージしながら取り組むように

Ⅵ．使用教材

教科書　：適宜、プリントを用意する。

参考書　：毎月出版の保育雑誌（プリプリ、保育とカリキュラムなど）芳賀哲「作って・歌って・話して・あそぶ　おはなし小道具」（一声社）　ひかりのくに　「造形あそび　　０～５歳児」
ひかりのくに「絵画・制作・造形あそび　カンペキBOOK」　黎明書房「乳幼児の絵画指導」

用　具　：工作の用具等を個々で用意する。

科目名	保　育　内　容　Ⅶ （子どもと文化）	教員名	山田（やまだ）　英吉（えいきち）	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付ける内容、指導上の留意点、全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑪都市

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．授業のねらい及び内容、子どもの文化とは（歴史・子どものための「文化財・文化施設・文化活動」）
2．絵本の歴史、子どもと絵本が出会う場所、絵本のつくりと名称、絵本の表現と技法、制作の手順
3．乳幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた絵本の活用　演習：絵本のプロット、第１面
4．乳幼児の発達と絵本の役割　演習：絵本の仕掛け 、第２面
5．情報機器等を活用した絵本の読み聞かせの実例　演習：第３面
6．創作絵本の実践例、演習：第４面
7．絵本のまとめ　演習：表紙、製本
8．絵本や紙芝居、手遊びの指導案例、保育活動の導入としての指導案
9．模擬保育と振り返り
10．子どもと人形、歴史、文化施設・人形劇団の活動、人形の種類、人形劇舞台
11．身近な素材で作る人形（制作）
12．具体的な指導場面を想定した保育の構想（保育の場面を想定した創作シナリオ、指導案）
13．人形を活用した模擬保育と振り返り
14．子どもの遊び、伝承遊び、玩具　演習：カプラの実技実践
15．子どもの生育儀礼、年中行事、幼小の接続、まとめ（評価）

Ⅲ．講義の進め方

子どもと文化について、講義と表現の演習（作品制作と発表）や模擬保育などの演習を通して学ぶ。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度（30%）
作品等の提出物や発表による知識・理解、技能、創意工夫、完成度、表現力の総合的評価（70%）

Ⅴ．授業外学修

授業における演習は一例であり、同様の素材や表現と技法を用いて復習することや、授業外でも地域の文化施設等を実際に活用したりすることは効果的である。

Ⅵ．使用教材

教科書　：保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
参考書　：必要に応じて適宜紹介、作品制作要領等を配布する。

科目名	領　域　環　境	教員名	山田　英吉（やまだ　えいきち）	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。

乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「環境」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「環境」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑥水・衛生　⑦エネルギー　⑪都市　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：８回］

［前期］

1．領域「環境」のねらい及び内容、内容の取り扱い、現代社会の乳幼児を取り巻く環境と課題［参考書：第２章］
2．乳幼児期の発達における環境との関わり
3．乳幼児期・児童期の認知的発達、乳幼児の物理的数量や図形との関わり
4．乳幼児期の自然との関わり①：身近な自然物、事象に関心を持ち取り入れて遊ぶこと
5．乳幼児期の自然との関わり②：身近な草花や地域の農作物に関心を持ち、遊びに取り入れたり表現を楽しむ
6．乳幼児期の自然との関わり③：身近な動物に親しみを持って接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする
7．乳幼児の日常生活の中でかんたんな標識や文字等との関わり（マークや標識）
8．乳幼児の情報・施設との関わり

Ⅲ．講義の進め方

領域「環境」の指導で必要な感性を養い、保育・教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に、領域「環境」の指導の基盤となる現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。講義での学びを演習で確かめながら深めていく。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（20%）

レポートや小課題等の提出物、発表等による知識・理解、技能、創意工夫、完成度の総合的評価（80%）

Ⅴ．授業外学修

毎回の授業の内容について、授業外でも周辺地域を乳幼児の育ちの環境の一部として捉える復習が重要である。そして実習では実際の現場の実践や観察等を通して確認や理解の深化が図られる。

Ⅵ．使用教材

参考図書：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

その他　：必要に応じて適宜紹介、参考資料等を配布する。

科目名	領 域 人 間 関 係	教員名	穴水（あなみず） ゆかり	開 講	保育学科	１年次	前期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

5 領域とは、保育園生活を通して育みたい子どもの能力や態度を、5 つの領域に分けて示したものである。このうち「人間関係」とはひととのかかわりに関する領域についてまとめたもので、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」と示されている。「人間関係」とは、周囲の人々と親しみながら支え合って生活するために、ひとにかかわる力や自立心を養うことにかかわる領域なのである。

領域「人間関係」の目的は、指導の基盤となる、乳幼児の幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることである。本授業では、①乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題、②保育所・幼稚園生活における関係発達論的視点から、乳幼児期の人間関係の発達について説明する。また、保育現場における乳幼児への発達援助のあり方について具体的に考える。

到達目標は以下のとおりである。

・乳幼児を取り巻く「人間関係」をめぐる現代的課題を理解する。
・関係論的視点から乳幼児期における子どもの生活と発達を理解する。
・乳幼児期の個と集団のあり方を理解し、保育実践を構想することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　③保健

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：８回］

［後期］

1. 現代社会と乳幼児期の人間関係（教科書なし）
2. 乳児期の人間関係：愛着形成をめぐって（教科書・第３章４、ほか）
3. 3 歳児の人間関係：自立と集団生活のはじまり（教科書・第３章５、ほか）
4. 4 歳児の人間関係：仲間意識のはじまり（教科書・第３章５、ほか）
5. 5 歳児の人間関係：協同性のはじまり（教科書・第３章５、ほか）
6. 子どもと保育者のかかわり（教科書なし）
7. 乳幼児期の人間関係：家族・園生活・地域社会へ（教科書なし）
8. 遊びといざこざ：非認知的能力をめぐって（教科書なし）

Ⅲ．講義の進め方

授業は講義と演習によって進める。スライドを中心として説明し、適宜、配布資料や映像資料などを用いる。

演習や周囲との意見交換には積極的に参加することを期待する。

なお、やむを得ず一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。また、授業の進捗状況により授業内容を減縮することはないが、授業回に伸縮等の変更が出る場合はある。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、定期試験（80%）及び提出物（20%）により行う。

演習については、提出物への記載内容を含む授業への取り組み状況によって評価する。

単位取得のためには、授業への出席を前提条件とする。

Ⅴ．授業外学修

授業後は配布資料を読み直し整理しておくこと。

疑問点や理解できなかったことについては随時、質問を受けつける。興味のある内容については文献等によりさらに学びを深めてほしい。

Ⅵ．使用教材

教科書　：保育所保育指針（平成 29 年３月告示厚生労働省）、幼稚園教育要領（平成 29 年３月告示文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年３月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省）
沼山博・三浦主博編著『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林

参考書　：無藤隆・岩立京子他『事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』萌文書林
井戸ゆかり・園田巌・紺野 道子『保育の心理学ⅠⅡ』萌文書林
菊地篤子『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』みらい
赤木和重他「どの子にも　あ～楽しかった！の毎日を」ひとなる書房

科目名	領　域　健　康	教員名	秋月（あきづき）　茜（あかね）	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「健康」のねらい及び内容について、背景にある専門領域と関連させて理解を深めるために、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するよう具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。その際、乳幼児期の運動発達の特徴と意義、生活習慣の形成について理解する。また、保育者として必要な発想力や身体活動能力を身に付け「安全」かつ「楽しみながら」子どもたちの心身の成長を促すことができる多様な運動遊びを習得し実践する。

到達目標は以下のとおりである。

・保育所保育指針及び幼稚園教育要領に示されている保育内容を踏まえ、保育者として必要な領域「健康」のねらい及び内容を学ぶ。

・自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うというねらいを達成するために、乳幼児期の発育・発達や学びの過程を理解する。

・日常生活習慣の確立を支援するとともに、社会環境と運動遊びなどを含む子どもを取り巻く状況について学ぶ。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑧成長・雇用

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．領域「健康」のねらい及び内容の理解（第１章）
2．乳幼児期における身体的な発達、運動面の発達の特徴（第２章）
3．乳幼児期の多様な動きに応じて育む、持久力や瞬発力、敏捷性や協応性（第５章）
4．乳幼児理解に基づく物的環境と人的環境確保についての理解（第３章）
5．乳幼児理解に基づく物的環境と人的環境関連についての理解（第３章）
6．保育所・幼稚園等における動きを引き出す環境に必要な遊具の役割（第８章）
7．ボール遊びを通して乳幼児の発達段階で異なる興味・関心への理解（第８章）
8．ボール遊びにおいて多様な動きを引き出す在り方
9．乳幼児期の発達に応じて、長なわへの興味・関心を習得
10．長なわを通して育む保育者としての援助と安全への配慮の理解
11．乳幼児の特性に応じて育む、短なわ・長なわを通して多様な動きを習得
12．外気にふれる心地良さを通して、協調性・主体性を引き出す在り方
13．乳幼児理解に基づく自然に対する興味・関心への理解
14．乳幼児期の日常における運動習慣と生活習慣への配慮と意義（第3,4,7章）
15．乳幼児期に起こりやすい怪我の特徴と安全配慮の理解と指導法（第13章）

Ⅲ．講義の進め方

グループ活動を中心に実技を行い、模擬保育や実習を意識しながら取り組む。
シャトルノートの提出は基本的に毎週求めるので、提出期限は必ず守ること。
体育館での実技を伴う場合があるため、動きやすい服装、体育館靴を用意すること。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験による評価（50%）、毎時間の活動内容のまとめ（シャトルノート）（30%）
グループ活動による取り組みの様子（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】教科書の該当ページがある場合にはあらかじめ読んでから出席すること。分からない言葉等あれば調べておくこと。

【事後学修】毎授業後、シャトルノートに①授業内容、②学んだこと・新たな発見・わかったことなど、③授業内容に関連した考察・調べ学習を記載し、提出する。

Ⅵ．使用教材

教科書：保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む（重安智子・安見克夫　編著 ミネルヴァ書房）

参考書：・保育所保育指針（平成29年3月告示厚生労働省）
・幼稚園教育要領（平成29年3月告示文部科学省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
・幼児期における運動発達と運動遊びの指導（杉原隆／川邉貴子 編著 ミネルヴァ書房）

科目名	領　域　言　葉	教員名	山田（やまだ）　克巳（かつみ）	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「言葉」の指導基盤となる乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像するために必要な基礎的知識を身に付ける。また、人間の証とも言える「言葉」の意義と機能を理解し、乳幼児の言葉を育み、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。
・人間の証ともいえる言葉の意義や機能を理解する。
・乳幼児期における言語発達過程について、言葉の機能について理解できる。
・言葉に対する感覚を豊かにする実践について体験し、その展開方法を理解できる。
・児童文化財である絵本・紙芝居・パネルシアターの選び方・読み聞かせ方法・演じ方を習得。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］
1．領域における「言葉」の意義と機能　教科書①p213～p232 ②p156～p167 ③p198～p213
2．乳幼児期の言葉の発達過程（誕生から書き言葉（文字）の習得まで）
3．子どもの言葉に対する感覚を育むため、言葉の美しさや楽しさを感じよう
4．児童文化財の種類や歴史、保育への取り入れ方の実際
5．言葉に対する感覚を豊かにする実践での留意点①（絵本の役割とその選定方法）
6．児童文化財を用いた実践①絵本の読み聞かせと保育への取り入れ方（模擬保育）
7．言葉に対する感覚を豊かにする実践での留意点②（紙芝居の役割とその選定方法）
8．児童文化財を用いた実践②紙芝居の読み聞かせと保育への取り入れ方（模擬保育）
9．言葉に対する感覚を豊かにする実践（子どもと楽しむ「言葉遊び」を考えよう）
10．言葉遊びの色々と、保育への取り入れ方
11．保育現場での実践事例映像（ICT）から幼児の言葉の成長をみる
12．子どもが書き言葉（文字）を習得する意義と保・幼・小接続での留意
13．パネルシアターの製作（下絵作成とトレース・色塗り）
14．パネルシアターの製作（貼る位置の工夫・切り取り・仕掛け作り）
15．パネルシアターの発表（仕掛けの工夫・動かし方の工夫）

Ⅲ．講義の進め方

絵本・紙芝居・パネルシアター等の保育教材を実際に使用しながら実践的に学ぶ形式が中心であり、グループ毎で活動する。

Ⅳ．試験と成績評価

読み聞かせ技術（声量と感情表現）（20%）
作品の仕上がり（描写と仕掛けの工夫）（20%）
パネルシアターの発表力（20%）
レポート（40%）

Ⅴ．授業外学修

・毎週１冊絵本を読み授業冒頭にタイトルと感想を書く。
・パネルシアターの題材である16種類のカテゴリーを考える。
・パネルシアター作成を自宅で行い、期日までに終わらせる。

Ⅵ．使用教材

教科書　：①幼稚園教育要領（平成29年3月告示文部科学省）、②保育所保育指針（平成29年3月告示厚生労働省）、③幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省）
参考書　：必要に応じて授業ごとに自作資料を配布する。パネルシアターの世界（VTR）

科目名	領 域 音 楽 表 現	教員名	新川（にいかわ） 聡子（さとこ）	開 講	保育学科	１年次	前 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

１．表現とは何か：領域「表現」のねらい及び内容の理解
２．音楽表現する楽しさや意欲、探求心、向上心の分析
３．音楽表現の基礎①表現できる柔軟な身体の動かし方
４．音楽表現の基礎②動きを用いた拍子やビート、テンポ感などの音楽的要素の学習
５．音楽表現の基礎③オノマトペ（擬音）など声を用いて表現の幅を広げる（即興表現）
６．幼児の発達と音楽表現
７．子どもの歌（行事や季節）：歌詞の世界をイメージした弾き歌いの実践、簡易伴奏法
８．手遊び・指遊びの教育的効果と修得計画
９．指導案の作成
10．模擬保育実践
11．模擬保育の振り返り
12．簡易な楽器演奏法
13．子どもの創造性や感性を刺激する音楽的保育環境
14．音楽表現活動の授業計画の構想、保・幼小接続
15．①ＩＣＴの活用と音楽表現活動の実際　②まとめ

Ⅲ．講義の進め方

演習を中心に進めるが、領域「表現」に関する知識と技能を関連づけるため、適宜、講義を混ぜて展開する。
演習では個人の表現だけでなく、グループワークを多く取り入れる。動きやすい服装で受講すること。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（10%）
発表などによる知識・理解、技能、創意工夫、完成度の総合的評価（45%）　課題などの提出物（45%）

Ⅴ．授業外学修

授業の進行に合わせて、予習、復習内容を適時指示する。教科書を読んだ上で、疑問や理解出来なかった点を事前にノートに書き出して出席すると理解が深まる。

Ⅵ．使用教材

教科書：「表現者を育てるための保育内容「音楽表現」―音遊びから音楽表現へ―」　編著：石井玲子（教育情報出版）
「新・たのしい子どものうたあそび–現場で活かせる保育実践–」編著者：木村鈴代（同文書院）
参考書：幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
必要に応じて適宜紹介するとともに、参考資料等を配布する。

科目名	領 域 造 形 表 現	教員名	山田（やまだ） 英吉（えいきち）	開 講	保育学科	１年次	前 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑭海洋資源　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．①表現とは何か　②表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容を理解する
2．表現する楽しさや意欲、探求心、向上心の分析
3．自然との触れ合い①：身近な自然や事象、素材
4．素材の理解①：発達段階と様々な造形材料
5．素材の理解②：身近な素材と描画表現への展開
6．素材の理解③：様々素材の特性を活かした工作等の造形表現活動への展開
7．多感覚性を活かして：身近な生活や遊びに心が動いたことを表現すること
8．自然との触れ合い②：季節の事象を表現すること
9．対象と向き合うコミュニケーションとしての造形表現活動
10．幼児の姿と表現の理解：見て、感じて、読み取る幼児の姿から
11．共同制作から豊かな表現へ
12．鑑賞：作品の良さや伝達性を具体的な言葉で表現すること
13．子どもの創造性や感性を刺激する保育環境
14．造形表現活動の授業計画の構想、幼小の接続
15．ＩＣＴと造形表現活動、まとめ

Ⅲ．講義の進め方

乳幼児の造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な造形遊びや環境の構成などについて学び、乳幼児期の造形表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。学びに深化を図るため、講義に加えて適宜実践的な演習を取り入れ、授業を展開する。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（20%）
レポートや小課題等の提出物、発表等による知識・理解、技能、創意工夫、完成度の総合的評価（80%）

Ⅴ．授業外学修

授業における演習は一例であり、同様の素材や表現と技法を用いた試作、身の回りにある様々な素材に興味を持って工夫する姿勢を大切にすることが重要である。自主的な取り組みはレパートリーを増やすことにつながる。

Ⅵ．使用教材

教科書　：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
参考書　：必要に応じて適宜紹介するとともに参考資料等を配布する。

科目名	幼児教育の方法と技術	教員名	山田　英吉 玉木　裕	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

幼稚園教育要領の理解を基盤にして、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の共通点を捉え、それらに準拠した教育や保育の在り方を学ぶ。具体的には、幼児教育に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の目的に適した指導技術、情報機器を活用した教材の作成・活用に関する基礎的な能力などを取り扱う。そして、それらを活用し、学習指導案（実習指導案）を作成する基礎的な知識・技能を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

・指導理論を踏まえた学習指導案（実習指導案）を作成し、模擬的に実践する。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑥水・衛生

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］

１．①保育所保育指針等に基づく教育方法の基礎的理論と実践の理解
　②環境による保育、環境を通した保育を目指す教育方法、指導計画と環境、子どもの姿
２．幼稚園教育要領・保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の共通性と固有性
３．幼児期の特性に応じて育む「見方・考え方」の理解
４．①環境整備を通した主体的・対話的な遊びや生活を目指す教育方法のあり方への理解
　②指導案事例：造形表現活動の展開方法、材料の精選と準備
５．①幼児理解に基づく保育を構成する基礎的な要件
　②未満児保育の考え方・方法、話法、年齢・月齢による展開方法、職員の協力体制
６．①基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成Ⅰ
　②指導案事例：異年齢保育、展開方法、季節・自然・形、指導案
７．①幼児理解に基づく話法・教材提示などの保育の基礎的な技術の習得
　②指導案事例：領域相互の関連、遊びを通した総合的指導案
８．①基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成Ⅱ
　②指導案事例：運動遊び活動の展開方法、安全管理と環境構成
９．①幼児理解に基づく情報機器を活用した教材の作成及び提示
　②指導案事例：音楽遊び活動の展開方法、ねらい、情報機器活用事例
10．①基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成Ⅲ
　②生活の流れの指導案の立案１：登園・集まり・降園・排泄・午睡・食事ほか
11．①情報活用能力を育成するための指導法
　②指導案事例：様々な保育の方法（一斉・コーナー・遊び発展型、特色ある事例）、担任業務
12．①幼児理解の基づくカリキュラムマネジメントの実際
　②保育指導計画と実習指導案の様式・立案要領、保育活動のＰＤＣＡ
13．①幼児理解の基づく評価の基本的な考え方
　②指導案事例：障害者支援施設のレクリエーション活動の指導案の立案、環境、配慮事項
14．①幼児理解の基づく「幼稚園幼児指導要録」等の作成
　②保育実習を想定した設定保育の指導案の立案Ⅰ
15．①学校段階間の接続(幼稚園等と小学校、特別支援学校)について
　②保育実習を想定した設定保育の指導案の立案Ⅱ

Ⅲ．講義の進め方

学習指導案（実習指導案）のサンプルや参考資料、Word による参考書式などを配付し、実践的な講義内容を優先に進める。

Ⅳ．試験と成績評価

実習指導案の記述内容と検討結果(60%)、レポートの内容(30%)、ディスカッション時の交流内容や様子(10%)

Ⅴ．授業外学修

図書館の書籍や保育系雑誌、WEB の情報や先輩方の実践などを参考に主体的に取り組むことを期待する。

Ⅵ．使用教材

教科書　：保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、及び各解説 2018『部分実習指導案集』萌文書林

参考書　：講義の中で適宜紹介する。

科目名	教　育　相　談	教員名	米野（よねの）　祐司（ゆうじ）	開　講	保育学科	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

幼稚園教育要領の理解を基にして、幼稚園における幼児の生活及び遊びの実態に即して、幼児の発達及び学び並びにその過去で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法について理解する。

幼児、児童が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育相談について理解するとともに、幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリングの基礎的知識・理論を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・幼児が生活する保育現場で必要な教育相談技術の基礎・基本を体得し、子どもや親に対応する教育相談が実践できる。

・教育相談の現場事例を通して、子どもの成長を取り巻く課題を考察し、幼児教育の環境や社会問題について発信することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑨ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］

１．保育の教育相談の在り方・意義と今日的課題
２．戦後教育の流れと教育法規
３．保育に求められる保護者・子どもに対する援助の姿勢とカウンセリング・マインド
４．乳児期・幼児期の発達理解と支援
５．子ども同士のいざこざや仲間に入れない子どもの理解と対応
６．保育所・幼稚園における実際の保育と幼児理解の方法
７．親子の関係づくりの支援・要望する保護者の実態並びに要望・抗議の捉え方とその対応
８．子どもの発達とアセスメント
９．カウンセリングの基礎理論
10．カウンセリング技法
11．幼児及び児童、保護者に対する教育相談を行うための組織・体制づくり
12．発達障害や気になる子ども(不登園・虐待等)とその保護者へのかかわり
13．園における教育相談の計画・組織
14．保育におけるコンサルテーション
15．園・地域における専門家との連携

Ⅲ．講義の進め方

出欠確認を兼ねたレジュメを配布する。講義形式を中心とし、必要に応じ映像資料の活用を組み合わせた展開とする。また、一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、小レポート（80%）授業への参加（意欲）状況（20%）により評価する。

Ⅴ．授業外学修

授業の進行に合わせて予習範囲は随時指示します。予習では、授業計画ごとのテーマについて、配布資料、参考文献等を読んで意見をまとめておくこと。復習では、授業内容・配布資料を基に要点を整理し、まとめておくこと。

Ⅵ．使用教材

教科書　：使用しない（適宜プリントを配布）

参考書　：『子どもの理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美（㈱みらい）
『教師・保育者のための教育相談』大野精一編著（萌文書林）
『保育・教育相談支援～子育ち、子育てを支える』太田光洋編著（建帛社）
『幼児教育相談～現場からの発信』齋藤善郎（福村出版）

科目名	ピ ア ノ 表 現 Ⅰ	教員名	新川・真保・木村 中村・森永・スッピン	開　講	保育学科	１年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

幼児教育に必要なピアノの演奏スキルを身に付けることと基礎的な音楽理論を理解することを目指す。

初心者は、読譜をはじめ基礎的な音楽理論を学びながら、１年修了時には指定された練習曲が演奏できることを目指す。経験者は、表現力の向上を目指し、指定以外の他の教則本も含めて取り扱う。

Ⅱにある授業計画は初心者を対象とし、『新版 みんなのオルガン・ピアノの本 ２』と『バイエル ピアノ教則本「やさしい楽典」付』を組み合わせたレッスンモデルである。実際のレッスンの進度や内容は、担当教員との相談による。

到達目標は以下のとおりである。

・幼児教育に必要なピアノの演奏スキルや基礎的な音楽理論を理解し、練習曲で実践する。
・指定された練習曲（バイエル 104 番、初心者は 64 番を到達目標するが、できる限り 104 番をめざす）を修了する。
・簡単な子どもの歌の伴奏ができる技能を身に付ける。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］

［前期］−初心者用レッスンモデル−

『新版 みんなのオルガン・ピアノの本 ２』より

１．ガイダンス、読譜の基礎
２．「ド」のポジション
３．２重音の伴奏
４．分散和音伴奏の練習
５．分散和音伴奏の練習
６．八分音符・八分休符・付点四分音符
７．さまざまな伴奏形
８．臨時記号がある曲
９．和音伴奏の練習
10．ヘ長調の曲
11．２声のための練習
12．２声のための練習
13．アルベルティ・バスの練習
14．アルベルティ・バスの練習
15．ハ長調のスケールと和音

［後期］−初心者用レッスンモデル−

『バイエル ピアノ教則本 「やさしい楽典」付』より

１．バイエル 21 番（4 拍子の拍感）
２．バイエル 25 番（3／4 拍子、タイ）
３．バイエル 30 番（フレーズ）
４．バイエル 35 番（レガート）
５．バイエル 45 番（ハ長調）
６．バイエル 46 番（八分音符）
７．バイエル 52 番（6／8 拍子）
８．バイエル 59 番（強弱の変化）
９．バイエル 60 番（対位法的な旋律）
10．バイエル 64 番（両手の位置）　初心者到達目標
11．バイエル 65 番（ハ長調
12．バイエル 72 番（ト長調、重音）
13．バイエル 83 番（ハ長調、スケール）
14．バイエル 95 番（ハ長調、3／8 拍子）
15．バイエル 104 番（転調、スケール）　到達目標

Ⅲ．講義の進め方

個人レッスンとＭＬ教室での個人練習またはグループレッスンを組み合わせて実施。

・個人レッスンでは、１コマで４～５名程度の学生が個人指導を受ける。
・個人練習またはグループレッスンでは、ＭＬシステムを使用しながら練習する。

Ⅳ．試験と成績評価

ピアノの演奏スキルと必要な音楽理論の理解について、レッスンの取り組みや課題の進捗状況（20%）、授業中の定期的な実技試験や発表の内容（80%）で評価を行う。

Ⅴ．授業外学修

○事前学修：「授業計画」にあるレッスンモデルを参考に、常に数曲先まで事前に練習を行い授業に参加すること。
○事後学修：ピアノの基本的な演奏スキルを習得するため、毎日の練習を反復し継続すること。
授業で弾き終えた楽曲についても、自身のレパートリーとして定着させるため復習を繰り返すこと。
○留 意 点：本単位が修得出来なかった場合は、２年次実習は不可となるので留意すること。

Ⅵ．使用教材

教科書：『バイエル ピアノ教則本 「やさしい楽典」付』伊藤康英編（音楽之友社）
教科書（初心者のみ）：『新版 みんなのオルガン・ピアノの本 ２』高橋正夫編（YAMAHA）
参考書：『保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた 150 曲』阿部直美（日本文芸社）

科目名	ピ ア ノ 表 現 Ⅱ	教員名	玉木・真保・木村 中村・森永・スッピン	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

ピアノ表現Ⅰで習得したピアノの演奏スキルを高め、幼児教育現場で実践できることを目指す。また、様々な伴奏法について理解を深め、子どもの歌の伴奏や弾き歌いをすることも目指す。簡易伴奏においては、使用頻度の高いコードの理解とピアノ伴奏法への応用を学び、より多くの楽曲で伴奏を実践する。

到達目標は以下のとおりである。
・ピアノの演奏スキルを高めながら、子どものうた（実習先からの指定を含む）の伴奏や弾き歌いができる。
・コードを用いて簡易的・即興的な伴奏ができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］

［前期］
1．ガイダンス、生活のうた①（朝のうた）
2．生活のうた②
3．生活のうた③
4．定番・人気のうた①
5．定番・人気のうた②
6．定番・人気のうた③
7．定番・人気のうた④
8．定番・人気のうた⑤
9．定番・人気のうた⑥
10．定番・人気のうた⑦
11．定番・人気のうた⑧
12．定番・人気のうた⑨
13．手あそびうた①
14．手あそびうた②
15．手あそびうた③

［後期］
1．春のうた①
2．春のうた②
3．春のうた③
4．夏のうた①
5．夏のうた②
6．夏のうた③
7．秋のうた①
8．秋のうた②
9．秋のうた③
10．冬のうた①
11．冬のうた②
12．冬のうた③
13．行事のうた①
14．行事のうた②
15．伴奏・弾き歌いの発表会

Ⅲ．講義の進め方

個人レッスンとＭＬ教室での個人練習またはグループレッスンを組み合わせて実施。
・個人レッスンでは、１コマで４～５名程度の学生が個人指導を受ける。
・個人練習またはグループレッスンでは、ＭＬシステムを使用しながら練習する。

Ⅳ．試験と成績評価

ピアノの演奏スキルと必要な音楽理論の理解について、レッスンの取り組みや課題の進捗状況（20%）、授業中の定期的な実技試験や発表の内容（80%）で評価を行う。

Ⅴ．授業外学修

○事前学修：「授業計画」を参考に、常に数曲先まで事前に練習を行い授業に参加すること。
○事後学修：ピアノの演奏スキルを高めるため、毎日の練習を反復し継続すること。
授業で弾き終えた楽曲についても、自身のレパートリーとして定着させるため復習を繰り返すこと。
○留 意 点：伴奏や弾き歌いに苦手意識のある学生は、簡易伴奏法をしっかり身に付けておくこと。

Ⅵ．使用教材

教科書　：『保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた 150 曲』阿部直美（日本文芸社）

科目名	乳　児　保　育　Ⅰ	教員名	成田（なりた）　美貴（みき）	開　講	保育学科	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

近年社会的に乳児保育への期待が高まっている。急激な少子化の進行にもかかわらず、乳児保育を必要とする家庭が増加し乳児保育の需要は増大している。また、家庭で子育てをしている親にとっても、子育て不安が大きい乳児期の「子育て支援事業」は全国各地で切望され、多くの親の支えになっている。本授業では、乳児期の発育・発達の過程や特性を学び、保育のあり方や保育士としての役割や姿勢を理解し、保育の基本を学ぶことを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。

・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。
・保育所や乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
・３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制を理解する。
・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域関係機関との連携について理解する。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑩不平等　⑯平和　⑰実施手段

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷　（教科書 第１回）
2．乳児保育の役割と機能　（教科書 第１回）
3．乳児保育における養護及び教育　（教科書 第１回）
4．乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況　（教科書 第１回・２回）
5．保育所における乳児保育　（教科書 第２回）
6．保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育　（教科書 第２回）
7．家庭的保育等における乳児保育　（教科書 第２回）
8．３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場　（教科書 第２回）
9．０歳児の子どもの育ち・遊びと環境　（教科書 第３回・４回）
10．１歳児の子どもの育ち・遊びと環境　（教科書 第３回・５回）
11．２歳児の子どもの育ち・遊びと環境　（教科書 第３回・５回）
12．３歳以上児の保育に移行する時期の保育　（教科書 第５回）
13．３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり　（教科書 第３回・４回・５回・６回）
14．３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮　（教科書 第３回・４回・５回・６回）
15．乳児保育における連携・協働　（教科書 第１２回）

Ⅲ．講義の進め方

教科書を中心に授業計画に沿って学習したことをイメージし、実践に結びつくことができるように事例検討、資料等も使い、また実際に乳児のあそび（おもちゃ、手遊び、絵本など）も取り入れながら、幅広く“乳児の世界”を学んでいく。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、課題レポート・発表（50%）、単元毎の小テスト（50%）で行う。

Ⅴ．授業外学修

毎回 授業の終わりに振り返りを行います。
その日の授業を理解し、まとめ 疑問等はできる限り解消してください。
また次回の授業予定内容も伝えますので　教科書の指定された章を読んで授業に臨んでください。

Ⅵ．使用教材

教科書　：『講義で学ぶ乳児保育』　わかば社
参考書　：『発達を学ぶちいさな本』　白石正久著　クリエイツかもがわ
『赤ちゃんの発達とアタッチメント―乳児保育で大切にしたいこと』　遠藤利彦 著　ひとなる書房
『乳児期の発達と生活・あそび』　長瀬美子 著　ちいさいなかま社

＊実務経験のある教員による授業科目［実務経験と授業との関係］
担当教員は、保育園での実務経験を有し、当該科目における乳児期の発育・発達の過程や特性について教授します。

科目名	乳　児　保　育　Ⅱ	教員名	成田（なりた）　美貴（みき）	開　講	保育学科	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

近年社会的に乳児保育への期待が高まっている。急激な少子化の進行にもかかわらず、乳児保育を必要とする家庭が増加し乳児保育の需要は増大している。また、家庭で子育てをしている親にとっても、子育て不安が大きい乳児期の「子育て支援事業」は全国各地で切望され、多くの親の支えになっている。本授業では、乳児保育Ⅰにおいて修得した知識に基づき、乳児保育における具体的な配慮や計画の方法を学び、理解することを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。

・３歳児未満の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解する。
・養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について理解する。
・乳児保育における配慮の実際について理解する。
・乳児保育における計画の作成について理解する。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑩不平等　⑯平和　⑰実施手段

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

１．乳児保育の基本①：子どもと保育士等との関係の重要性　（教科書 第１回）
２．乳児保育の基本②：子どもの主体性の尊重と自己の育ち　（教科書 第２回）
３．保育所の１日：生活の流れと保育の環境　（教科書 第９回）
４．乳児保育の内容と方法①：０歳児の保育と生活　（教科書 第３回・４回・６回・７回・８回）
５．乳児保育の内容と方法②：０歳児における保育の計画の実際　（教科書 第３回・４回・６回・７回・８回）
６．乳児保育の内容と方法③：１歳児の保育と生活　（教科書 第４回・５回・６回・７回・８回）
７．乳児保育の内容と方法④：１歳児における保育の計画の実際　（教科書 第４回・５回・６回・７回・８回）
８．乳児保育の内容と方法⑤：２歳児の保育と生活　（教科書 第４回・５回・６回・７回・８回）
９．乳児保育の内容と方法⑥：２歳児における保育の計画の実際　（教科書 第４回・５回・６回・７回・８回）
10．乳児の心身の健康と安全　（教科書 第９回）
11．乳児の保育課程と指導計画①：長期的な指導計画と短期的な指導計画　（教科書 第１０回）
12．乳児の保育課程と指導計画②：個別的な指導計画と集団の指導計画　（教科書 第１０回）
13．乳児期の環境と人間関係　（教科書 第１１回・１２回）
14．保育者の役割　（教科書 第１３回）
15．乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの　（教科書 第１３回）

Ⅲ．講義の進め方

教科書を中心に授業計画に沿って学習したことをイメージし、実践に結びつくことができるように事例検討、資料等も使い、また実際に乳児のあそび（おもちゃ、手遊び、絵本など）も取り入れながら、幅広く“乳児の世界”を学んでいく。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、課題レポート・発表（50%）、単元毎の小テスト（50%）で行う。

Ⅴ．授業外学修

毎回授業の終わりに振り返りを行います。
その日の授業を理解し、まとめ 疑問等はできる限り解消してください。
また次回の授業予定内容も伝えますので教科書の指定された章を読んで授業に臨んでください。

Ⅵ．使用教材

教科書　：『講義で学ぶ乳児保育』　わかば社
参考書　：『発達を学ぶちいさな本』　白石正久著　クリエイツかもがわ
『赤ちゃんの発達とアタッチメント―乳児保育で大切にしたいこと』　遠藤利彦 著　ひとなる書房
『乳児期の発達と生活・あそび』　長瀬美子 著　ちいさいなかま社

＊実務経験のある教員による授業科目［実務経験と授業との関係］
担当教員は、保育園での実務経験を有し、当該科目における乳児保育における具体的な配慮や計画の方法について教授します。

科目名	子どもの健康と安全	教員名	野﨑（のざき）　深雪（みゆき）	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

子どもの成長・発達や健康を守る保健活動、さまざまな病気の予防やアレルギー等への対応、心の健康や問題など、子どもの健康の維持増進に必要な知識を、将来保育者となる学生らが、実践を通して身に付け、子どもたちの安全管理ができるようになることを目的とする。同時に、事故や災害等のリスクについても、保育者が個人で対応する力量を育むとともに、職員同士あるいは専門職・機関との連携ができるようになることを目指す。

その際、子どもの心身と健康を支え、子どもが本来持っている発達する能力が十分に発揮されるよう、その特性に応じた保育を展開し、子どもの可能性を伸ばすような関わりを実践できるようになることを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。

・実践を通して、子どものライフサイクルに沿った「正常」を理解することで、「異常」を察知できる力を養う。
・子どもにとって清潔で安全な環境が整えられ、その発達過程に応じた生活リズムが作られるように援助することができる。
・子どもの疾病やアレルギーとその予防および適切な対応について理解することができる。
・事故や災害等緊急時の対応や事故防止、安全管理について理解することができる。
・子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動について理解することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

１．子どもの健康と安全（第１章）子どもの健康と発育（第２章１～５）
２．発育評価（第２章６）　身体発育曲線の書き方の演習
３．身体計測の技術の実際
４．子どもの健康増進と保育の環境　子どもの特性（第３章１．２）年齢別発達段階とその特徴
５．子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ（第３章３．４）
６．子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ（第３章４）抱っこ　授乳の実際
７．沐浴・おむつ交換の実際
８．子どもの事故とその予防（第４章１～３）骨折時の対応の実際
９．子どもの事故とその予防（第４章１～３）子どもの視野体験　チャイルドビジョン・チャイルドマウスの作成
10．子どもの事故とその予防（第４章１～３）AED の取り扱い　BLS の実際　エピペンの実際
11．感染症の予防と対策（第５章１～３）　感染物の処理法の実際
12．慢性疾患と体調不良時の対応（第５章４～６）
13．障害を持つ子どもと家族へのかかわり方（第６章）　ADHD に関する DVD 鑑賞
14．児童虐待（第７章）
15．災害の備えと危機管理（第８章）地域保健活動・職員間ならびに専門機関との連携（第９章）

Ⅲ．講義の進め方

教科書または配布したプリントに沿って講義する。
小テストを行い理解度の確認をする。
実践に役立つ知識や考える力を養うため演習を実施する。

Ⅳ．試験と成績評価

筆記試験（90%）教科書、ノートなどの持ち込みなし。
小テスト及び授業中の態度（10%）で評価する。

Ⅴ．授業外学修

授業計画にある教科書の指定された章を読んで授業に参加すること。
授業の進捗状況により授業計画と前後する場合には予習範囲を適時指示していく。
疑問、理解できない点は随時確認すること。

Ⅵ．使用教材

教科書　：　子どもの健康と安全　中山書店

科目名	障　害　児　保　育	教員名	美馬（みま）　正和（まさかず）	開　講	保育学科	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本講義の目的は、保育所・幼稚園・認定こども園および障害者施設などで保育者が対峙するであろう、障害児をはじめとする「配慮が必要な子ども」への関わり方を学ぶ。それを踏まえ、現在の保育の実際（援助や配慮の在り方等）を理解し、自分たちがその様な子どもたちへどのように対応していくべきかを思考するための力を養うことにある。

到達目標は以下のとおりである。

・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について理解し、保育実践へ活用することができる。
・様々な障害や配慮が必要な子どものへの援助の方法、環境構成等について理解し、保育実践へ活用することができる。
・障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解し、保育実践へ活用することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷について（教科書１講）
2．地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解（教科書２講）
3．肢体不自由児の理解と援助の実際（教科書第３講）
4．知的障害児の理解と援助の実際（第４講）
5．視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助の実際（教科書第５講）
6．発達障害児の理解と援助の実際（教科書第６講）
7．重症心身障害児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助の実際（教科書第７講）
8．指導計画及び個別支援計画の作成（教科書第８講）
9．発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い（教科書第９講）
10．障害児保育における子どもの健康と安全（教科書第10講）
11．保育所等における職員間連携・協働の実際と課題（教科書第11講）
12．保護者や家庭に対する理解及び保護者間の交流や支え合いの意義と支援の実際（教科書第12講）
13．地域の専門機関、小学校（通常学級・通級指導・特別支援学級等）や特別支援学校等との連携（教科書第13講）
14．保健・医療・福祉・教育における現状と課題（教科書第15講）
15．障害児保育についてのまとめと課題の解説

Ⅲ．講義の進め方

基本的には、発達支援センターでの実務経験から得られた事例や保育所や幼稚園への巡回等で出会ったケースなどを紹介しながら講義形式で行う。複数回グループワーク（討論・発表）も行う。また、一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。

Ⅳ．試験と成績評価

小レポート：30%、口頭発表：30%、学期末レポート：40%

Ⅴ．授業外学修

授業計画にある教科書の指定された章を読んで授業に参加すること。
指定された章を読んだ上で生じた疑問や理解できなかった点を事前に書き出して出席すると理解が深まる。

Ⅵ．使用教材

教科書　：『新基本保育シリーズ 17　障がい児保育』公益財団法人児童育成協会監修　西村重稀、水田敏郎編集　中央法規
参考書　：適宜伝えます。

科目名	特 別 支 援 教 育	教員名	五十嵐（いがらし） 聖哲（まさあき）	開 講 コース	保育学科	２年次	前 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

特別な支援を必要とする子どもが家庭をはじめ幼稚園、保育園、小中学校、特別支援学校、障害児施設等で生活している現状を踏まえ、発達障がいや知的障がいなど様々な障がいの内容と、障がいが及ぼす生活上・学習上の課題について概括的に理解し、障がい特性や心身の発達に対する理解を深める。障がいのある子どもが達成感や成就感をもちながら生活するための支援について、基本的な知識や方法を身に付けることを目指す。

また、効果的な支援を行う基礎となる個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用について理解し、併せて保護者や関係機関との連携について実践的に対応するための要点を学習する。

到達目標は次のとおりである。

・特別な支援を要する子どもとその障がいの基本的な理解
・特別な支援を必要とする子どもの教育課程及びニーズに応じた支援の方法の理解
・特別な教育的ニーズのある子どもの実態把握や支援・連携の実際

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑩不平等　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

１．オリエンテーション：「障がい」とは何か、障がいの概要、特別支援教育とは（教科書第１～２章）
２．障がい理解、合理的配慮（教科書第１～２章）
３．特別支援教育・保育の歴史、特別支援学校の概要（教科書第１～２章）
４．様々な障がいの特性①：知的障がい児の理解と学習・生活上の支援（教科書第３章）
５．様々な障がいの特性②：発達障がい児の理解と学習・生活上の支援⑴自閉症スペクトラム（教科書第６章）
６．様々な障がいの特性③：発達障がい児の理解と学習・生活上の支援⑵ＡＤＨＤ、ＬＤ他（教科書第６章）
７．様々な障がいの特性④：視覚障がい児の理解と学習・生活上の支援（教科書第４章）
８．様々な障がいの特性⑤：聴覚障がい児の理解と学習・生活上の支援（教科書第４章）
９．様々な障がいの特性⑥：言語障がい児の理解と学習・生活上の支援（教科書第４章）
10．様々な障がいの特性⑦：肢体不自由児の理解と学習・生活上の支援⑴　（教科書第４章）
11．様々な障がいの特性⑧：肢体不自由児の理解と学習・生活上の支援⑵　（教科書第４章）
12．個別の指導計画・教育支援計画の意義と作成、その活用（教科書第８章）
13．保護者理解、専門機関・学校（特別支援学級、通級指導）等との連携、（教科書第１２～１６章）
14．虐待とその背景
15．前期の振り返りとまとめ

Ⅲ．講義の進め方

１．特別支援教育、障がい理解など、実践上知っておくべき事項を概論として展開していく。
２．資料（パワーポイント資料、参考資料）は適宜配布する。
３．体験学習やビデオ教材等を取り入れ、より具体的・実践的に展開する。
※　毎時間の最後に、出欠票を兼ねた小課題を提出してもらう。

Ⅳ．試験と成績評価

１．講義後半にレポートを課す。
２．講義での取り組み状況も評価の対象とする。
３．レポート 80%、取り組み状況 20%とし、これらを総合的に評価する。

Ⅴ．授業外学修

授業では教科書をそのまま使うことはないが、関連する章を「授業計画」に示したので、あらかじめ読んで授業に臨むこと。読んだ上で疑問等が生じたときには、授業時に質問をするなどして理解を深めてほしい。

Ⅵ．使用教材

教科書：前田泰弘編著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』萌文書林，2019 年

科目名	社 会 的 養 護 Ⅱ	教員名	宮川（みやかわ） 新治（あらたし）	開 講	保育学科	１年次	後 期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の実際について理解する。そして、社会的養護での実践事例として、計画・記録・自己評価について理解し、実践事例に基づいて相談援助の方法・技術や子ども虐待の防止と家庭支援などについて学ぶ。

到達目標は以下のとおりである。
・施設の実践事例を理解し、社会的養護に関心や興味を持つことができる。
・実践事例の検討により、社会的養護に求められる専門性について理解することができる。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
④教育　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］
1．社会的養護の制度や実施体系、専門職としてのあり方（スーパービジョンについて）
2．社会的養護における子どもの理解（アタッチメント、被虐待、発達障害について）
3．日常生活支援の実践事例
4．治療的支援の実践事例
5．自立支援の実践事例
6．施設養護の生活特性及び実際の理解
7．家庭養護の生活特性及び実際の理解
8．効果的なアセスメントの在り方と個別支援計画の作成
9．支援活動の記録及び自己評価の方法について
10．保育の専門性に関わる知識・技術と実践①(心を育むための援助，親子関係の調整)
11．保育の専門性に関わる知識・技術と実践②(ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用)
12．相談援助の知識・技術とその実践
13．社会的養護における家庭支援
14．模擬ケース会議の開催
15．社会的養護の課題と展望

Ⅲ．講義の進め方

保育士に求められる専門性とは何なのか知識・技術と実践について、担当教員の経験を交え具体的でわかりやすい授業を進めていきたい。
事例検討では課題を揚げグループごとに意見を発表して、社会的養護の興味と見識を深める。

Ⅳ．試験と成績評価

講義終了時の課題レポート（80%）と、授業への参加状況（意欲・態度：20%）を合わせ評価する。

Ⅴ．授業外学修

「授業計画」に沿ってプリント（参考資料）を事前に配布するので、次回までに通読して授業に参加すること。
読んだ上で生じた疑問や理解できなかった点を事前にノートに書きだして出席すると理解が深まります。
授業毎、振り返りを実施するので、前回の授業で生じた疑問や理解できなかった点もノートに書きだして出席してください。質問にお答えします。

Ⅵ．使用教材

教科書：『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』　吉田眞理著　萌文書林
参考書：プリントを配布

＊実務経験のある教員による授業科目［実務経験と授業との関係］
担当教員は、児童養護施設勤務の実務経験を有し、当該科目における社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の実際について教授します。

科目名	子　育　て　支　援	教員名	有好（ありよし）　恵子（けいこ）	開　講 コース	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

保育士による保護者との相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の専門的な支援の在り方について、その特性と具体的な展開を理解する。また、事例検討やグループワーク等を通じて、保育者の行う子育て支援の内容や方法、技術を知り、多様な子育て家庭に対する支援の実際について具体的に理解する。

到達目標は以下のとおりである。

・保育の専門性に基づく子育て支援の意義と必要性を理解する。
・ケースワークやグループワークなどの相談支援に関する技術や方法を理解し、面接技法の基礎を身につける。
・利用者が抱える課題や、心情を理解し共感する態度を身に付ける。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①貧困　③保健　⑤ジェンダー　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．オリエンテーション・子育て支援、保護者支援とは　（教科書第１章）
2．日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成　（教科書第１章）
3．保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解　（教科書第２章）
4．子ども及び保護者の状況・状態の把握　（教科書第２章）
5．支援の計画と環境の構成　（教科書第３章）
6．支援の実践・記録・評価・カンファレンスなどの実践事例　（教科書第３章）
7．職員間の連携・協働　（教科書第３章）
8．社会資源の活用と関係機関等や専門職との連携・協働　（教科書第４章）
9．保育所等における支援　（教科書第６章）
10．地域の子育て家庭に対する支援　（教科書第７章）
11．障害のある子ども及びその家庭に対する支援　（教科書第８章）
12．特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援　（教科書第９章）
13．子ども虐待の予防と対応　（教科書第１１章）
14．要保護児童等の家庭に対する支援　（教科書第１２章）
15．多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解　（教科書第１０章）

Ⅲ．講義の進め方

講義形式のほか、ロールプレイやグループワーク、事例検討等の演習を中心に展開する。また必要に応じてレポートの提出を求める。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は、提出物（50%）・授業への参加状況（50%）で行う。

Ⅴ．授業外学修

「授業計画」にある教科書の指定された章を読んで授業に参加すること。特に事例検討は概要を理解して臨んでほしい。

Ⅵ．使用教材

教科書　：太田光洋編著『子育て支援演習』　建帛社
参考書　：適宜プリントを配布

科目名	幼　児　体　育	教員名	秋月（あきづき）　茜（あかね）	開　講	保育学科	１年次	集　中

Ⅰ．目的と内容および到達目標

保育現場では、保育者自身が幼児体育に関わる指導を行わず、その保育内容を一般の業者に委託している例も多く見られる。本講義では、受講生が実際の保育現場において幼児体育に関わる指導を行うことができるよう、基礎的な知識と実践力を習得することを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。
・幼児体育理論に関する基礎的な知識を理解できる。
・幼児の手本として相応しい身体表現能力を習得する。
・各種運動の基本的な指導方法および補助方法を理解し、実践できる。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
③保健　④教育　⑧成長・雇用

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業週数：集中］

［集中］
１．発育発達・幼児体育論（基礎項目）
２．発育発達・幼児体育論（応用項目）
３．リズム運動
４．マット運動（前転）
５．マット運動（前転補助）
６．幼児体育理論のまとめ
７．跳び箱（開脚とび）
８．跳び箱（開脚とび補助）
９．鉄棒（逆上がり）
10．鉄棒（逆上がり補助）
11．なわとび
12．ボール遊び
13．基本運動
14．ゲーム遊び
15．レクリエーション実践

Ⅲ．講義の進め方

（公財）日本幼少年体育協会から派遣される講師の補助のもと、講義を進める。
理論は学内教室、実技は体育館で行う。
資格取得に関わるため、遅刻・欠席は厳しくチェックする。
実技があるため、動きやすい服装、体育館靴を用意すること。

Ⅳ．試験と成績評価

理論試験（30%）、実技試験（30%）、授業後レポート（40%）によって評価する。

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】シラバスを確認して、授業内容についてのイメージを持つ。必要に応じて各種運動の事前練習をしておく。
【事後学修】学習した内容ついてその都度まとめ、授業後に課されるレポートを作成する。

Ⅵ．使用教材

（公財）日本幼少年体育協会による「幼児体育指導者検定２級」に準じた教材を配布する。

科目名	特　別　研　究	教員名	山田(英) 山田(克)・新川	開　講	保育学科	１年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

保育者の役割や保育のあり方などを理解し、様々な課題と解決への過程に関心を持ち、主体的に保育を探求する姿勢を養成する。

乳幼児の豊かな感性を育むために保育者に求められる基本的な知識・技能・実践力を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・知識、技能、演技・表現などの基礎が身につき、保育活動に活かすことができる。
・乳幼児の発達と保育の環境などを踏まえた保育の構成を立案する方法を理解している。
・乳幼児を惹きつける表現やコミュニケーションに主体的に取り組むことができる。
・乳幼児が主体的に表現を楽しみ、達成感を高めることができる展開を工夫することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑭海洋資源　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］　【造形表現フィールド】　＜山田英吉＞

［前期］

1．活動計画、「描く！つくる！魅せる！」造形表現フィールドの表現活動
2．乳幼児の描画活動の全体計画・人形劇脚本
3．乳幼児の姿を踏まえた集団制作の立案
4．集団制作の環境構成と子どもの支援要領
5．幼児の造形教室リハーサル・教材等の準備
6．第１回幼児の造形教室（保育所訪問）
7．活動のふり返り(評価)、人形劇制作要領
8．バルーンアートの手法・人形劇脚本完成
9．「子どもの広場」要領・準備
10．人形デザイン・舞台美術の立案
11．人形制作の実際（基本型）・背景デザイン
12．削りだし手法と材料・大道具製作の実際
13．素材による効果：人形の布貼り込み、小道具の製作方法と実際
14．生命感・躍動感のある操作、人形の胴体制作
15．人形の組立・操作と乳幼児向けの音響と照明の効果

［後期］

1．作品の理解から表現へ
2．台本と演技・場面転換の流れ、ＩＣＴ活用
3．舞台組み立て・発声と演技・演出
4．人形操作と音響の調整
5．場面転換と照明の演出、調整
6．乳幼児との交流と人形劇のリハーサル、準備
7．人形劇公演・乳幼児との交流（み・らい子ども祭）
8．人形劇公演・幼児との交流（近隣幼稚園）
9．人形劇振り返り、第２回幼児の造形教室企画
10．絵本の世界を再現する活動の指導案立案
11．乳幼児の意欲を引きだす立体表現、環境構成と展開要領
12．第２回幼児の造形教室準備作業・リハーサル
13．第２回幼児の造形教室（保育所訪問）
14．活動の振り返り(評価)、ICT を活用した指導案の再構築、コミュニケーションのあり方
15．活動の成果と課題・まとめ、保育者としての課題を明確化する

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］　【身体表現フィールド】　＜山田克己＞

［前期］

1．活動計画、「歌う！踊る！演じる！」身体表現フィールドの表現活動（乳幼児向けミュージカル）
2．イメージの共有化(過去の乳幼児向けミュージカルの鑑賞)
3．台本からイメージする舞台美術と衣装の立案
4．保育現場で活用されている素材の研究
5．舞台美術の製作方法と実際（模型作り）
6．舞台美術の製作方法と実際（模型の色塗り）
7．舞台美術の製作方法と実際（実寸での製作）
8．舞台美術の製作方法と実際（色塗り）
9．衣装の製作方法と実際（型紙の作成）
10．衣装の製作方法と実際（裁断及び仕立て）
11．音楽からイメージするダンスの創作方法と実際
12．劇中歌における表現の仕方
13．セリフの表現（喜・怒）
14．セリフの表現（哀・楽）
15．セリフの表現（間の取り方）

［後期］

1．乳幼児が理解しやすい話し方
2．乳幼児が理解しやすい動き方
3．リハーサル（衣装・メイク無し）
4．リハーサル（衣装・メイク有り）
5．学内公演（学生対象）
6．幼児への公演（幼稚園対象）
7．乳幼児への公演（保育園対象）
8．活動の振り返り（評価）
9．実際の映像からの評価
10．表現方法の再構築
11．ICT を活用した活動記録集の作成（製作編）
12．ICT を活用した活動記録集の作成（演技編）
13．ICT を活用した DVD の作成（ジャケット表）
14．ICT を活用した DVD の作成（ジャケット裏）
15．ICT を活用した DVD の作成（レーベル）

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］	【幼児音楽フィールド】　＜新川聡子＞
［前期］ 1．活動計画、「聴く！歌う！奏でる！つながる！」音楽フィールドの表現活動、リトミックとは何か 2．ビートと拍子の理解（4 拍子、3 拍子、2 拍子、6/8 拍子） 3．指揮をしながらステップをする 4．音楽を表現するための身体の用い方 5．音程の定義、音程の聴き取りと歌唱 6．和音の力、主要三和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ） 7．調の理解（ハ長調・イ短調） 8．調の理解（ト長調・へ長調） 9．フレーズを感じるための動き 10．発声の仕組みと声による表現 11．歌唱の基礎と読譜 12．子どもの歌Ⅰ（分析方法の理解） 13．子どもの歌Ⅱ（分析の実際） 14．子どもの歌Ⅲ（コード、伴奏法、歌と伴奏の関係） 15．子どもの歌Ⅳ（弾き歌いの発表と鑑賞）	［後期］ 1．器楽合奏Ⅰ（基礎） 2．器楽合奏Ⅱ（応用） 3．器楽合奏Ⅲ（ハンドベル） 4．オノマトペの実践 5．オノマトペによる図形楽譜の表現 6．リズムと即興、リズム遊びの考案 7．ピアノの表現Ⅰ（音色とイメージの表現） 8．ピアノの表現Ⅱ（即興的対話） 9．ピアノの表現Ⅲ（連弾） 10．ピアノの表現Ⅳ（連弾の発表と鑑賞） 11．リトミックの学習を活かした幼児の表現活動の計画 12．リトミックの学習を活かした幼児の表現活動の指導案の作成 13．リトミックの学習を活かした幼児の表現活動の模擬保育 14．リトミックの学習を活かした幼児の表現活動の実践 15．ICT を活用した活動の振り返り

Ⅲ．講義の進め方

【造形表現フィールド】

保育の現場や子どもの文化施設等における人形劇や幼児の造形教室等の立案、準備、実施、振り返りを通して、乳幼児にとって魅力ある表現や環境に応じた保育の立案、コミュニケーション力などの保育の現場で求められる資質、能力を実践的に身に付けていく。

【身体表現フィールド】

乳幼児向けのミュージカルへの取り組みを通して、表現力やコミュニケーション力などの保育の現場で求められる資質、能力を実践的に身に付けていく。

【幼児音楽フィールド】

音楽の基礎の確認とともに、保育現場などにおいて音楽を展開するための視点や方法を学ぶ。それらを活かした幼児の音楽表現活動の立案、準備、実施、振り返りを通して、豊かな表現力やコミュニケーション力などの保育の現場で求められる資質、能力を実践的に身に付けていく。

Ⅳ．試験と成績評価

意欲・主体性（30%）、
活動の企画・準備、協働、発表・表現の完成度、ふり返りレポート（70%）
※試験は実施しない

Ⅴ．授業外学修

制作や発表・公演は完成度が求められるので、準備には授業時間だけでは不足することが考えられる。各フィールドのメンバーが共通理解と責任感を持って、授業外の予習や稽古、事前準備をして臨むことが重要である。授業内で予定の内容を終了できない場合は不足分を補う取組を求める。

Ⅵ．使用教材

教科書　：使用しない
参考書　：適宜、参考資料の配付や映像の紹介をする

科目名	専　門　研　究	教員名	各専任教員	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

「知識基盤社会」「多文化共生社会」「情報化社会」の本格化・高度化が進み、複雑で激しく変化する社会を生きるために、「21 世紀型能力」の育成が求められている。保育の営みもまた、それら変動する社会の中で営まれている。本授業では、保育者として、さらにはこれからの社会の一員として、さまざまな課題や状況に応じて習得した知識・技能を活用し、他者とコミュニケーションをとりながら協働的に問題解決にあたる資質や能力を育成することを目的とする。

保育の現場において「主体的・対話的で深い学び合いの生まれる保育」を実現できるよう、保育者に求められる基本的な知識・技能、思考力、実践力を身につける。そのために２つの課題、Ａミュージカル活動、Ｂ卒業研究・制作、から１つを選択し協働して活動に取り組む。一人ひとりが、学生相互や教員との対話を通して、自らの課題意識・役割意識を陶冶し、保育をはじめとした社会の問題や課題に気づき、それらに対して習得した知識や技能を用いて、解決方法を発見・想像していく能力を育成する。

到達目標は以下のとおりである。

・保育を軸として現代社会の変動によって生じる多様な問題や状況を理解する。
・社会の課題や問題に対応するための思考力、創造力を獲得する。
・社会の課題や問題の解決に向けて組織を形成する力や役割意識、他者と協働する力を身につける。
・習得した保育者としての専門的な知識や技能を、問題・課題に即して表現し実践する。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑫生産・消費

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］　Ａ［ミュージカル］

［前期］

1．オリエンテーション：活動全体計画
2．脚本・台本とは何か：構成と取り扱い
3．作品の理解１：本読み
4．作品の理解２：演出会議
5．部署配分・活動計画立案
6．部署活動 1:配役ワークショップ①発声・歌唱の基礎、舞台美術プラン立案、広報プランの立案
7．部署活動 2:配役ワークショップ②演技の基礎、舞台美術プランの共有化、広報プランの共有化
8．部署活動 3:台本読み合わせ①役・作品のイメージ創出、舞台美術製作物の選出、ポスター立案
9．部署活動 4:台本読み合わせ②作品イメージの共有、舞台美術製作物素材の理解、チラシ立案
10．部署活動 5:稽古①発声・歌唱の基礎、製作①作図の基礎、ポスターデザインの基礎
11．部署活動 6:稽古②演技の基礎、製作②素材の選定、ポスターデザインの実践
12．部署活動 7:稽古③演技の実践、製作③素材加工、ポスターデザインの修正
13．部署活動 8:稽古④演技の修正、製作④製作物の修正
14．部署活動 9:稽古⑤ダンスワークショップ、製作⑤製作物の全体配置（空間）
15．部署活動 10:稽古⑥ダンスの実践、製作⑥製作物の全体配置（時間）

［後期］

1．部署活動 11:稽古⑦ダンスの修正、製作⑦作品に合わせた配置の調整
2．部署活動 12:稽古⑧歌唱ワークショップ、製作⑧塗装の方法
3．部署活動 13:稽古⑨合唱の実践、製作⑨塗装の実践
4．部署活動 14:稽古⑩合唱の修正、製作⑩製作物の確認と修正
5．全体活動 1:ポスター掲示・チケット販売の計画立案・実施
6．全体活動 2:通し稽古①作品の全体像の創造
7．全体活動 3:通し稽古①振り返り（演技・歌唱の反省、道具問題点の確認）
8．全体活動 4:通し稽古①振り返り（演技・歌唱の修正、道具問題点の修正）
9．全体活動 5:通し稽古②作品の洗練①
10．全体活動 6:通し稽古②振り返り（演技・歌唱の反省、道具問題点の確認）
11．全体活動 7:通し稽古②振り返り（演技・歌唱の修正、道具問題点の修正）
12．全体活動 8:通し稽古③作品の洗練②
13．全体活動 9:通し稽古③振り返り（演技・歌唱の反省、道具問題点の確認）

14. 全体活動10:通し稽古③振り返り（演技・歌唱の修正、道具問題点の修正）
15. 演技・舞台美術等本番の予行練習

Ⅱ. 授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］　B［卒業研究・制作］

［前期］
1．オリエンテーション：卒業研究・制作の意義
2．卒業研究・制作のための注意点：論文の書き方・製作の方法
3．卒業研究・制作のための先行研究・作品検索方法
4．卒業研究・制作のための先行研究・作品の収集
5．希望テーマの構築
6．テーマ決定のための文献講読・作品分析①：先行研究・作品間の比較検討
7．テーマ決定のための文献講読・作品分析②：先行研究・作品の再収集
8．卒業研究・制作テーマ決定のためのプレゼンテーション①：各自の構想発表
9．構想に関するグループ討議①
10. 卒業研究・制作テーマ決定のためのプレゼンテーション②：各自の構想発表
11. 構想に関するグループ討議②
12. 卒業研究・制作テーマ決定のためのプレゼンテーション③：各自の構想発表
13. 構想に関するグループ討議③
14. 中間発表会①
15. 中間発表会②

［後期］
1．中間発表の振り返り
2．卒業研究・制作の洗練
3．卒業研究・制作のテーマ、研究・制作デザインの完成
4．論文・制作指導①章立ての方法等
5．論文・制作指導②論理の構築等
6．論文・制作指導③文献購読等
7．論文・制作指導④調査データの集約等
8．論文・制作指導⑤文献・資料の方法等
9．論文・制作指導⑥推敲の技法
10. 論文・制作指導⑦論文完成
11. 卒業発表会準備:プレゼンテーション資料作成
12. 卒業発表会準備:プレゼンテーションの実演
13. 卒業発表会予行練習
14. 卒業研究・制作発表会①
15. 卒業研究・制作発表会②

Ⅲ. 講義の進め方

・課題A（ミュージカル）は、公演に向けて10月上旬から2月下旬にかけて活動する。必要に応じて土曜日（9:10～16:00）や休暇期間（日曜日・祝日を除く）を利用して活動する。年末年始の活動は行わない。
・課題B（卒業制作・研究）は、原則として時間割上での活動時間だが、具体的な進め方はテーマに沿って担当教員から提示される。

Ⅳ. 試験と成績評価

課題A［ミュージカル］は、活動実践（90%）及び活動記録シート（10%）で行う。
課題B［卒業研究・制作］は、意欲・主体性（30%）、論文等の内容・発表・表現の完成度（70%）で行う。

Ⅴ. 授業外学修

活動の成果を積み上げながら進めるので、毎回とも準備に労苦を惜しまず、計画的・積極的に休むことなく参加することが求められる。制作や発表に向けた準備は授業時間だけでは不足する場合があるので、担当教員と十分に協議して必要に応じて授業外にも取り組むことが大事である。

Ⅵ. 使用教材

教科書　：使用しない
参考書　：適宜、参考資料の配付や映像の紹介をする

科目名	造形表現研究Ⅰ	教員名	大和（やまと）　正枝（まさえ）	開講コース	造形表現	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、特に造形表現活動に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する基礎・基本を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑤ジェンダー　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．領域「表現」の位置づけと授業のねらい及び内容、発達段階の理解と造形材料の特性。
2．年齢別発達のアウトラインと製作活動の基本
3．乳幼児の発達と玩具
4．手作り玩具の製作（屋外で遊ぶ）
5．作って遊ぶ、ゲーム遊びと玩具
6．季節行事を題材にした手作り玩具製作
7．造形表現活動の展開方法（前回の手作り玩具の製作手順説明書作成から指導案へ）
8．季節に合った描画
9．描画活動の展開方法（前回の描画活動の展開を指導案に）
10．屋外における造形表現活動の展開、情報機器の活用を考える
11．伝統玩具・知育玩具・ヨーロッパの玩具から手作り玩具のねらいやアイディアを学ぶ
12．製作活動の材料や展開方法の紹介と製作の実際
13．製作活動の展開方法（前回の製作の手順説明書作成から指導案へ）
14．壁面構成やカード製作（これまでの製作物を活用）
15．模擬保育（玩具を用いた保育の展開）・まとめ

Ⅲ．講義の進め方

・講義と手作りおもちゃ・絵画製作等
・実際におもちゃに触れて（コロナ禍のため、状況を見ながら）乳幼児の姿、年齢に合った保育教材について講義する。

Ⅳ．試験と成績評価

・レポート提出（年齢にあった造形表現の理解、まとめ）60%、作品づくり・授業に取り組む姿勢・意欲 40%で評価する。

Ⅴ．授業外学修

・授業内で作製するものは、あくまで「このように作って行く」の例を経験していくので、作成中は常に「自分で実際に指導するなら指導案はどのように書く」「年齢によってどのような準備・進め方がいいか」をイメージしながら取り組むように

Ⅵ．使用教材

教科書　：適宜プリントを用意する。　　保育所保育指針　平成２９年告示　平成３０年施行
参考書　：毎月出版されている保育雑誌（プリプリ、保育とカリキュラム）　芳賀哲「作って・歌って・話して・遊ぶ　おはなし小道具」一声社　　ひかりのくに「造形あそび　０～５歳児」など
用　具　：工作の用具等を個々に準備する。（はさみ　のり　絵の具　油性マジック）

科目名	造形表現研究Ⅱ	教員名	竹田（たけだ） 洋一（よういち）	開講コース	造形表現	１年次	前期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・身近な素材から創意工夫を活かして製作し、ものづくりに興味や自信を持つことができる。
・乳幼児を惹きつける表現やコミュニケーションに主体的に取り組むことができる。
・保育の場面を想定し、製作したパペットを的確に操作して乳幼児を惹きつけることができる。
・保育の場面を想定し、導入・展開に活かす工夫をすることができる。
・大勢の乳幼児を前に、明瞭に伝わる発声やテンポ良く台詞や言葉を語ることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

１．多様な表現の理解、人形の種類・構造、授業展開グループ編成
２．表現の目的・内容と人形デザイン
３．表現と技法、材料と道具、人形の首を作る①：（彫刻）荒削り
４．表現と技法、材料と道具、人形の首を作る②：（彫刻）仕上げ
５．表現の材料理解、人形の首を作る③：大まかな布の貼り込み
６．表現の材料理解、人形の首を作る④：貼り込み・細部の仕上げ
７．表現作品の伝達性、首管・眼・鼻の製作
８．表現の材料理解、人形の体を作る①：布の裁断と縫製
９．表現の材料理解、人形の体を作る②：縫製仕上げ
10．舞台と表現効果、人形の組み立て①：眼・鼻・首管を首に取り付け、体を取り付ける
11．舞台と表現効果、人形の組み立て②：耳・尻尾等を作り接着する
12．演技と操作、人形の組み立て③：仕上げ、人形操作
13．人形操作・発声法：グループに分かれて練習する
14．乳幼児向けの表現の実際、発表：グループごとに演技する
15．乳幼児を惹きつける表現力、発表：実践に向けた演技

Ⅲ．講義の進め方

乳幼児の造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。本授業では、学びに深化を図るため、講義に加えて適宜実践的な演習（人形製作と演技）を取り入れ、授業を展開する。

Ⅳ．試験と成績評価

・授業への積極性や集中度・作品の工夫・完成度（70%）
・人形劇発表（30%）

Ⅴ．授業外学修

・本、演劇、映画、絵画、音楽等に親しみ感性を豊かにすることが大切。
・事前に、人形の作り方プリントで当日の進行や、全体像を知り授業に参加することで、完成形をイメージし作業内容を理解し創造的になります。

Ⅵ．使用教材

教科書　：なし
参考書　：適宜、プリントを用意する

科目名	造形表現研究Ⅲ	教員名	山田（やまだ）　英吉（えいきち）	開講コース	造形表現	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

特に本授業では、乳幼児の造形表現活動を設定し支援する保育者の知識・感性・発想力・技能などの資質向上を図る。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑭海洋資源　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．乳幼児の発達や環境と造形表現活動、美術教育としての造形表現（幼小接続を踏まえて）、様々な素材や道具類と造形表現技法
2．紙を素材とした造形表現（紙の特性と技法）
3．紙を素材とした造形表現（立体構成：イメージ表現）
4．紙を素材とした造形表現（カーネーション）
5．紙を素材とした造形表現（マーブリングした紙から海の生き物製作へ）
6．紙を素材とした造形表現（設定保育の指導案と模擬保育「魚釣りゲームから集団製作・壁面展示へ」）
7．紙を素材とした造形表現（紙容器から動くペーパークラフト）
8．紙を基本素材とした造形表現（動物のオブジェ）
9．紙を基本素材とした造形表現（モビールとは・デザイン立案・立体パーツ製作）
10．紙を基本素材とした造形表現（モビールの立体パーツ製作）
11．紙を基本素材とした造形表現（モビールの組立・展示）
12．粘土を素材とした造形表現（デザイン、米粉粘土の作り方）
13．粘土を素材にした造形表現（装飾・ケースの組み立て）
14．粘土を素材にした造形表現（パーツ製作）
15．粘土を素材とした造形表現（組み立て・完成、評価）

Ⅲ．講義の進め方

様々な素材との触れ合いの中で、様々な表現活動が展開される。表現のための基礎能力を高め、創意工夫する力を育てていく。対象としっかり向き合う創作活動によって、指導者としての力も高まる。

創作活動は、個人の取組と集団での取組の両方を取り上げる。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（30%）

レポートや小課題等の提出物、発表等による知識・理解、技能、創意工夫、完成度の総合的評価（70%）

Ⅴ．授業外学修

創意工夫がある表現のためには予習や事前準備が有効である。アイディア不足や制作の進度に遅れがある場合には、自主的に授業外の取組を行い、遅れを取り戻すことが不可欠である。

Ⅵ．使用教材

参考書　：保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）・・・適宜使用

その他　：必要に応じて適宜紹介するとともに参考資料等を配布する

科目名	造形表現研究Ⅳ	教員名	山田　英吉（やまだ　えいきち）	開講コース	造形表現	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

特に本授業では地域や保育施設内外の環境を活かし、乳幼児の造形表現活動を設定し支援するための資質向上を図る。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科等とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性および乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑭海洋資源　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

1．地域の素材を用いた造形表現
2．風と空の造形表現（環境と造形表現：凧の歴史・デザイン）
3．風と空の造形表現（連結平面凧）
4．風と空の造形表現（凧揚げ・ＩＣＴ：記録・安全管理）
5．木を素材とした造形表現（素材と安全な加工法、デザイン）
6．木を素材とした造形表現（組み立て）
7．様々な素材を用いた造形表現（インスタレーション・ＩＣＴを活用した表現）
8．様々な素材を用いた造形表現（リース：自然物）
9．様々な素材を用いた造形表現（保育室を飾るリース）
10．様々な素材を用いた造形表現（リースのパーツ）
11．様々な素材を用いた造形表現（リースの組立、展示）
12．様々な素材を用いた造形表現（版画：下図）
13．様々な素材を用いた造形表現（版画：版づくり）
14．様々な素材を用いた造形表現（版画：印刷）
15．まとめ・展示方法、造形表現の幼小接続

Ⅲ．講義の進め方

様々な素材との触れ合いの中で、様々な表現活動が展開される。表現のための基礎能力を高め、創意工夫する力を育てていく。対象としっかり向き合う創作活動によって、指導者としての力も高まる。

創作活動は、個人の取組と集団での取組の両方を取り上げる。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（30%）

レポートや小課題等の提出物、発表等による知識・理解、技能、創意工夫、完成度の総合的評価（70%）

Ⅴ．授業外学修

創意工夫がある表現のためには予習や事前準備が有効である。アイディア不足や制作の進度に遅れがある場合には、自主的に授業外の取組を行い、遅れを取り戻すことが不可欠である。

Ⅵ．使用教材

参考書　：保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）・・・適宜使用

その他　：必要に応じて適宜紹介するとともに参考資料等を配布する

科目名	身体表現演習Ⅰ	教員名	山田（やまだ）　克巳（かつみ）	開講コース	身体表現	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

乳幼児向けミュージカルの台本を取入れながら身体を使った表現、また個人に合った表現技法を伝えることを目的とするものである。「劇のおもしろさ、表現の楽しさ」をもっとも手軽な親しみやすい方法で味わいながら進めて行き、仲間作りと自己表現の手助けや応用になることが望ましい。

乳幼児向けミュージカルを中心に進めて行くが、受講する学生たちは大いに楽しみながら参加してほしい。

なお、身体表現演習Ⅱと特別研究の授業とリンクさせながら展開していく。

到達目標は以下のとおりである。

・総合的な制作力や表現力を身につけることができる。

・自己表現力が増し、表情に豊かさを生むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］乳幼児向けミュージカル台本を使い以下の事柄を順次応用する。

1．乳幼児向けミュージカル台本をみんなで読み合わせる。
2．基本表現法について。
3．乳幼児向けミュージカル台本の内容をさらに理解しよう。
4．台詞表現について。
5．声の出し方や滑舌の練習。
6．静の中の「動」、動の中の「静」について。
7．声（台詞）を観客に届ける意識。
8．言葉、セリフの意味を感じよう。
9．小道具を使って演技をしよう。
10．物語の 起承転結について考えよう。
11．感情表現について考えよう。
12．芝居の動きを考えよう。
13．台詞と動きを合わせてみよう。
14．小道具や大道具、衣装なども使って表現してみよう。
15．授業内発表

Ⅲ．講義の進め方

・特別研究と関連させながら行う。前半は、乳幼児向けミュージカルの中の演技の部分が中心となるが、身体表現演習Ⅱともリンクしているので、後半は総合的な内容に変化していく。

Ⅳ．試験と成績評価

・公演前のリハーサルが試験となる。

役を演じる以外の取り組み 30%　声の大きさ 20%　歌唱力 20%　演技力 30%

Ⅴ．授業外学修

・発声と滑舌の練習。

・公演を３回行う。

Ⅵ．使用教材

教科書　：乳幼児向けミュージカルの台本、音楽

参考書　：過去の作品の DVD

科目名	身体表現演習Ⅱ	教員名	藤井（ふじい）　綾子（あやこ）	開講コース	身体表現	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

ダンスは心身を解き放してリズムやイメージの世界に没入して踊ることが楽しい運動である。
仲間と交流して踊ったり発表し合ったり作品を創る楽しさや喜びを味わうもの。
ダンスには自由を表現する「創作ダンス」伝承された踊り「フォークダンス」「民謡舞踊」現代的リズム「リズムダンス（ジャズダンス・ヒップホップ）」古典舞踊では「クラッシックバレエ」「日本舞踊」などがある。
この講義では、現代的リズムを中心に学生自身が踊る喜び創作する楽しさを知るとともに乳幼児に表現する喜び・楽しさを伝え豊かな人間の成長につなげてもらえればと考えている。また、身体表現演習Ⅰと特別研究で取り組む乳幼児向けミュージカルの振りも創作し、より実践的な取り組みをしていく。

到達目標は以下のとおりである。
・いろいろな側面から乳幼児が興味を持つ動きを見つける。
・自ら教える事を理解し乳幼児に伝える方法を学ぶ。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］
１．基本動作の習得・・・身近な日常動作
２．基本動作の習得・・・リズムの取り方や動き
３．基本動作の習得・・・動きの特徴
４．基本動作の習得・・・イメージと動き
５．基本動作の習得・・・集団の動き
６．基本ダンスの習得
７．乳幼児向けミュージカルのダンスの創作
８．基本動作の応用・・・群の動きや空間の使い方
９．基本動作の応用・・・表現したいイメージと音楽
10．基本動作の応用・・・道具を使った動き
11．基本動作の応用・・・対極的な動き
12．基本動作の応用・・・隊形の変化
13．リズムダンスの創作
14．総合的な作品づくり１（2～3 分位の曲をグループに分かれ創作してみる）
15．総合的な作品づくり２（ひき続き 2～3 分位の曲をグループに分かれ創作してみる）

Ⅲ．講義の進め方

実技が中心でダンスの基本技術の習得ならびに、創作作品発表など学習していきたいと思う。
他の科目とリンクして進めるので、どの科目も欠席をせずに学んでほしい。

Ⅳ．試験と成績評価

実技試験（70%）
授業での取り組み姿勢及び授業参加状況（30%）

Ⅴ．授業外学修

・基礎的な動きをしっかり反復練習すること。
・リズムに乗りながら動きの多様性を考えてみる。
・難しく考えず楽しく動いてみる。使用する曲を何度も聴く。または動画を参考にする。

Ⅵ．使用教材

適宜、課題となる曲を用意する。

科目名	身体表現演習Ⅲ	教員名	弦巻（つるまき） 啓太（けいた）	開講コース	身体表現	２年次	前期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

演劇創作に取り組み、集団作業を通して自己の身体表現の拡張、また他者の身体表現を繊細に受容する能力を高め、保育に必要とされる視点や環境整備の力を獲得する。プロの俳優を目指す演技演習ではなく、演劇作品に現象として表れる演者や創作者の個性を発見し、尊重する、そうした作業が授業の目的である。

SDGs の視点として、目標４-c に該当する質の高い教員の輩出を目指すものとする。

到達目標は以下のとおりである。

・保育に必要な視点、表現能力を獲得する。
・他者と対話を試み、共同作業が可能である。
・自己の考えを主張し、他者の考えを同等に尊重できる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．身体表現① 発声、身体を使った表現。前期授業内容の解説。
2．身体表現② 少人数の班ごとに分かれ、身体表現を軸とした演劇の場面を創作。
3．身体表現③ 少人数の班ごとに分かれ、身体表現を軸とした短編演劇を創作。
4．身体表現④ 即興による対話劇を行う。
5．身体表現⑤ 即興による対話劇を行う。他者の表現と自己の表現を有機的に関連づける。
6．読解力① 戯曲の読み合わせ。他者の言葉に触れる。
7．読解力② 戯曲に書かれた構造から登場人物の有機的なつながりを発見する。
8．読解力③ 戯曲に書かれた構造、有機的な関連を演者として表現する。
9．身体表現⑥ ミザンスの整理⑴。読解力①～③で検討した内容が有効に表れる演技空間、方向性を考える。
10．身体表現⑦ ミザンスの整理⑵。読解力①～③で検討した内容が有効に表れる演技空間、方向性を考える。
11．身体表現⑧ 通し稽古を行う。
12．身体表現⑨ 前回の通し稽古の反省、検証、改善を行う。
13．身体表現⑩ 期末発表公演リハーサル。準備した各パートの検証を行う。
14．身体表現 11　期末発表公演を行う。
15．身体表現 12　期末発表公演を振り返り、初期にイメージした完成形との差異を検討する。

Ⅲ．講義の進め方

役者として発声練習や身体表現を体験し、同時に演出家として演劇作品づくりを行い、各テーマ、講義の要点を学んでいく。小作品の創作の後には必ず随時感想、検証の時間が設けられる。

保育士としての表現能力だけではなく、保育士として必要な「子供達の間で何が生まれているか」を見落とさない『目』を養うために、創造中も観客の視点を重要に扱う。

Ⅳ．試験と成績評価

成績評価は講義毎の達成率 20%、作品づくりでの協調性・責任感 35%、授業への意欲・発表 25%、本番、感想のレポート 20%で行う。

Ⅴ．授業外学修

クラス全体の人数に応じた脚本を選び、全員俳優として取り組みます。配布された脚本を講義の前日に見直し、講義後にも改めて復習する習慣を身につけましょう。

脚本の配布は５講義目を予定。

Ⅵ．使用教材

教科書　：講義ごとに必要な資料、脚本を配布。
参考書　：

科目名	身体表現演習Ⅳ	教員名	藤井（ふじい）　綾子（あやこ）	開講コース	身体表現	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

さまざまなダンスの要素を基本に保育・幼児教育の現場でダンスや遊びを創作し応用できるよう、学生自身が基礎的な力を身につけることを目標としている。

到達目標は以下のとおりである。
・集団を動かせる力を身につける。
・乳幼児の理解度を常に確認し指導することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］
１．基本ダンスの習得１（歩く、走る、回る の動作）
２．基本ダンスの習得２（振る、弾む、バランス系の動作）
３．小作品の創作１（歩く、走る、回る、振る、弾む、バランス系の動作を組み合わせ１つの動きを作る）
４．小作品の創作２（ひき続き 歩く、走る、回る、振る、弾む、バランス系の動作を組み合わせ１つの動きを作る）
５．乳幼児とリズムダンスの取り組み１（スキップ、ツーステップなどリズミカルな動作の習得）
６．乳幼児とリズムダンスの取り組み２（走る、大きなジャンプなどの動作の習得）
７．現代的リズムダンスの応用と創作１（1～6 の動作とヒップホップのリズムをとり入れ作品を作ってみる）
８．現代的リズムダンスの応用と創作２（ひき続き 1～6 の動作とヒップホップのリズムをとり入れ作品を作ってみる）
９．道具を使ってのダンスの取り組み　１ ポンポン初級
10．道具を使ってのダンスの取り組み　２ ポンポン中級
11．道具を使ってのダンスの取り組み　３ ポンポン応用
12．道具を使ってのダンスの取り組み　４ スカーフ初級
13．道具を使ってのダンスの取り組み　５ スカーフ応用
14．総合的な作品づくり１（基本動作をもとに各グループに分かれ幼児対象の振付を考え作品を作ってみる）
15．総合的な作品づくり２（ひき続き 基本動作をもとに各グループに分かれ幼児対象の振付を考え作品を作ってみる）

Ⅲ．講義の進め方

本講義ではさまざまなダンスの要素を取り入れ保育・幼児教育の現場で応用できるよう授業内容を展開し、ダンスを通して身体で表現する喜び楽しさを学ぶ。

Ⅳ．試験と成績評価

実技試験（70%）
授業での取り組み姿勢及び授業参加状況（30%）

Ⅴ．授業外学修

・基礎的な動きを工夫してみる。
・作品づくりにおいてテーマにふさわしい動きをみつけることと表したい内容を十分に表現してみる。
・積極的に参加する。使用する曲を何度も聴く。または動画を参考にする。

Ⅵ．使用教材

教科書　：適宜、課題となる曲を用意する。
参考書　：

科目名	音楽表現研究Ⅰ	教員名	新川（にいかわ）　聡子（さとこ）	開講コース	幼児音楽教育	１年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

リトミックの基礎的な内容の理解と技能を身に付けることを目的としている。

指導に必要とされるリズムについて、理論的にまた実践的に学び基礎的能力を養う。また、ダルクローズのリトミック理論について学ぶと同時に幼児に対しての指導方法を具体的に学び、指導に活かすことのできる基本的な技能を身に付ける。

3 歳児を対象とした指導法について実践的に学ぶ。指導に必要なリズムをステップやクラップを通して学び、体得する。ピアノ演奏法について実技を通して学ぶ。

到達目標は以下のとおりである。

・ダルクローズのリトミック理論の基礎的な内容を理解できる。

・3 歳児指導法、ピアノ演奏、リズムを体験して指導できる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育　⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

1．ガイダンス、楽しいリトミックの経験：導入
2．楽しいリトミックの経験：強弱、テンポ、空間、アクセント
3．楽しいリトミックの経験：基礎的な動き、基礎リズム、2 拍子
4．3 歳児を対象とした基本的なリズムの演奏法
5．3 歳児の基本的な指導法：前期または 1 学期の活動
6．3 歳児を対象とした応用的なリズムの演奏法
7．3 歳児の基本的な指導法：前期＋後期または 2 学期の活動
8．楽しいリトミックの経験：基礎リズムと単純拍子によるリトミックの実践Ⅰ
9．3 歳児の基本的な指導法：後期または 3 学期の活動
10．リズムの演奏法：3 歳児を対象とした指導法の振り返り
11．楽しいリトミックの経験：拍子とシンコペーションによるリトミックの実践Ⅱ
12．3 歳児指導法の総括
13．楽しいリトミックの経験：リズムカノン、リズムフレーズ、拍子
14．リズムの演奏法：3 歳児の年間指導計画
15．リトミックの基礎的な理論とダルクローズについて

Ⅲ．講義の進め方

３歳児指導法のテキストを用いて、実践的に学ぶ。指導に必要なリズムをステップやクラップを通して学び、体得する。ピアノ演奏法を伴い学ぶ。動きやすい服装で受講すること。

また、一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験（技能試験）（70%）、毎回の授業の参加態度（30%）で行う。

Ⅴ．授業外学修

授業の進行に合わせて、予習、復習内容を適時指示する。教科書を読んだ上で、疑問や理解出来なかった点を、事前にノートに書き出して出席すると理解が深まる。

Ⅵ．使用教材

教科書　：幼稚園・保育園のためのリトミック 3（リトミック研究センター編）

教材　　：スティック１セット、カラーボード１セット、資格認定試験リズム課題 CD

科目名	音楽表現研究Ⅱ	教員名	新川（にいかわ）　聡子（さとこ）	開講コース	幼児音楽教育	１年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

リトミックの応用的な内容の理解と技能を身に付けることを目的としている。

指導に必要とされるリズムについて、理論的にまた実践的に学び基礎的能力を養う。また、ダルクローズのリトミック理論について学ぶと同時に、幼児に対しての指導方法を具体的に学び、指導に必要な技能を身に付ける。

4・5 歳児を対象とした指導法について実践的に学ぶ。指導に必要なリズムをステップやクラップを通して学び、体得する。ピアノ演奏法について実技を通して学ぶ。

到達目標は以下のとおりである。

・ダルクローズのリトミック理論について理解できる。

・4・5歳児指導法、ピアノ演奏、リズムを体験して指導できる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育、⑯平和

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

１．4歳児の基本的な指導法：前期または1学期の活動
２．4歳児の基本的な指導法：前期＋後期または2学期の活動
３．楽しいリトミックの経験：リズムカノンと３拍子によるリトミックの実践Ⅰ
４．4歳児を対象とした基本的なリズムの演奏法
５．4歳児の基本的な指導法：後期または3学期の活動
６．5歳児の基本的な指導法：前期または1学期の活動
７．楽しいリトミックの経験：リズムパターンと４拍子によるリトミックの実践Ⅱ
８．5歳児を対象とした基本的なリズムの演奏法
９．5歳児の基本的な指導法：前期＋後期または2学期の活動
10．5歳児の基本的な指導法：後期または3学期の活動
11．楽しいリトミックの経験：複合拍子によるリトミックの応用Ⅰ
12．4・5歳児の指導法の総括
13．楽しいリトミックの経験：ostinatoによるリトミックの応用Ⅱ
14．5歳児を対象とした応用的なリズムの演奏法
15．リトミックの理論とダルクローズについて

Ⅲ．講義の進め方

４，５歳児指導法のテキストを用いて、実践的に学ぶ。指導に必要なリズムをステップやクラップを通して学び、体得する。ピアノ演奏法を伴い学ぶ。動きやすい服装で受講すること。

また、一部の授業回を遠隔で開講する場合がある。

Ⅳ．試験と成績評価

定期試験（技能試験）（70%）、毎回の授業の参加態度（30%）で行う。

Ⅴ．授業外学修

授業の進行に合わせて、予習、復習内容を適時指示する。教科書を読んだ上で、疑問や理解出来なかった点を、事前にノートに書き出して出席すると理解が深まる。

Ⅵ．使用教材

教科書　：幼稚園・保育園のためのリトミック４（リトミック研究センター編）
　　幼稚園・保育園のためのリトミック５（リトミック研究センター編）

参考書　：使用しない

科目名	音楽表現研究Ⅲ	教員名	新川（にいかわ）　聡子（さとこ）	開講コース	幼児音楽教育	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

特に本授業では、乳幼児の主体的な表現を促すような楽器や音具など音の出る素材を用いた音楽表現の活動を設定し、援助する保育者の知識・感性・発想力・技能などの資質向上を図る。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、５領域それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

１．乳幼児の発達や環境と音楽表現活動、音楽教育としての音楽表現（幼少接続を踏まえて）
２．楽器を用いた音楽表現の事例、
３．楽器を用いた音楽表現：楽器の探求
４．楽器を用いた音楽表現：器楽演奏
５．楽器を用いた音楽表現：幼児の表現活動への展開
６．楽器を用いた音楽表現：手作り楽器の考案
７．楽器を用いた音楽表現：手作り楽器の製作
８．楽器を用いた音楽表現：手作り楽器による演奏と遊びの考案
９．活動の振り返りと音楽表現への発展の考察
10．環境構成と音遊び：音遊びの事例、計画
11．環境構成と音遊び：音素材の収集
12．環境構成と音遊び：音遊びのデザインと構成、指導案の作成
13．環境構成と音遊び：音遊びの準備
14．環境構成と音遊び：幼児との実践の展開
15．活動の振り返りと ICT を活用した指導案の再構築

Ⅲ．講義の進め方

演習を中心に、適宜、講義を混ぜて展開する。

動きやすい服装で受講すること。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（10%）、レポートや小課題等の提出物（30%）、

活動等における知識・理解、技能、創意工夫、表現力の総合的評価（60%）

Ⅴ．授業外学修

授業の進行に合わせて、予習、復習内容を適時指示する。教科書を読んだ上で、疑問や理解出来なかった点を、事前にノートに書き出して出席すると理解が深まる。

Ⅵ．使用教材

参考書：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）、その他必要に応じて適宜紹介するとともに参考資料等を配布する。

科目名	音楽表現研究Ⅳ	教員名	新川（にいかわ）　聡子（さとこ）	開講コース	幼児音楽教育	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

特に本授業では、乳幼児がイメージを豊かにし、音楽に親しみ、表現の楽しさを味わうことができるよう、さまざまな音楽表現の方法を設定し援助する保育者の知識・感性・発想力・技能などの資質向上を図る。

到達目標は以下のとおりである。

・領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点並びに全体構造を理解している。
・養護及び教育に関わる保育の内容が、５領域それぞれに関連性を持つことを理解し、評価の考え方、小学校の教科とのつながりを理解している。
・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
・領域「表現」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
・指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成するとともに、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［後期］

１．オリエンテーション、物語と音楽：CD/DVD 鑑賞
２．物語と音楽：さまざま音・音楽の表現の可能性、
３．物語と音楽：即興表現、リトミックを活かした活動
４．物語と音楽：計画（物語の選定と構想、役割分担）
５．物語と音楽：場面のイメージと音・音楽の構成（前半）
６．物語と音楽：場面のイメージと音・音楽の構成（後半）
７．物語と音楽：リハーサル、指導案の作成
８．物語と音楽：発表
９．活動の振り返り（評価）、ICT を活用した指導案の再構築
10．保育現場での音楽会：構想
11．保育現場での音楽会：練習、指導案の作成
12．保育現場での音楽会：リハーサル
13．保育現場での音楽会：実施
14．活動の振り返り（評価）、ICT を活用した指導案の再構築
15．学習の振り返りと保育への展開期］

Ⅲ．講義の進め方

演習を中心に、適宜、講義を混ぜて展開する。動きやすい服装で受講すること。

Ⅳ．試験と成績評価

授業への参加意欲・態度の評価（10%）、レポートや小課題等の提出物（30%）、
活動等における知識・理解、技能、創意工夫、表現力の総合的評価（60%）

Ⅴ．授業外学修

授業の進行に合わせて、予習、復習内容を適時指示する。教科書を読んだ上で、疑問や理解出来なかった点を、事前にノートに書き出して出席すると理解が深まる。

Ⅵ．使用教材

参考書：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
その他必要に応じて適宜紹介するとともに参考資料等を配布する。

科目名	保 育 実 践 演 習	教員名	各専任教員	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

保育者として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び 総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報から保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育者、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。これらを踏まえて自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る。

到達目標は以下のとおりである。

・保育にかかわる様々な領域における課題と解決への過程について関心を持つことができる。
・解決方法について個々の考え方、その根拠を述べることができる。
・他者の考え方を知り、議論し、より有効な解決方法や対処法を検討することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

③保健　④教育　⑧成長・雇用　⑮陸上資源

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］

［前期］

1．領域の課題の概要、活動方針、事例研究
2．保育の現場で求められる実践力の分析、考察
3．保育の現場の現状と課題の分析、考察
4．学びの振り返り、個別の関心領域と課題整理
5．領域の課題①：活動の立案、事例研究
6．領域の課題①：調査研究、資料収集
7．領域の課題①：分析と考察、表現等の発表
8．領域の課題①：発表、討議、指導助言
　領域の課題②：活動の立案、事例研究
9．領域の課題②：調査研究、資料収集
10．領域の課題②：分析と考察、表現等の発表
11．領域の課題②：発表、討議、指導助言
12．保育・教育実習に向けた個別の課題整理、設定
13．保育・教育実習に向けた領域の指導計画
14．領域の指導計画の発表
15．領域の指導計画の発表、個別指導・助言

［後期］

16．保育・教育実習の領域の学びと課題の振り返り
17．個別の成果と課題の振り返りのまとめ、発表
18．領域の課題③：活動の立案、事例研究
19．領域の課題③：事例研究、資料収集
20．領域の課題③：分析と考察、表現等の発表
21．領域の課題③：発表、討議、指導助言
　領域の課題④：活動の立案、事例研究
22．領域の課題④：調査研究、資料収集
23．領域の課題④：分析と考察、表現等の発表
24．領域の課題④：発表、討議、指導助言
　領域の課題⑤：活動の立案、事例研究
25．領域の課題⑤：調査研究、資料収集
26．領域の課題⑤：分析と考察、表現等の発表
27．領域の課題⑥：発表、討議、指導助言
28．活動のまとめ、成果の分析
29．課題解決の方法等のまとめ
30．１年間の活動成果報告会

Ⅲ．講義の進め方

教員より提示される領域の課題の中から選択し、分析・検討や意見の発表・討論などを行い、学習計画・指導教員の指示によりまとめを行う。なお、担当教員の専門領域により展開方法や内容に差異が生じるが、各担当教員から配布される授業計画に沿って、それぞれの視点から学んだことを演習相互で伝え合い、学び合う。

教員ごとに少人数のグループに分かれて、ゼミナール形式で個性ある授業を実施する。

Ⅳ．試験と成績評価

各専任教員の授業展開等により試験方法や成績評価方法は異なるが、評価規準は次のとおりである。

調査研究の成果（レポートや作品、発表・表現等の到達度：70%）、課題への取組姿勢（自主性、探求心、積極性等：30%）により、前期・後期の取り組みの結果に基づいて評価を行う。

Ⅴ．授業外学修

ゼミナールで取り組む課題や次の演習内容について、予習や事前準備をして臨むことが重要である。授業内で予定の内容を終了できない場合は不足分を補う取組を求める。

Ⅵ．使用教材

教科書　：　保育所保育指針、幼稚園境域要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
参考書　：　各担当教員がそれぞれに教科書・参考文献・教材の紹介と資料の配布などを行う。

科目名	保　育　実　習　Ⅰ	教員名	保育学科 専任教員	開　講	保育学科	1･2年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本実習は、保育士資格取得のための必修科目である。保育所や社会的養護施設、障がい児（者）関係施設の実習を通して、その役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。子どもや利用者の実態を理解するとともに、保育や支援に当たる保育士の活動を観察し、保育や養護について実践的に学ぶことを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。
・保育所や社会的養護施設、障がい児（者）関係施設の役割や機能を理解している。
・子どもや利用者との関わりを通して、保育、養護、支援等の実際を観察し記録することができる。
・保育士の業務内容や職業倫理、保育や支援の計画や評価について理解している。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：４単位］

［1年次保育実習（保育所）］
【実習期間】10日間
【実習時期】 8月下旬～9月初旬
【実習先】保育所
【主な実習内容】
・保育所の業務を体験したり子どもと関わったりして、子どもの発達について学ぶ。
・子どもとのコミュニケーションについて、実践を通して学ぶ。
・子ども理解に基づき、保育計画の立案と保育所の実践的な取り組みを観察する。
・実習日誌等の記録や指導担当者の助言をもとに、保育所の役割や機能を確認する。
・保育所が展開する地域の子育て支援事業等の活動を観察し、地域の子育て支援の取り組みやニーズなどを理解する。
・保育士としての業務・職業倫理を学び、自己目標を明確にする。

［1年次保育実習（施設）］
【実習期間】10日間
【実習時期】 2月下旬～3月初旬
【実習先】社会的養護施設、障がい児（者）関係施設
【主な実習内容】
・社会的養護施設、障がい児（者）関係施設での業務を体験し、利用者とのかかわりを通して支援の内容や方法について理解する。
・利用者とのコミュニケーションについて、実践を通して学ぶ。
・実習日誌等の記録や指導担当者の助言をもとに、社会的養護施設、障がい児（者）関係施設の役割や機能を確認する。
・社会的養護関係施設、障がい児（者）関係施設の地域における役割、具体的な活動内容を理解する。
・保育士としての業務・職業倫理を学び、自己目標を明確にする。

Ⅲ．講義の進め方

・保育所の実習は、原則として保護者住所（自宅）から通勤が可能な実習先を選択し、10日間の実習とする。
・施設の実習は、北海道内の社会的養護施設、障がい児（者）関係施設から実習先を選択し、原則として住み込みで10日間の実習とする。

Ⅳ．試験と成績評価

実習日誌の記述内容（20%）、実習先による評価（30%）、実習に必要な課題や提出物（30%）、実習の振り返り（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる学びを確認する。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項等を学習した後、実習先の基本情報を調べ必要な事前知識を習得する。また、実習指導案等を作成する。1時間30分程度もしくはそれ以上の事前学修時間を要する。
【事後学修】実習中は毎日実習終了後に実習日誌の記録を行う。実習期間終了後には実習全体の振り返りを記録する。その他提出課題等に取り組み、実習の成果と課題を明確にする。1時間30分程度もしくはそれ以上の事後学修時間を要する。

Ⅵ．使用教材

実習に係る書類や日誌等は、適宜配付する。

科目名	保育実習指導Ⅰ	教員名	保育学科 専任教員	開　講	保育学科	1･2年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本科目は、保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）の事前・事後学修として行われるものである。まず、事前学修として、実習に必要な基本的な知識や技能を習得するとともに、実習の目的や課題を明確にして準備を行う。次に、事後学修として、実習を通して保育士に必要な知識や技能を総括し、自己評価を経て２次年の課題を明確にすることを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。

・保育所や社会的養護施設、障害児（者）関係施設の機能や役割、子どもや利用者の理解に立つ保育の内容を理解している。
・保育および支援計画の基本的な考え方を理解し、実践を観察することができる。
・保育所や社会的養護施設、障害児（者）関係施設における保育士の業務内容や職業倫理を理解している。
・実習へ向けて自分なりの課題を設定することができる。
・実習の成果や自己評価を通し、２年次の課題を設定することができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①　貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：３０回］

1．実習に向けて①：実習の目的・意義（A: part1）
2．実習の実際①：保育所等の一日の流れ（A: part1）
3．実習の実際②：実習内容・実習生に求められるもの（A: part1）
4．実習の実際③：守秘義務・子どもの人権と最善の利益の考慮（A, B: part1）
5．実習に向けて②：実習課題の立て方・目標の作成（A: part1）
6．実習日誌の書き方①：観察の方法と記録（A: part2, B: part1）
7．実習日誌の書き方②：記録の実践（B: part1）
8．実習指導案の書き方①：作成方法・ポイント（A, B: part2）
9．実習指導案の書き方②：指導案の作成（B: part2）
10．実習に向けて③：実習オリエンテーションについて（A: part1,3）
11．保育現場の実際（※外部講師による特別講義）
12．実習に向けて④：実習の心構え・諸注意（A: part1）
13．実習を終えて：実習アンケート・自己評価（A: part3）
14．保育所実習の振り返り①：報告資料作成
15．保育所実習の振り返り②：２次年実習の検討
16．社会的養護施設、障害児（者）関係施設の見学
17．実習の概要・目的・意義（C: part1）
18．実習に向けて①：実習生に求められるもの，守秘義務（C: part1）
19．実習の実際①：社会的養護関係施設について（C: part1）
20．実習の実際②：さまざまな障害への理解（C: part1）
21．実習に向けて②：実習課題・目標の作成（C: part2）
22．実習の実際③：各施設の一日の流れと実習内容（C: part2）
23．実習日誌の書き方（C: part2）
24．実習に向けて③：実習の心構え・日々の振り返り（C: part2）
25．実習に向けて④：実習オリエンテーションについて（C: part1）
26．施設現場の実際（※外部講師による特別講義）
27．実習を終えて：実習アンケート・自己評価（C: part3）
28．施設実習の振り返り活動①：報告資料作成
29．施設実習の振り返り活動②：２次年実習の検討
30．今後の学習課題の明確化とレポート作成

Ⅲ．講義の進め方

前期は保育実習Ⅰ（保育所）、後期は保育実習Ⅰ（施設）の事前・事後学習を主に取り扱う。

Ⅳ．試験と成績評価

課題や提出物（50%）、レポートやグループワークでの発表内容（30%）、授業やグループワークへの参加状況（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】授業計画で示された使用教材の該当ページを事前に読んだうえで授業に参加すること。また、それぞれの実習に向けて基本的なマナーや心構えを身に付けておくこと。実習前に観察実習の目的や内容の理解を定着させることを目指し基礎的・基本的な知識や技能を身に付けておく。

【事後学修】授業で説明を聞いた後、実習に向けて必要書類を作成する。実習後の振り返りを通して、2 年次の実習へ向けて自分なりの実習課題を明確にする。

Ⅵ．使用教材

教科書　：以下の教科書名の末尾にある（A）～（C）は上記の授業計画で使用する教材と対応している。

・小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社[A)]
・同編著『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社[B)]
・同編著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社[C)]
・幼稚園教育要領　・保育所保育指針　・幼保連携型認定こども園保育・教育要領

科目名	保　育　実　習　Ⅱ	教員名	保育学科 専任教員	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本実習は、保育士資格取得のための必修科目である。1年次の保育実習で学びをもとに、目標や課題を明確にしてより実践的に保育に関わったり、子どもや保護者に対する理解を深めたりするとともに、保育・支援の内容や方法について学ぶことを目的とする。特に、保育指導計画の立案、教材等の作成、環境構成を行うことを通して、保育についてより具体的な学びとなることを目指す。

到達目標は以下のとおりである。
・関連する科目や実習を踏まえ、保育所の役割や機能について理解している。
・保育所の実態を捉え、子ども理解、子育て支援、 特別な教育的ニーズ等を理解している。
・保育指導の計画や方法・観察・記録及び自己評価等について実践し、必要な知識や技能を身に付けている。
・保育士の業務内容や職業倫理について理解している。
・実習を振り返り、自己目標や課題を明らかにしている。
＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位］

［2年次保育実習（保育所）］
【実習期間】10日間
【実習時期】7月下旬～8月上旬
【実習先】保育所
【主な実習内容】
1. 保育所の役割や機能、子育て支援の取り組みについて理解する。
2. 子どもの心身の状態や行動、保育士等との関わり、保育所の生活や支援の実際などについて、観察と参加を通して学ぶ。
3. 保護者・家庭への支援、地域社会や関係諸機関との連携のあり方について実践を通して学ぶ。
4. 保育指導計画を実践し、省察を通して改善する過程を体験する。
5. 保育士の業務と職業倫理について理解する。
6. 実習を通して、自己目標をより明確にする。

Ⅲ．講義の進め方

原則として保護者住所（自宅）から通勤が可能な実習先を選択し、10日間の実習を行う。

Ⅳ．試験と成績評価

実習日誌の記述内容（20%）、実習先による評価（30%）、実習に必要な課題や提出物（15%）、実習の振り返り（35%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】1年次に行った日誌の振り返りと実習課題を明確にする。1年次と異なる実習先の場合は、保育理念を十分に把握する。指導案の作成は他教科と並行して進め、設定保育用の指導案を数種類用意する。
【事後学修】実習中は毎日実習終了後に実習日誌の記録を行う。また、実習先担当教員の指導を仰ぎながら、指導案を完成させる。実習期間終了後には、礼状を書くと共に実習全体の振り返りを記録する。

Ⅵ．使用教材

実習に係る書類や日誌等は、適宜配付する。

科目名	保　育　実　習　Ⅲ	教員名	保育学科 専任教員	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本実習は、保育士資格取得のための必修科目である。1年次の保育実習で学びをもとに、目標や課題を明確にしてより実践的に保育や支援に関わったり、利用者の理解を深めたりするとともに、保育・支援の内容や方法について学ぶことを目的とする。特に、保育指導計画や支援計画の立案、教材等の作成、環境構成を行うことを通して、利用者支援についてより具体的な学びとなることを目指す。

到達目標は以下のとおりである。

・関連する科目履修や既習の実習を踏まえ、社会的養護施設、障害児（者）関係施設の役割や機能について理解している。
・社会的養護施設、障害児（者）関係施設の実態を捉え、家庭福祉、社会的養護、 障害児支援に対する理解を深め、保護者・家庭支援の重要性を理解している。
・支援の計画や方法・観察・記録及び自己評価等について実践し、必要な知識や技能を身に付けている。
・保育士や支援者の業務内容や職業倫理について理解している。
・実習を振り返り、自己目標や課題を明らかにしている。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位］

［2年次保育実習（児童福祉施設等）］

【実習期間】10日間

【実習時期】7月下旬～8月上旬

【実習先】社会的養護施設、障害児（者）関係施設

【主な実習内容】

1. 社会的養護施設、障害児（者）関係施設の役割と機能について理解する。
2. 子どもや利用者とのコミュケーションの取り方について観察と参加を通して学ぶ。
3. 各施設における多様な専門職や関係諸機関、地域社会との連携について実践を通して学ぶ。
4. 保育指導計画または支援計画を実践し、省察を通して改善する過程を体験する。
5. 保育士や支援者の業務と職業倫理について理解する。
6. 実習を通して、自己目標をより明確にする。

Ⅲ．講義の進め方

北海道内の社会的養護施設、障害児（者）関係施設の中から希望する実習先を選択し、原則として住み込みで10日間の実習を行う。

Ⅳ．試験と成績評価

実習日誌の記述内容（20%）、実習先による評価（30%）、実習に必要な課題や提出物（30%）、実習の振り返り（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】1年次に行った日誌の振り返りと実習課題を明確にする。1年次と異なる実習先の場合は、施設理念を十分に把握する。指導案の作成は他教科と並行して進め、設定保育用の指導案を数種類用意する。

【事後学修】実習中は毎日実習終了後に実習日誌の記録を行う。また、実習先担当教員の指導を仰ぎながら、指導案を完成させる。実習期間終了後には、礼状を書くと共に実習全体の振り返りを記録する。

Ⅵ．使用教材

実習に係る書類や日誌等は、適宜配付する。

科目名	保育実習指導Ⅱ	教員名	山田(英)・玉木 横関・秋月	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本科目は、保育実習Ⅱ（保育所）の事前・事後学修として行われるものである。保育所の機能や役割、子どもの発達の特性と生活や遊びの姿、保育者の実践的な取り組み、子育て支援と連携する取り組み等について、講義や演習を通して理解を深めることを目的としている。

到達目標は以下のとおりである。

・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解している。
・実習や既習科目の内容やその関連性を踏まえ、実践力を身に付けている。
・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学んでいる。
・保育士の専門性と職業倫理について理解している。
・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や改善を明確にまとめることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

１．①子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
　②実習の基本事項の確認、回答書配布・学生紹介カード最終確認
２．①子どもの保育と保護者支援　②領域別保育の立案：環境と造形表現、音楽表現、事例から学ぶ
３．①保育士の専門性と職業倫理　②模擬保育１の指導案立案
４．①保育の実践力の育成：子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
　②模擬保育１の準備：グループ別指導、指導案点検
５．①保育実践力の育成：環境に応じた設定保育　②模擬保育１：グループ別（１）
６．①保育実践力の育成：園行事と保育計画　②模擬保育１：グループ別（２）
７．模擬保育１：グループ別合評会、振り返り
８．①保育の実践力の育成：保育の知識・技術を活かした保育実践
　②保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
９．領域別保育の立案・模擬保育：言語・人間関係・健康の事例から学ぶ
10．①観察・記録・評価：日誌の作成　②実習先の環境を踏まえた保育の指導案立案
11．①保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善　②実習指導案の立案
12．模擬保育２：グループ別（１）
13．模擬保育２：グループ別（２）
14．模擬保育２：グループ別合評会、振り返り、実習に向けての事前準備
15．保育実習に関する要点の振り返り、自己評価と課題の明確化、実習報告会準備（実習終了後に実施する）

Ⅲ．講義の進め方

１年次の学びの上に、実習日誌の適切な記入方法や指導案作成・模擬保育に重点を置く。

Ⅳ．試験と成績評価

レポートやグループワークでの発表内容（50%）、実習に必要な課題や提出物（30%）、授業やグループワークへの参加状況（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】授業計画で示された使用教材の該当ページを事前に読んだうえで授業に参加すること。また、１年次の実習の成果と課題を再確認し、それぞれの実習の充実と自身の向上を目指して準備する。

【事後学修】授業で説明を聞いた後、実習に向けて必要書類を作成する。実習後の振り返りを通して、保育者に求められる資質・能力を高めるよう努力し、現場に立つ意識を積み上げていく。

Ⅵ．使用教材

教科書　：・幼稚園教育要領　・保育所保育指針　・幼保連携型認定こども園保育・教育要領
　・小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社
　・同編著『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社

参考書　：・必要に応じてプリントを配付する

科目名	保育実習指導Ⅲ	教員名	山田（克） 新川・穴水	開　講	保育学科	２年次	前　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本科目は、保育実習Ⅲ（施設）の事前・事後学修として行われるものである。社会的養護施設、障がい児（者）関係施設の機能や役割、利用者の障害や発達の特性、支援内容や方法の実践的な取り組み等について、講義や演習を通して理解を深めることを目的としている。

到達目標は以下のとおりである。

・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解している。
・実習や既習科目の内容やその関連性を踏まえ、実践力を身に付けている。
・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学んでいる。
・保育士の専門性と職業倫理について理解している。
・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や改善を明確にまとめることができる。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：１５回］

［前期］

１．①子どもや利用者の最善の利益を考慮した保育の具体的理解
　②実習の基本事項の確認、回答書配布・学生紹介カード最終確認
２．①子どもの保育と保護者支援　②福祉施設実習の指導案例から学ぶ
３．①保育士の専門性と職業倫理　②模擬保育１の指導案立案
４．①保育の実践力の育成：利用者の特性等に応じた適切な関わり
　②模擬保育１の準備：グループ別指導、指導案点検
５．①保育実践力の育成：環境に応じた設定保育　②模擬保育１：グループ別（1）
６．①保育実践力の育成：施設の行事と保育計画　②模擬保育１：グループ別（2）
７．模擬保育１：グループ別合評会、振り返り
８．①保育の実践力の育成：保育の知識・技術を活かした保育実践
　②保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
９．領域別保育計画案、福祉施設実習指導案事例から学ぶ
10．①観察・記録・評価：日誌の作成　②実習施設の環境を踏まえた指導案立案
11．①保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善　②実習指導案の立案
12．模擬保育２：グループ別（1）
13．模擬保育２：グループ別（2）
14．模擬保育２：グループ別合評会、振り返り、福祉施設実習に向けての準備（実習前の事前確認）
15．福祉施設実習に関する要点の振り返り、自己評価と課題の明確化、実習報告会準備（実習終了後に実施する）

Ⅲ．講義の進め方

１年次の学びの上に、実習日誌の適切な記入方法や指導案作成・模擬保育に重点を置く。

Ⅳ．試験と成績評価

レポートやグループワークでの発表内容（50%）、実習に必要な課題や提出物（30%）、授業やグループワークへの参加状況（20%）

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】授業計画で示された使用教材の該当ページを事前に読んだうえで授業に参加すること。また、1年次の実習の成果と課題を再確認し、それぞれの実習の充実と自身の向上を目指して準備する。

【事後学修】授業で説明を聞いた後、実習に向けて必要書類を作成する。実習後の振り返りを通して、保育者に求められる資質・能力を高めるよう努力し、現場に立つ意識を積み上げていく。

Ⅵ．使用教材

教科書　：・幼稚園教育要領　・保育所保育指針　・幼保連携型認定こども園保育・教育要領
　・小櫃智子編著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社
　・同編著『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社

参考書　：・必要に応じてプリントを配付する

科目名	教　育　実　習 <実　　習>※R４入学生用	教員名	保育学科 専任教員	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本実習は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。実習を通して、幼稚園の役割や機能し、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について学ぶ。子どもや利用者の実態を理解するとともに、保育や支援に当たる幼稚園教諭や保育教諭の活動を観察し、保育や養護について実践的に学ぶことを目的とする。

到達目標は以下のとおりである。

・関連する科目や実習を踏まえ、幼稚園や幼保連携型こども園の役割や機能について理解している。
・幼稚園や幼保連携型こども園の実態や子ども理解を基盤に、子育て支援、 特別な教育的ニーズ、保護者・家庭支援の重要性等を理解している。
・保育指導の計画や方法・観察・記録及び自己評価等について実践し、必要な知識や技能を身に付けている。
・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について理解している。
・実習を振り返り、自己目標や課題を明らかにしている。

<SDGs（持続可能な開発目標）との関連>
①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：４単位］

［１年次］※実施済み
【実習期間】5 日間
【実習時期】9 月上旬
【実習先】幼稚園、幼保連携型こども園
【主な実習内容】
・幼児教育の意義や目的を理解する。
・子どもの生活や幼稚園教諭・保育教諭の役割を観察し、子どもの興味関心、環境へのかかわり方、遊びの実態などを学ぶ。
・幼稚園や幼保連携型こども園の概要を把握し、その機能や役割を理解する。
・実習日誌の記入の仕方や記録の仕方を身に付ける。
・実習後は、実習をふり返り、新たな課題を見つけ２年次の実習に活かす。

［２年次］
【実習期間】15 日間
【実習期間】8 月下旬～9 月上旬
【実習先】幼稚園、幼保連携型こども園
【主な実習内容】
・幼稚園や幼保連携型こども園の特徴や幼稚園教諭・保育教諭の業務について理解する。
・指導案や課題の作成を通して、子ども理解、保育の内容や方法に対する理解、指導計画の意味、教材研究などを理解し実践する。
・子どもの動きや遊びの様子、保育者の役割を観察し、適切に記録するとともに実践に活かす。
・自らの実践を省察し、自己目標をより明確にする。

Ⅲ．講義の進め方

原則として保護者住所（自宅）から通勤が可能な実習先を選択し、1 年次 5 日間、2 年次 15 日間の実習を行う。

Ⅳ．試験と成績評価

「教育実習日誌」の記述内容（20%）、実習先による「教育実習評価」（30%）、実習に必要な課題や提出物（15%）を、教育実習事前事後指導評価（35%）と組み合わせて評価する。

Ⅴ．授業外学修

実習科目のため特に授業外学修の時間を設定しないが、実習に係る事前準備や教材研究【事前学修】、毎日の省察【事後学修】を通して、実習における自己の明確な目標を持ち、実践的な学びとなるよう努めること。

Ⅵ．使用教材

実習に係る資料や日誌等は、適宜配付する。

科目名	教　育　実　習 ＜指　　導＞※Ｒ４入学生用	教員名	保育学科 専任教員	開　講	保育学科	２年次	前・後期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

本科目は、教育実習の事前・事後指導として行われるものである。幼稚園・幼保連携型こども園の機能や役割、子どもの発達の特性と生活や遊びの姿、保育者の実践的な取り組み、子育て支援と連携する取り組み等について、講義や演習を通して理解を深めることを目的としている。

到達目標は以下のとおりである。

・教育実習の意義と目的を理解し、幼児教育について総合的に理解している。
・幼稚園や幼保連携型こども園の役割や機能、子どもの生活について理解している。
・保育の実践及び自己評価等を通して、実習日誌や指導案を作成することができる。
・実習の内容と方法を理解し、実践的な知識や技能を身に付けている。
・実習を振り返り改善点を検討し、幼稚園教諭や保育教諭の専門性と職業倫理について理解している。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞

①貧困　③保健　④教育　⑤ジェンダー

Ⅱ．授業計画［単位数：１単位、授業回数：３０回］

［１年次］※実施済み

1．オリエンテーション：教育実習とは何か
2．１年次教育実習の目的・意義
3．教育実習の形式と内容
4．実習園に関する事前学習①：実習園の決定
5．実習園に関する事前学習②：実習園の教育方針等
6．特別講義：幼稚園実習で望むこと
7．実習課題の立て方①：全体目標
8．実習課題の立て方②：個別目標
9．実習日誌の書き方①：デイリー記録について
10．実習日誌の書き方②：日誌記入の実践
11．指導案について①：指導案とは何か
12．実習心得について
13．実習の振り返り（自己評価・グループ討議）
14．２年実習報告会への参加学習
15．１年実習報告会

［２年次］

1．２年次教育実習の目的・意義
2．２年次実習の課題と目標
3．実習記録の書き方③：エピソード分析型記録について
4．実習記録の書き方④：エピソード分析型記録の実践
5．指導案作成と模擬保育①：健康
6．指導案作成と模擬保育②：人間関係
7．指導案作成と模擬保育③：環境
8．指導案作成と模擬保育④：言葉
9．指導案作成と模擬保育⑤：表現
10．指導案作成と模擬保育⑥：責任実習
11．実習心得について
12．実習の振り返り（自己評価・グループ討議）
13．実習報告会
14．幼稚園教諭に向けて①：実習から職場へ
15．幼稚園教諭にむけて②：指導計画・指導要録

Ⅲ．講義の進め方

１年次は、観察を主とした実習に必要な知識や技能など、初歩的な実践能力を身に付ける。
２年次は、前期は指導案や教材等の作成、後期は実習の振り返りに重点を置いて学習する。

Ⅳ．試験と成績評価

教育実習事前指導における提出物（15%）、事後指導における実習レポート（10%）、実習振り返りのグループワーク（10%）を、教育実習評価（65%）と組み合わせて評価する。

Ⅴ．授業外学修

【事前学修】毎回の授業内容に関する予習を行ってわからない点を明確にし、授業においての質問等で学修を深められるように準備すること。1年次の日誌を確認し、より洗練された日誌の書き方を研究する。また、昨年度の実習報告会の資料を参考にし、実習課題を明確にすること。

【事後学修】礼状の発送及び実習報告会のレジュメを作成し発表すると共に、実習報告会を通して保育者に求められる資質や能力及び専門知識や技能を理解し、その追求及び獲得に努めること。

Ⅵ．使用教材

教科書　：・幼稚園教育要領　・保育所保育指針　・幼保連携型認定こども園保育・教育要領
・小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社
・同編著『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社

参考書　：必要に応じてプリントを配布する。

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）	教員名	玉木　裕 横関　理恵	開　講	保育学科	２年次	後　期

Ⅰ．目的と内容および到達目標

これまで教職課程関連の科目で習得してきた知識や技能の総仕上げとして、演習を通して保育者としての実践力を高めることを目指している。また、講義や演習だけでなく、外部講師を招いて現場の指導を見聞する機会も設ける。これまで身に付けてきた資質や能力を、より実践的に高めることを目指す。

到達目標は以下のとおりである。
・幼稚園教育要領に基づく指導事項や内容を理解する。
・子どもの心理・発達論等を根拠とした指導法を検討し理解する。
・幼稚園教諭や保育教諭に求められる資質や能力を身に付ける。
・子どもや保護者への対応を含むコミュニケーションスキルを身に付ける。

＜SDGs（持続可能な開発目標）との関連＞
保健　④教育

Ⅱ．授業計画［単位数：２単位、授業回数：１５回］

［後期］
１．オリエンテーション（科目の趣旨及び到達目標の確認，履修カルテ（自己評価シート）の作成など）
２．幼児教育行政の現状と課題～北海道の取組から～（外部講師による講義）
３．幼児教育行政の現状と課題についてのグループワークとディスカッション及び発表
４．幼稚園を経営者の視点でみる（危機管理，保護者対応，教員研修等）
５．子どもたちの主体性を育てる園づくり（外部講師による講義）
６．子どもたちの主体性を育てる園づくりについてのグループワークとディスカッション及び発表
７．特別な支援を必要とする子どもたちへの対応（外部講師による講義）
８．特別な支援を必要とする子どもたちへの対応についてのグループワークとディスカッション及び発表
９．乳幼児期の人権保障・教育について考える
10．保育者の先輩に聞く①～クラス担任の仕事を知る～（外部講師による講義）
11．保育者の先輩に聞く②～教材研究と授業実践を知る～（外部講師による講義）
12．保育者の先輩に聞く①②についてのグループワークとディスカッション及び発表
13．集団制作の立案と実際
14．私たちが目指す保育・教員の専門性とは～どのような保育者になりたいか
15．まとめ（履修カルテ（自己評価シート）の完成を含む）及びレポート発表

Ⅲ．講義の進め方

講義を通じて得た学修を生かし、グループワークやディスカッション、ロールプレーイングなどを行う。また、授業を通じて学んだ成果や自分でリサーチしてきた内容を毎回リアクションペーパーとして提出するとともに，最終回にはレポートとしてまとめ、発表する。

Ⅳ．試験と成績評価

リアクションペーパーやレポートなどの内容（70%）、グループワークやディスカッション、ロールプレイ等の取組及び授業での発表内容（30%）で行う。

Ⅴ．授業外学修

○事前学修
・各回の講義テーマに関する学習課題を提示し、それに沿って事前学修を行って必要な知識をインプットする。さらに、調べ学習でわからない点について、授業での質問・グループワークで深められるよう事前準備を行う。

○事後学修
・各回の講義を受けた後，グループワークでのディスカッション等で学んだことをアウトプットする。また，講義で学んだことや活動で考えたことをリアクションペーパーに記載し、自ら省察を行う。それらの活動成果から、次の講義の事前学修につなげる。

○受講者に期待すること
・今、保育者に求められる資質や能力及び専門的知識や技能とは何か。これらの課題意識をしっかり持って、講義に臨むことを期待します。

Ⅵ．使用教材

授業の中で資料等を適宜配付する。また、幼稚園教育要領及び幼稚園教育要領解説等も活用する。